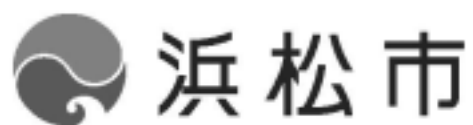


(平成21年6月実施)

第36回

市民アンケート調査報告書

— あなたと市政を結ぶ —



目次

I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査事項	1
3	調査実施概要	1
4	回収状況	1
5	報告書内のデータ記述について	1
6	回答者の属性	2

II 調査結果

1	あなたご存知ですか？	5
2	市民の地震への備えについて	8
3	ユニバーサルデザインについて	16
4	区協議会・地域協議会について	23
5	家庭の情報化について	27
6	健康はままつ21について	35
7	地球温暖化防止について	38
8	子育て支援について	46
9	市政の満足度評価について	56
10	市政への要望について	61

付録 調査票

I 調查概要

1 調査目的

本調査は、昭和 45 年度から始まり、48 年度、50 年度と行った後、52 年度以降は毎年実施し、本年度で 36 回目になる。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しているものである。

2 調査事項

- あなたはご存知ですか？
- ユニバーサルデザインについて
- 家庭の情報化について
- 地球温暖化防止について
- 市政の満足度評価について
- 市民の地震への備えについて
- 区協議会・地域協議会について
- 健康はままつ 21 について
- 子育て支援について
- 市政への要望について

3 調査実施概要

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満 20 歳以上の男女 3,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 平成 21 年 6 月 15 日～30 日
- (6) 調査機関 株式会社 浜名湖国際頭脳センター

4 回収状況

発送数	有効回収数	有効回収率
3,000 件	1,513 件	50.4%

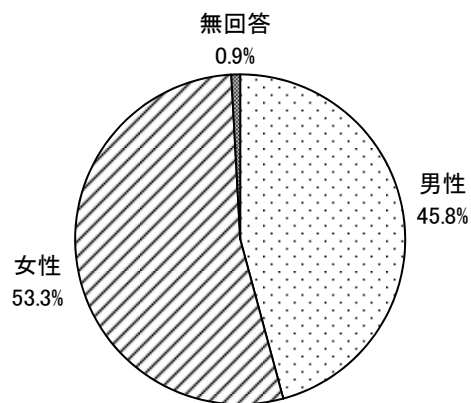
5 報告書内のデータ記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が 100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を 100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューター処理の都合上、省略している箇所がある。

6 回答者の属性

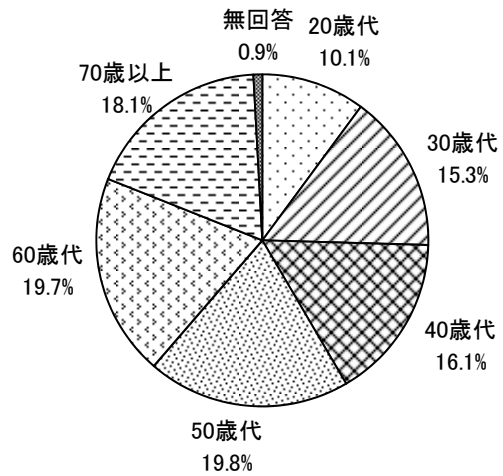
(1) 性別

N=1,513



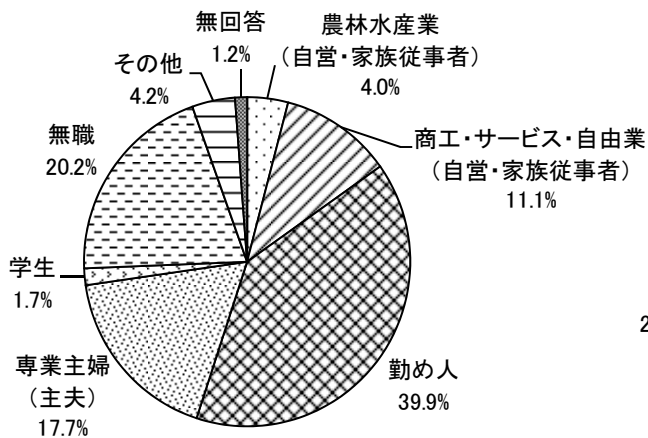
(2) 年代

N=1,513



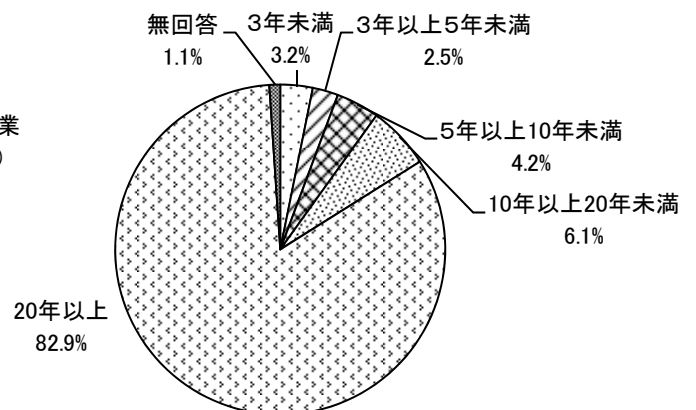
(3) 職業

N=1,513



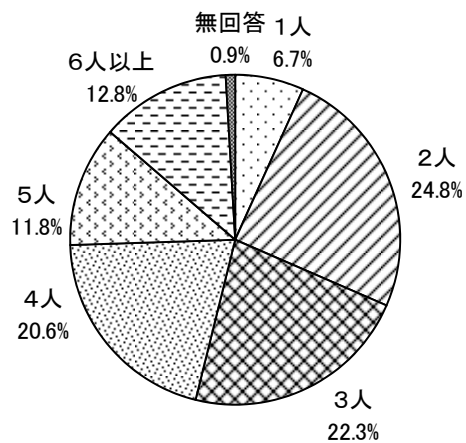
(4) 居住年数

N=1,513



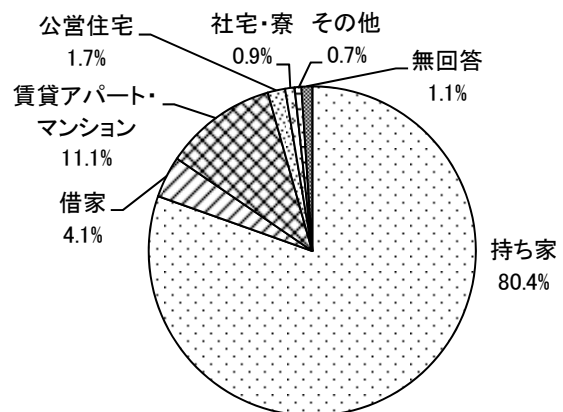
(5) 家族数

N=1,513



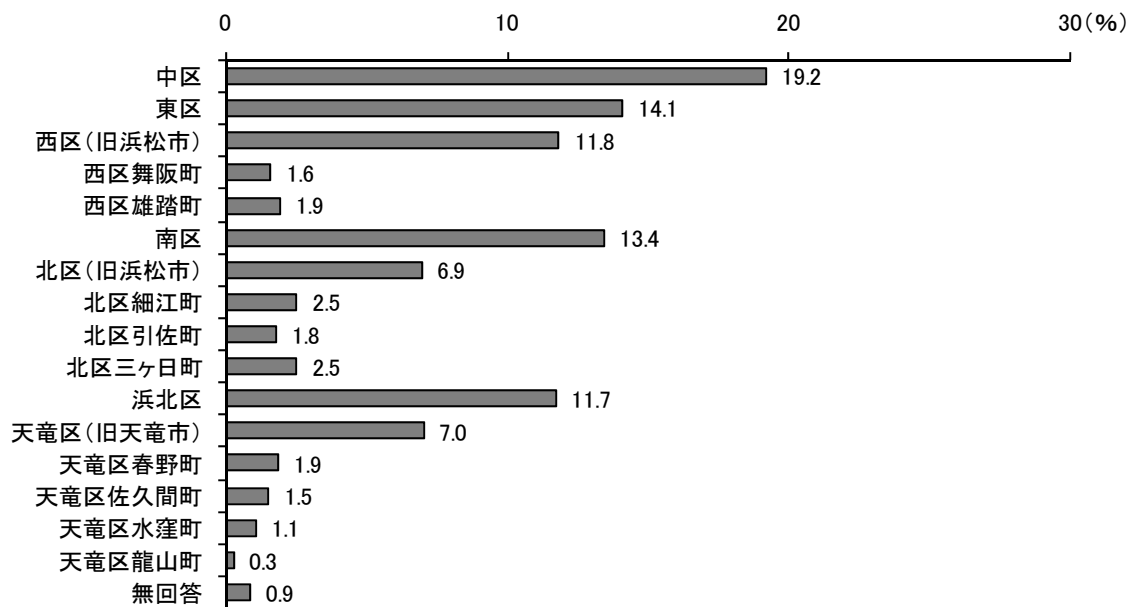
(6) 居住形態

N=1,513



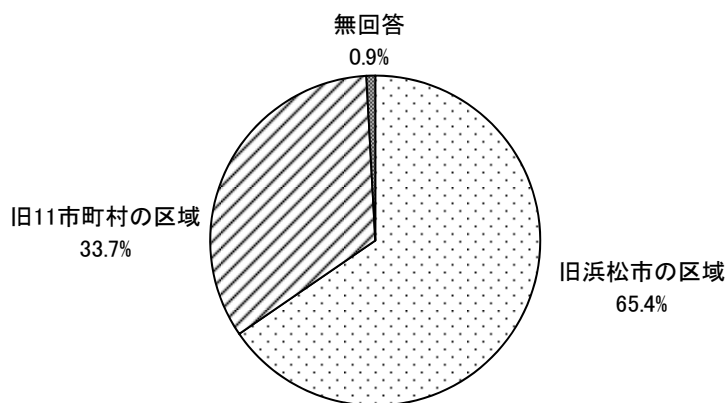
(7) 居住地区

N=1,513



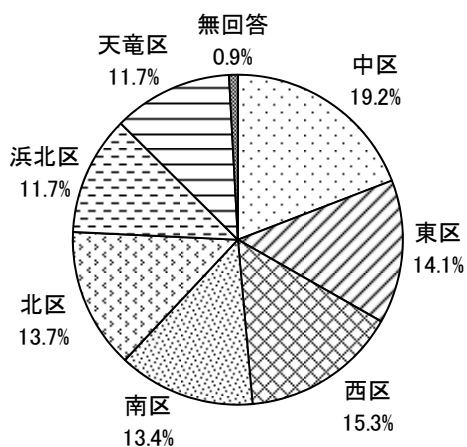
(8) 旧浜松市と旧11市町村

N=1,513

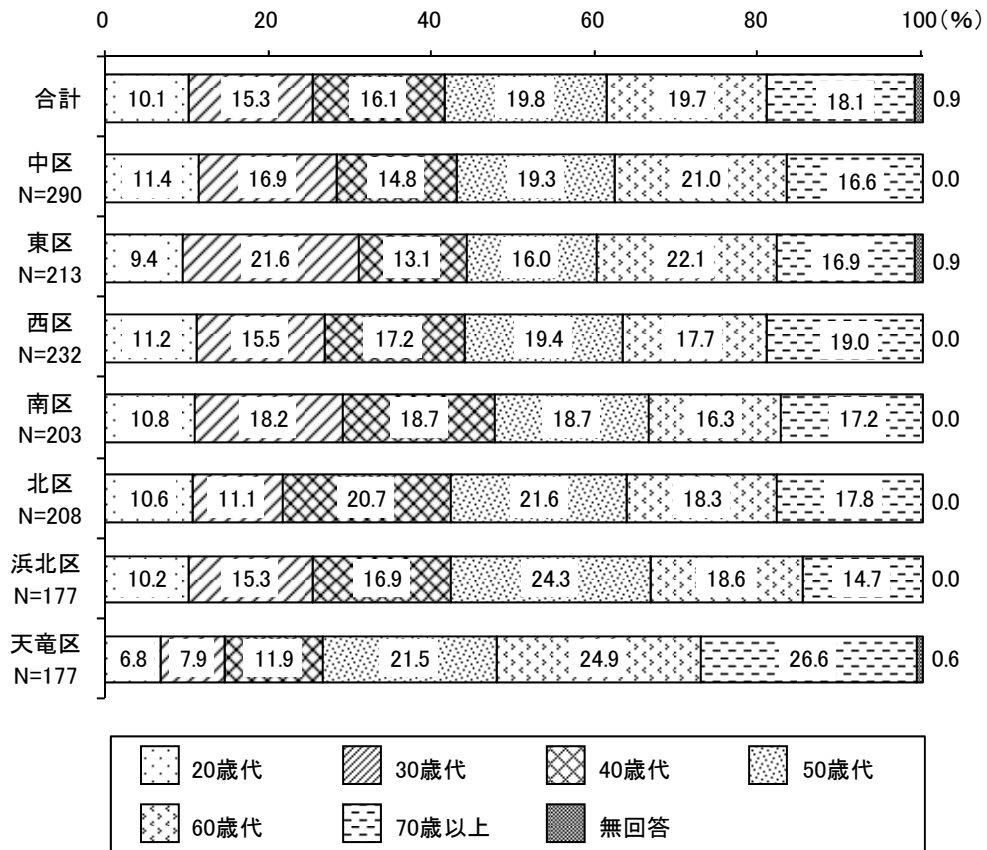


(9) 行政区

N=1,513



(10) 年代別行政区



II 調查結果

1 あなたはご存知ですか？

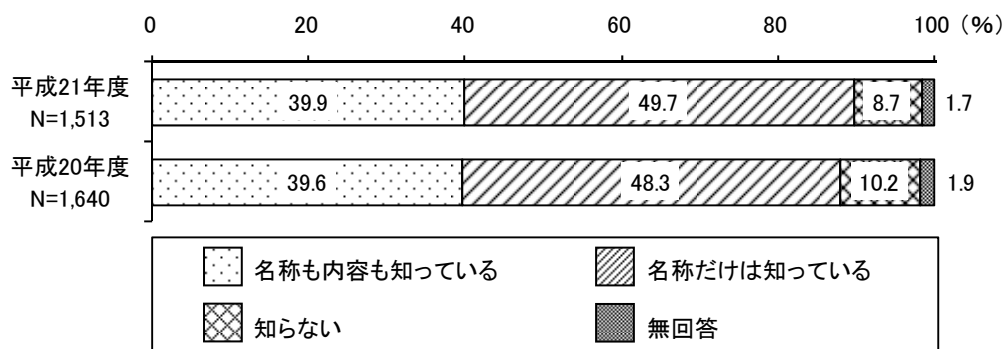
(1) 市の条例や施策などの認知度

問1 次の項目について、あなたはご存知ですか。

1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

①NPO

※民間の非営利組織で、自発的に公益的な活動を継続して行っている団体のこと。

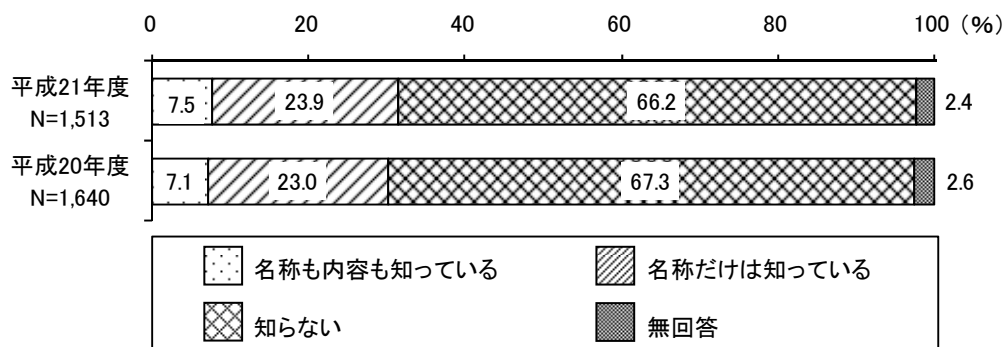


「名称も内容も知っている」が 39.9%、「名称だけは知っている」が 49.7%、「知らない」が 8.7%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 89.6%とおおよそ9割を占め、そのうち半数以上が内容までは知らない結果となっている。

前年度調査と比較すると、『認知度』（平成20年度：87.9%、平成21年度：89.6%）は1.7ポイント増加しているものの、ほとんど差はみられない。

②市民協働

※市民、市民活動団体、事業者および市が、互いの相違を認識し、それぞれの特性を生かしながら、市民が望むまちづくりを目指して、さまざまな観点や形態で協力して取り組むこと。

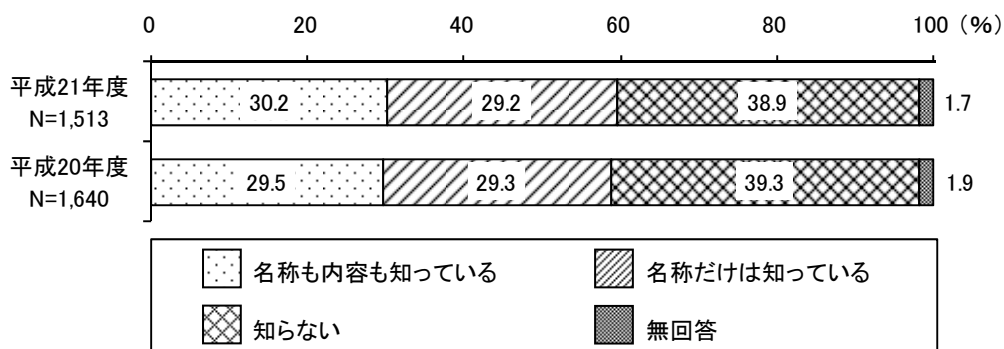


「名称も内容も知っている」が 7.5%、「名称だけは知っている」が 23.9%、「知らない」が 66.2%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 31.4%とおおよそ3割を占め、そのうち4分の3以上が内容までは知らない結果となっている。

前年度調査と比較すると、『認知度』（平成20年度：30.1%、平成21年度：31.4%）は1.3ポイント増加しているものの、ほとんど差はみられない。

③ 『浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例』（通称：市民マナー条例）

※歩きタバコ・ごみのポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例。

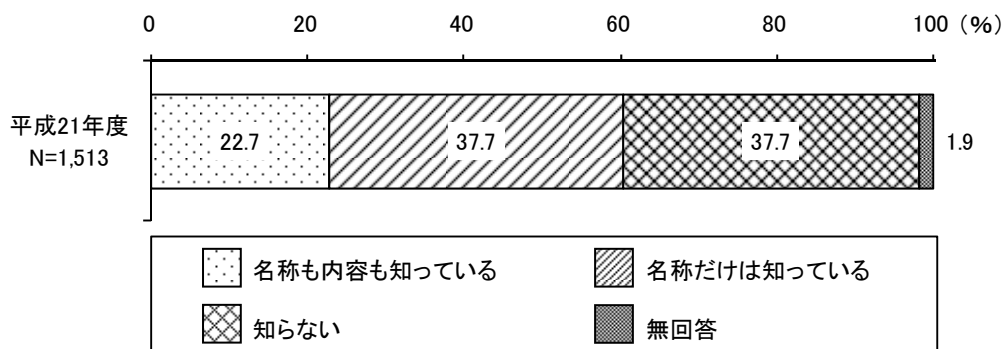


「名称も内容も知っている」が 30.2%、「名称だけは知っている」が 29.2%、「知らない」が 38.9%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 59.4%と、およそ 6 割を占め、そのうち内容の認知はおおむね半数となっている。

前年度調査と比較すると、『認知度』（平成 20 年度：58.8%、平成 21 年度：59.4%）は 0.6 ポイント増加しているものの、ほとんど差はみられない。

④ 『浜松市川や湖を守る条例』

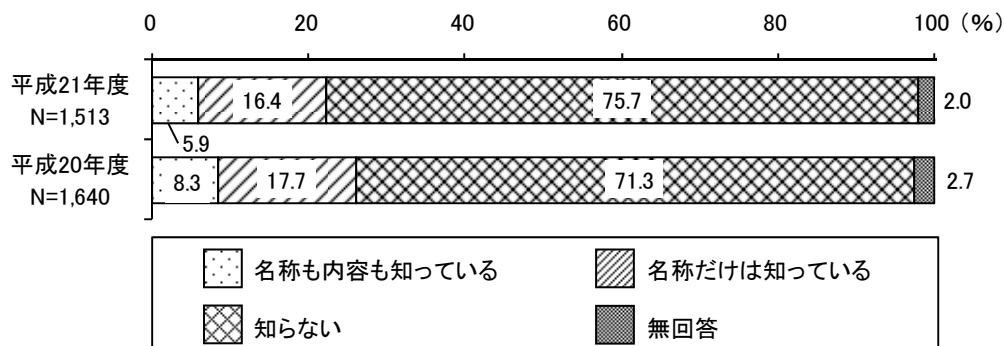
※市内にある天竜川や浜名湖など、美しく豊かな川や湖を次世代に継承するために、市民や事業者が守るべきこと、しなければならないことを定めた条例。



「名称も内容も知っている」が 22.7%、「名称だけは知っている」が 37.7%、「知らない」が 37.7%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 60.4%と、およそ 6 割を占め、そのうち半数以上が内容までは知らない結果となっている。

⑤『浜松市音・かおり・光環境創造条例』

※人に潤いや安らぎを与えてくれる音・かおり・光資源を保全するとともに、自らも人に不快感や嫌悪感を与える騒音、悪臭および光害の防止に取り組み、快適な生活環境創造のための条例。

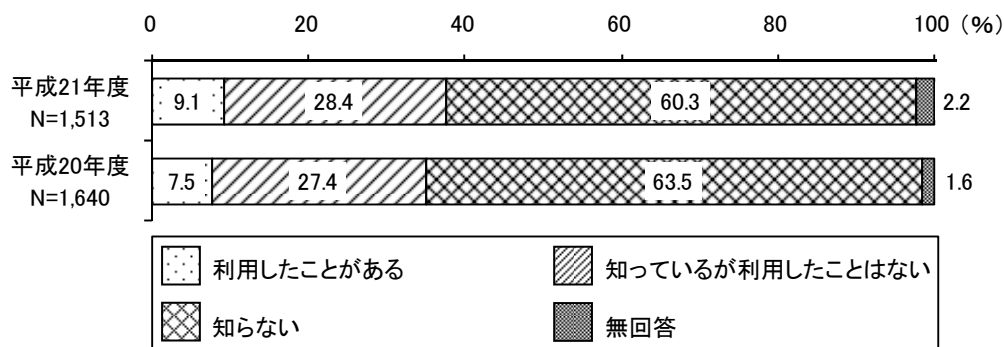


「名称も内容も知っている」が5.9%、「名称だけは知っている」が16.4%、「知らない」が75.7%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は22.3%と2割台にとどまり、そのうち7割以上が内容までは知らない結果となっている。

前年度調査と比較すると、『認知度』（平成20年度：26.0%、平成21年度：22.3%）は3.7ポイント減少している。

⑥スポーツ・文化施設予約システム「まつぼっくり」

※インターネットで公共施設の予約や空き状況の照会ができるシステム。



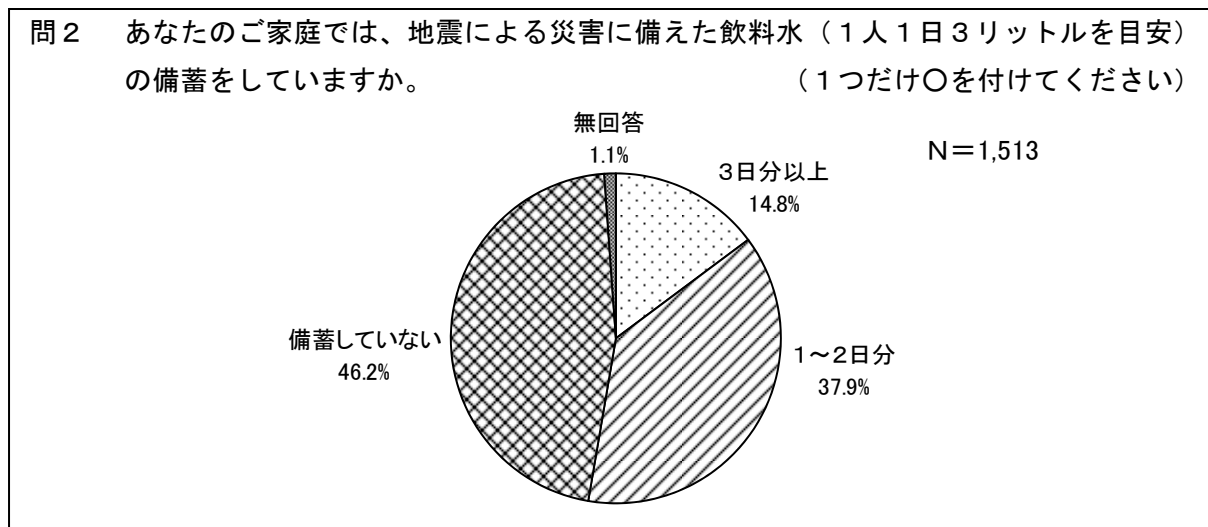
「利用したことがある」が9.1%、「知っているが利用したことはない」が28.4%、「知らない」が60.3%となっている。「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」を合わせた『認知度』は37.5%と3割台にとどまり、そのうち7割以上が利用したことはない結果となっている。

前年度調査と比較すると、『認知度』（平成20年度：34.9%、平成21年度：37.5%）は2.6ポイント増加している。

2 市民の地震への備えについて

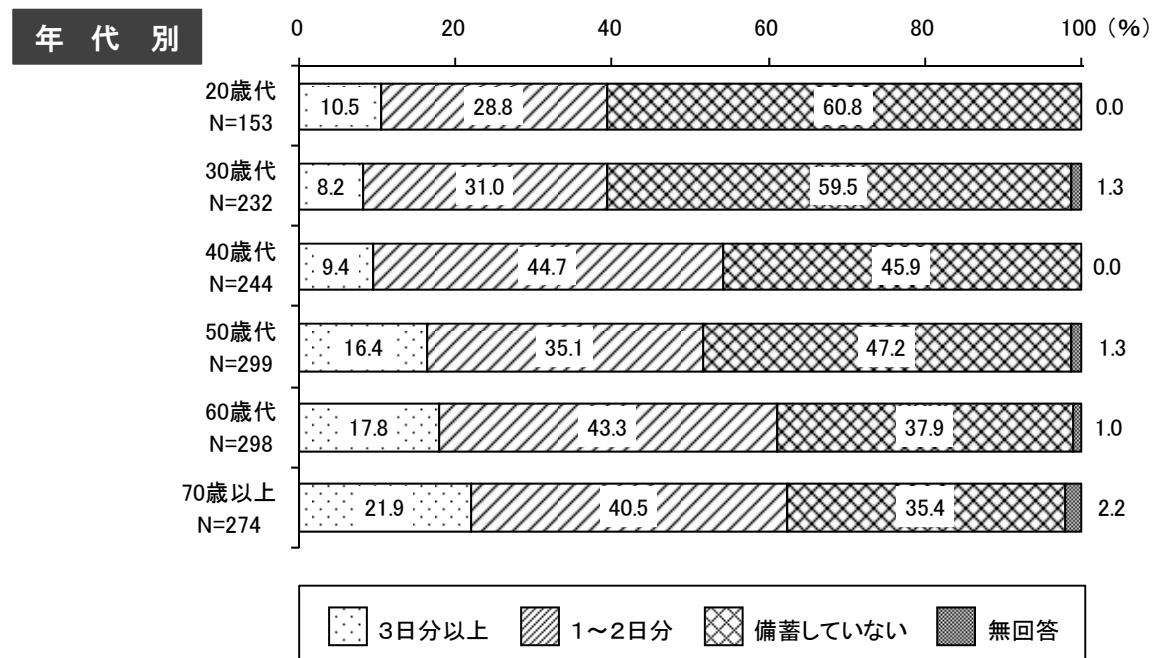
(1) 飲料水の備蓄

問2 あなたのご家庭では、地震による災害に備えた飲料水（1人1日3リットルを目安）の備蓄をしていますか。（1つだけ○を付けてください）



「3日以上」が14.8%、「1～2日分」が37.9%、「備蓄していない」が46.2%となっている。「3日以上」と「1～2日分」を合わせた『備蓄している』は52.7%と半数以上を占め、「備蓄していない」をわずかに上回っている。

年代別でみると、『備蓄している』は年代が高いほど多く、70歳以上が62.4%、60歳代が61.1%、50歳代が51.5%、40歳代が54.1%でいずれも半数以上となっているのに対し、30歳代は39.2%、20歳代は39.3%と4割未満となっている。

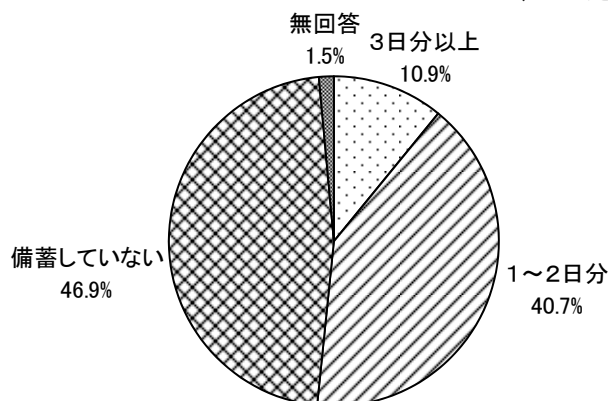


(2) 食料の備蓄

問3 あなたのご家庭では、地震による災害に備えた食料の備蓄をしていますか。

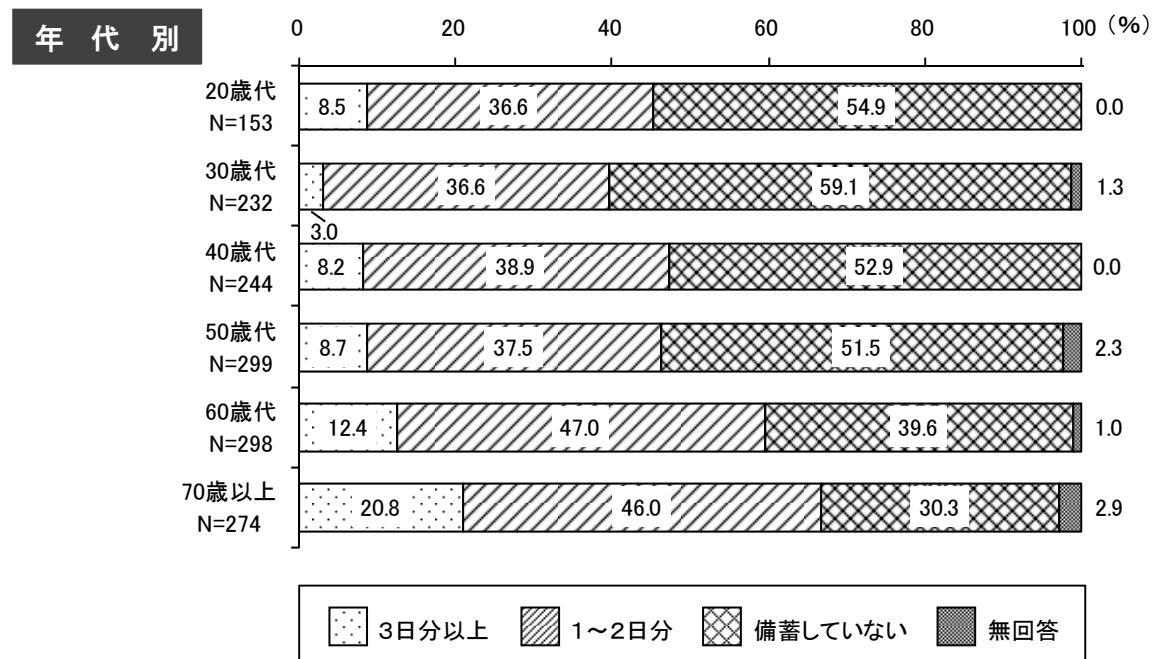
(1つだけ○を付けてください)

N=1,513



「3日分以上」が10.9%、「1~2日分」が40.7%、「備蓄していない」が46.9%となっている。「3日分以上」と「1~2日分」を合わせた『備蓄している』は51.6%と半数以上を占め、「備蓄していない」をわずかに上回っている。

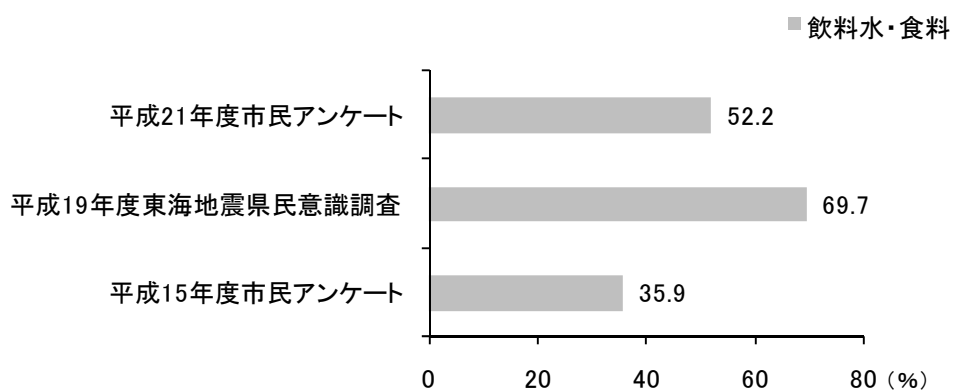
年代別でみると、『備蓄している』は60歳以上と50歳代以下で差がみられ、60歳代が59.4%、70歳以上が66.8%となっているのに対し、20歳代は45.1%、30歳代は39.6%、40歳代は47.1%、50歳代は46.2%と20歳代から50歳代ではいずれも半数以下となっている。飲料水の備蓄と同様、年代が高いほど備蓄している割合が高いのは、高齢者を中心に防災講座などを行った効果といえる。今後は、住宅購入年代である20~30歳代への啓発にも力を入れる必要がある。



【参考】

	浜松市	静岡県	浜松市	増減	
	平成 21 年度 市民アンケート	平成 19 年度 東海地震県民意識調査	平成 15 年度 市民アンケート	H21 市民－ H15 市民	H21 市民－ H19 県民
飲料水・食料	*52.2%	*69.7%	35.9%	16.3%	△17.5%
飲料水	52.7%	68.8%	－	－	△16.1%
食料	51.6%	70.5%	－	－	△18.9%

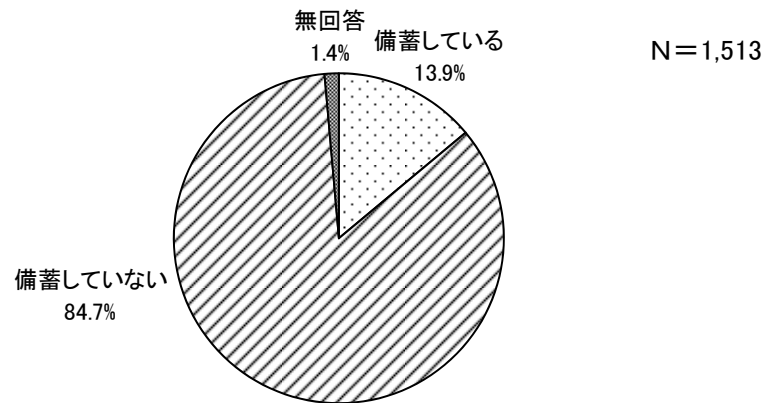
※平成 21 年度市民アンケートおよび平成 19 年度東海地震県民意識調査の「飲料水・食料」は、内訳（「飲料水」および「食料」）の平均



飲料水・食料の備蓄ともに、県全体よりも 15～20 ポイント低い。この明確な理由は不明であるが、「実感がわからない」や「3～5年の更新が必要で費用がかかる」ことが一因であると考えられる。しかし、平成 15 年度実施の市民アンケート調査との比較では、16.8 ポイント増加しており、市民の備蓄の向上がうかがえる。

(3) 簡易トイレの備蓄

問4 あなたのご家庭では、地震による災害に備えた簡単なトイレ用品（簡易トイレ、衛生袋など）の備蓄をしていますか。 (1つだけ○を付けてください)



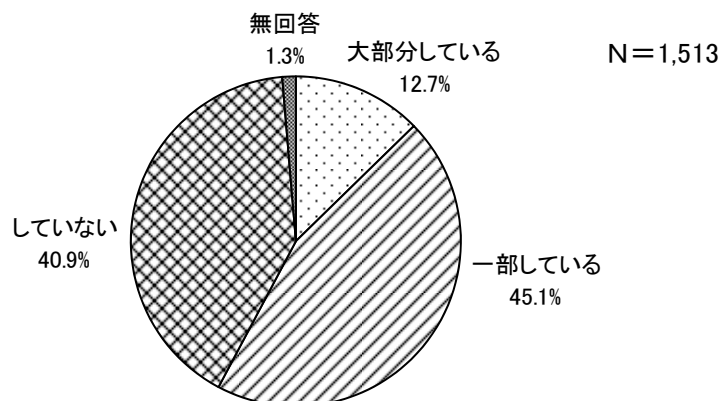
「備蓄している」が13.9%、「備蓄していない」が84.7%と、8割以上が災害に備えた簡単なトイレ用品を準備していないと回答した。

自由意見をみると、備蓄に対して「分かってはいるのだけど・・・」「やらなくてはいけないのだが・・・」など、“地震対策や備蓄の必要性は感じているができていない”という意見が多くみられた。また、“地震に対して緊張感や実感がわからない”という回答も多かった。本調査は、平成21年6月に実施し、その2カ月後の8月11日に市内で最大震度4の地震が発生した。そのため、危機感から備蓄の必要性を感じ、具体的に行動を起こした市民もいると思われる。なお、時間が経過するとその時の危機感も薄れていくため、8月の地震を教訓に、常に備蓄など地震対策の必要性を訴えていくことが必要といえる。

(4) 家具の転倒防止対策

問5 あなたのご家庭では、家具が転倒しないように固定などの対策をしていますか。

(1つだけ○を付けてください)

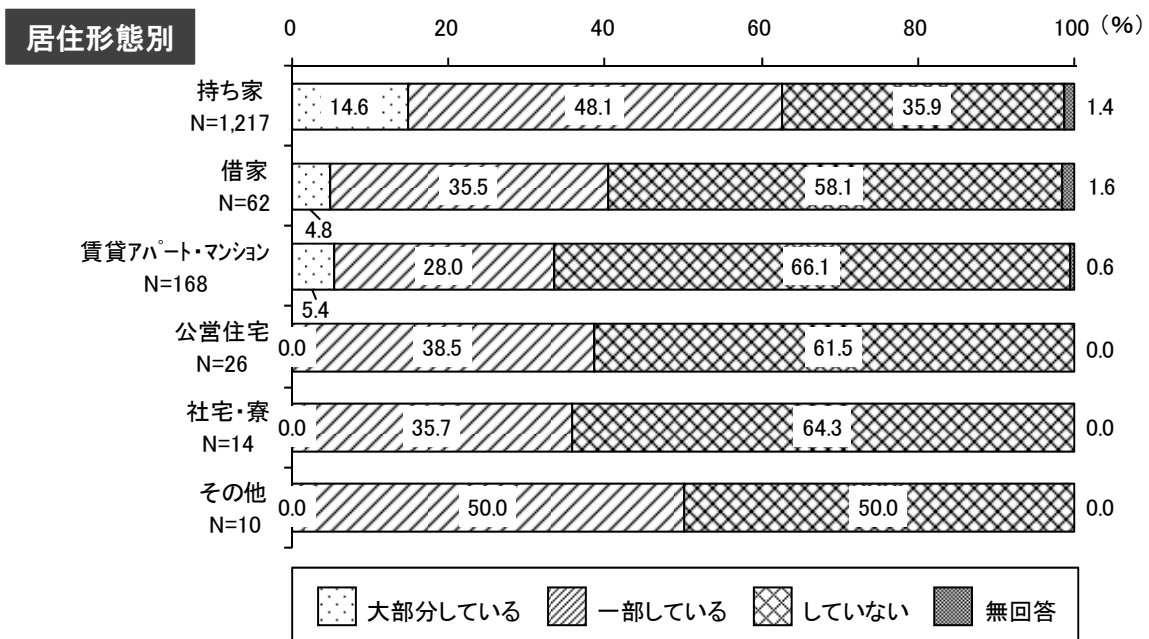
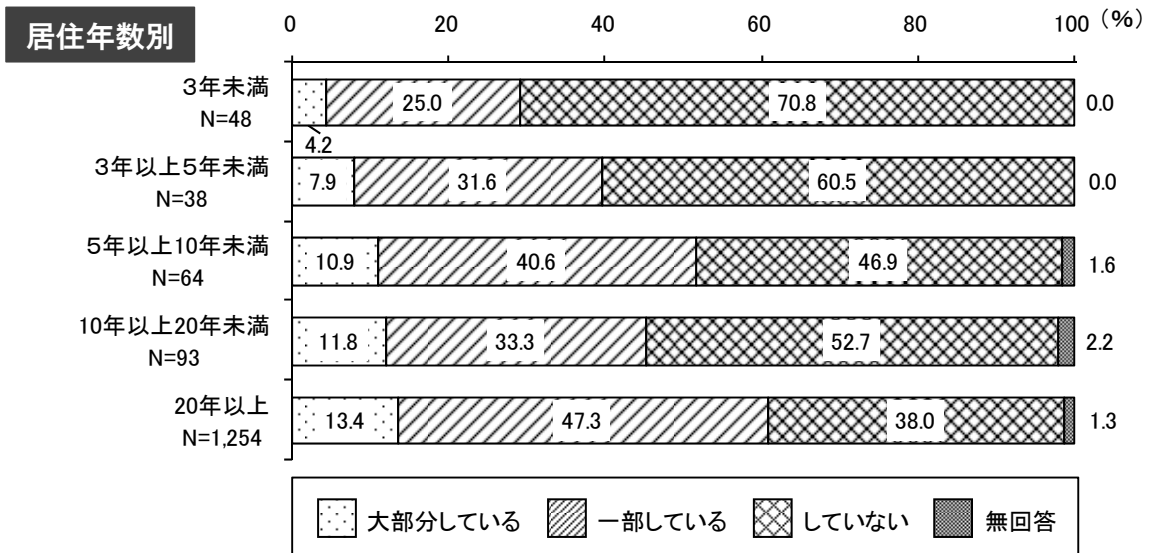
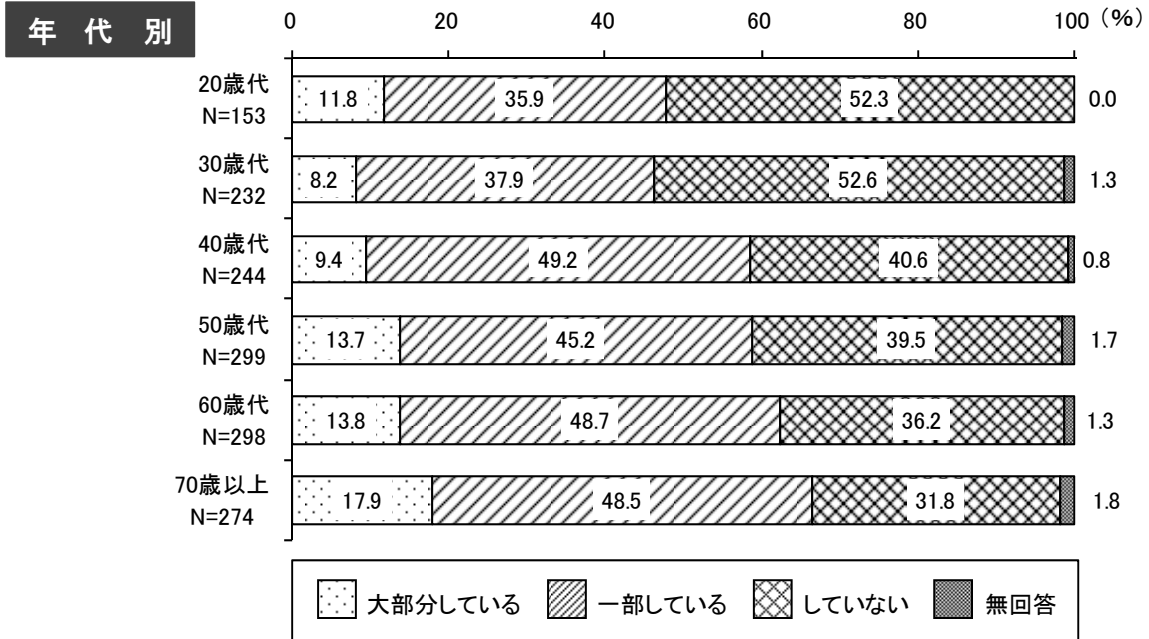


「大部分している」が 12.7%、「一部している」が 45.1%、「していない」が 40.9%となっている。「大部分している」と「一部している」を合わせた『固定対策をしている』は 57.8%と半数以上を占め、「していない」を上回っている。

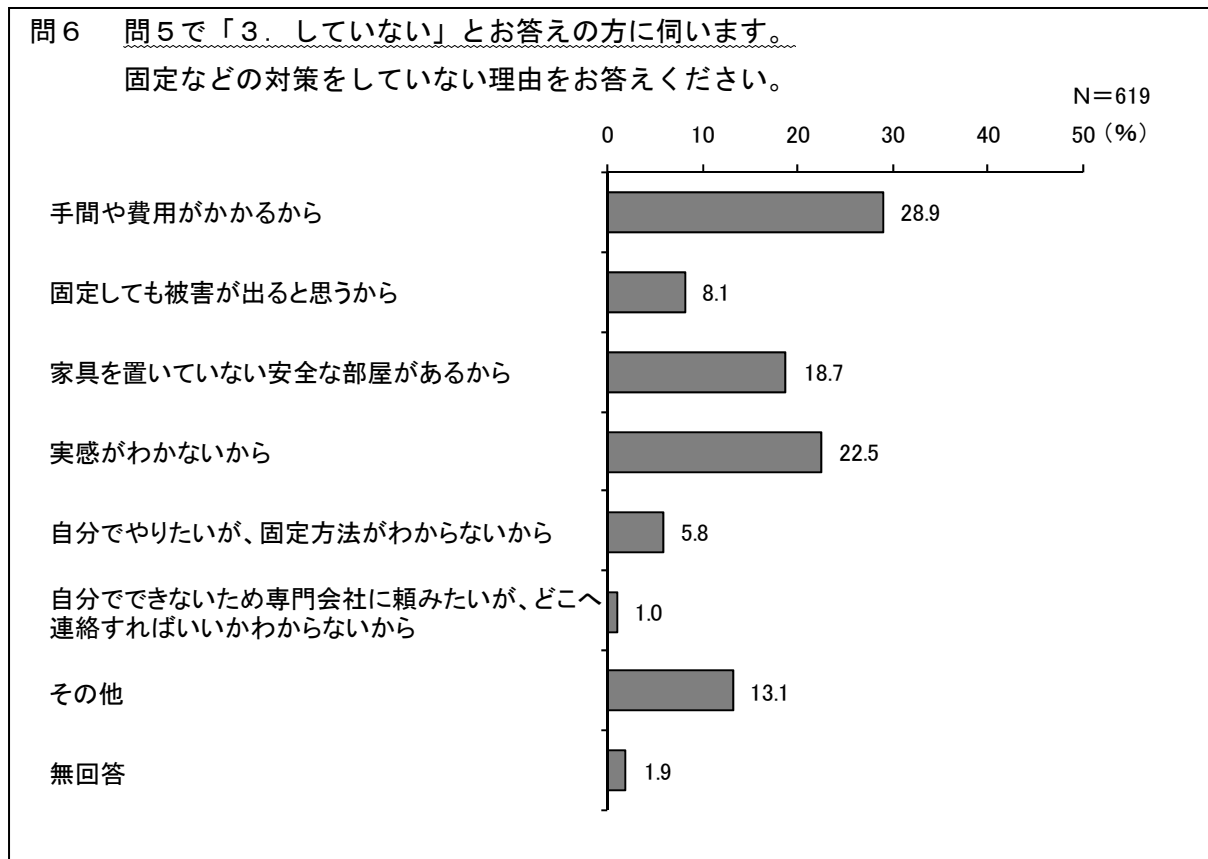
年代別でみると、『固定対策をしている』は 40 歳代以上と 30 歳代以下で差がみられ、40 歳代が 58.6%、50 歳代が 58.9%、60 歳代が 62.5%、70 歳以上が 66.4%でいずれも 6 割前後となっているのに対し、20 歳代は 47.7%、30 歳代は 46.1%でどちらも半数以下となっている。これは、高齢者を対象とした、家具転倒防止事業や防災講座などで地震時の死因の 8 割が家屋倒壊と家具による圧死であると説明してきた効果といえる。

居住年数別でみると、『固定対策をしている』が最も多いのは 20 年以上の 60.7%、次いで 5 年以上 10 年未満の 51.5%となっている。また、「大部分している」は、3 年未満が 4.2%、3 年以上 5 年未満が 7.9%、5 年以上 10 年未満が 10.9%、10 年以上 20 年未満が 11.8%、20 年以上が 13.4%と居住年数が長いほど多い傾向となっている。

居住形態別でみると、『固定対策をしている』が最も多いのは持ち家の 62.7%であり、ほかの居住形態と比べ唯一半数以上を占めている。一方、「していない」は賃貸アパート・マンションが 66.1%など、持ち家以外は 6 割以上を占めており、持ち家の 35.9%と大きな差がみられる。このため、借家オーナーに対して家具固定の理解を求める必要がある。



(5) 家具の転倒防止対策をしていない理由



「手間や費用がかかるから」が 28.9%と最も多く、次いで「実感がわからないから」が 22.5%、「家具を置いていない安全な部屋があるから」が 18.7%となっている。「自分でできないため専門会社に頼みたいが、どこへ連絡すればいいかわからないから」は 1.0%とわずかであった。半数の人が「手間や費用がかかるから」または「実感がわからないから」と回答していることから、防災講座や住宅フェアを通して、家具固定の効果を説明する必要があるといえる。

(6) 地震の備えについてのご意見

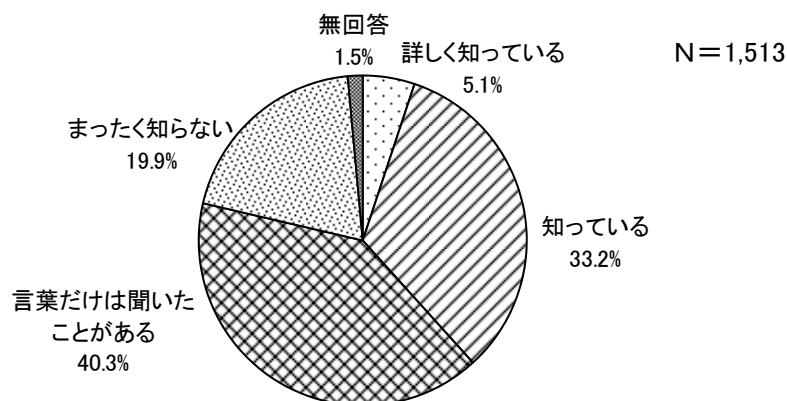
◆地震への備えについて、あなたのご意見をご自由にお書きください。

・地震対策や備蓄の必要性は感じているができていない	49 件
・地震に対して緊張感や実感がわからない	40 件
・一定の地震対策・備蓄を行っている	35 件
・備蓄などしても、維持するのが難しい（賞味期限・スペースの問題など）	25 件
・これから地震対策・備蓄をしようと思う	21 件
・地震対策や備蓄には費用や手間がかかる	19 件
・地震対策や災害時必要な備蓄についての指導や学ぶ機会がほしい	11 件
・備蓄についてどのくらいの量が必要かわからない	10 件
・地震時に備蓄したものを持ち出せるか不安	10 件
・対策費用の補助や対策・備蓄用品の支給をしてほしい	10 件
・食料・水の備えが必要	10 件
・何を用意すれば地震時に役立つかわからない	9 件
・地震時の情報提供体制の整備が必要	9 件
・古い家や建物の耐震性に不安を感じる	8 件
・日ごろからの備えが必要だと思う	8 件
・地震時に地域住民との協力が必要	8 件
・地震時の人命救助や医療体制、避難体制や復旧体制の整備が必要	8 件
・地震時に安全な道路や街の整備が必要	7 件
・火の元への注意	6 件
・住宅の耐震補強をしている	6 件
・地震に備えても仕方ない	6 件
・適切な地震対策の方法がわからない	5 件
・いつ起きるかわからない地震に不安を感じる	5 件
・住んでいる地域の予想される被害について知りたい	5 件
・自主防災の意識を高めるような広報が必要	5 件
・地域での防災訓練を充実させてほしい	4 件
・簡易トイレ、衛生袋の備えが必要	4 件
・地震時の安否確認の連絡手段が必要	4 件
・地震時の対応について家族との話し合いが必要	4 件
・一定の地震対策・備蓄を行っているが充分とはいえない	4 件
・地震時にどう対応してよいかわからない	3 件
・家の外で地震にあう場合に不安を感じる	3 件
・建物の耐震補強が必要	3 件
・地震時のペットへの対応を知りたい	3 件
・地震対策はしていない	3 件
・地震に対する不安はない	2 件
合計	372 件

3 ユニバーサルデザインについて

(1)「ユニバーサルデザイン」の認知度

問7 市では、ユニバーサルデザインの考え方を市政に取り入れています。ユニバーサルデザインとは、身体能力、年齢、国籍、性別などに関係なく、誰もが安全で安心な暮らしができるように環境づくりやまちづくりなどを行っていかこうとする考え方です。あなたは、ご存知でしたか。 (1つだけ○を付けてください)



「詳しく知っている」が 5.1%、「知っている」が 33.2%、「言葉だけは聞いたことがある」が 40.3%、「まったく知らない」が 19.9%となっている。「詳しく知っている」と「知っている」を合わせた『知っている』は 38.3%、また、それに「言葉だけは聞いたことがある」を合わせた『少なくとも聞いたことはある』は 78.6%となっている。

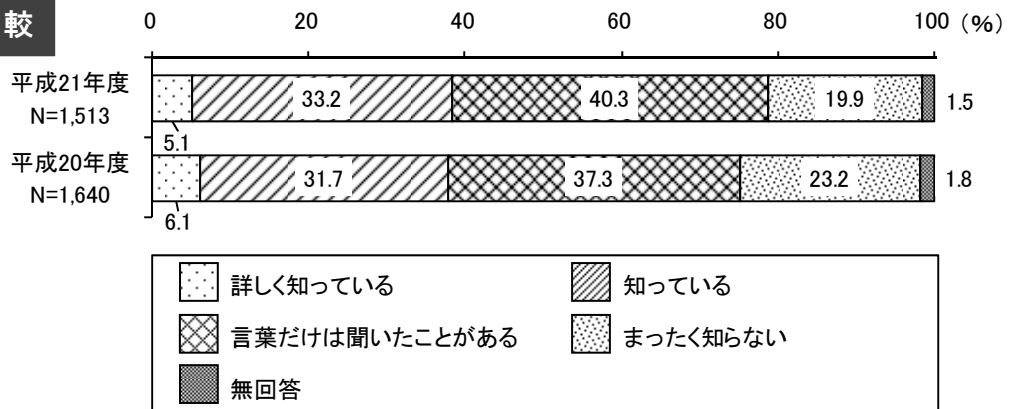
前年度調査と比較すると、『知っている』(平成 20 年度 : 37.8%、平成 21 年度 : 38.3%) はほぼ同程度となっているが、『少なくとも聞いたことはある』(平成 20 年度 : 75.1%、平成 21 年度 : 78.6%) は 6.3 ポイント増加している。

年代別でみると、20 歳代では「詳しく知っている」が 10.5%とほかの年代と比較して多くなっている一方で、「まったく知らない」も 26.1%とほかの年代よりも多い。また、60 歳代および 70 歳以上では「言葉だけは聞いたことがある」がそれぞれ 53.7%、52.6%と半数以上を占め、どちらの年代でも『知っている』を大きく上回っている。『少なくとも聞いたことはある』は年代による大きな差はみられないものの、『知っている』では、20 歳代が 46.4%、30 歳代が 43.1%、40 歳代が 54.9%、50 歳代が 42.8%と 50 歳代以下で 4 割以上となっているのに対し、60 歳代は 24.1%、70 歳以上は 25.2%と 60 歳代以上では 2 割台であり、これらの年代を境に内容の認知に差がみられる。また、『知っている』および『少なくとも聞いたことはある』はいずれも 40 歳代で最も多いことから、この年代で認知が進んでいるといえる。

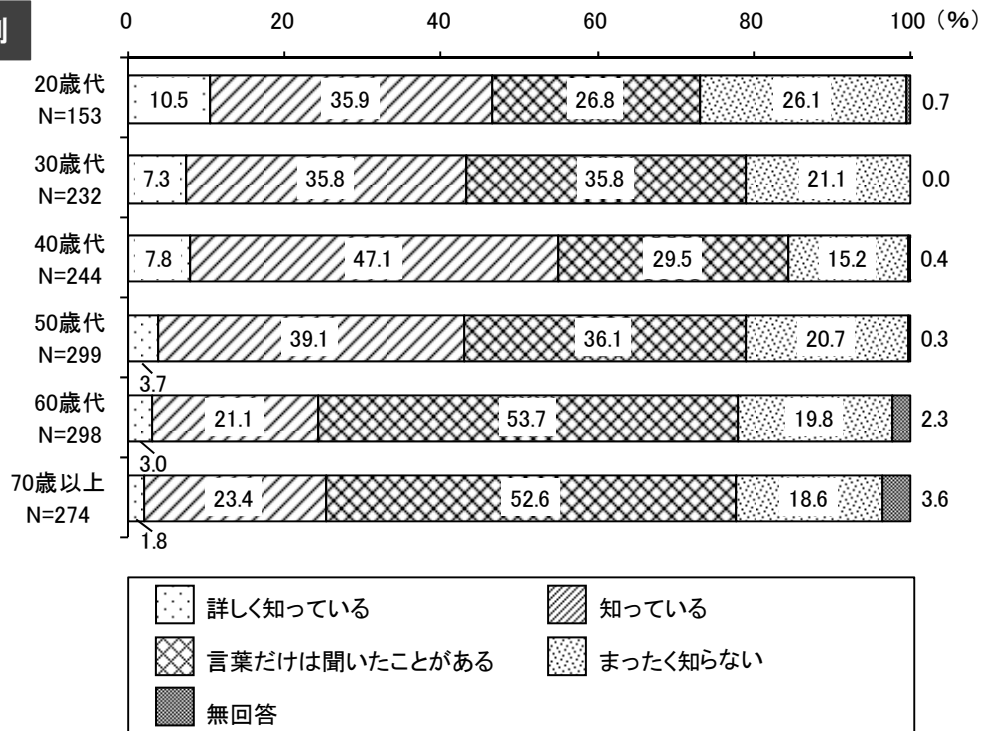
行政区別でみると、『知っている』は中區で 45.8%と最も多い一方、浜北區で 28.3%と最も少なくなっており、ほかの区と比べて差がみられた。また、浜北區では「言葉だけは聞いたことがある」が 48.6%と最も多く、ほかの区と比べて内容の認知に差がみられる。

これらのことから、ユニバーサルデザインという言葉が一般的に普及していることがうかがえるが、その意味については浸透状況に年代や地域間で差がみられる。浸透の薄い層に対する理解度を深めるための取り組みが必要といえる。

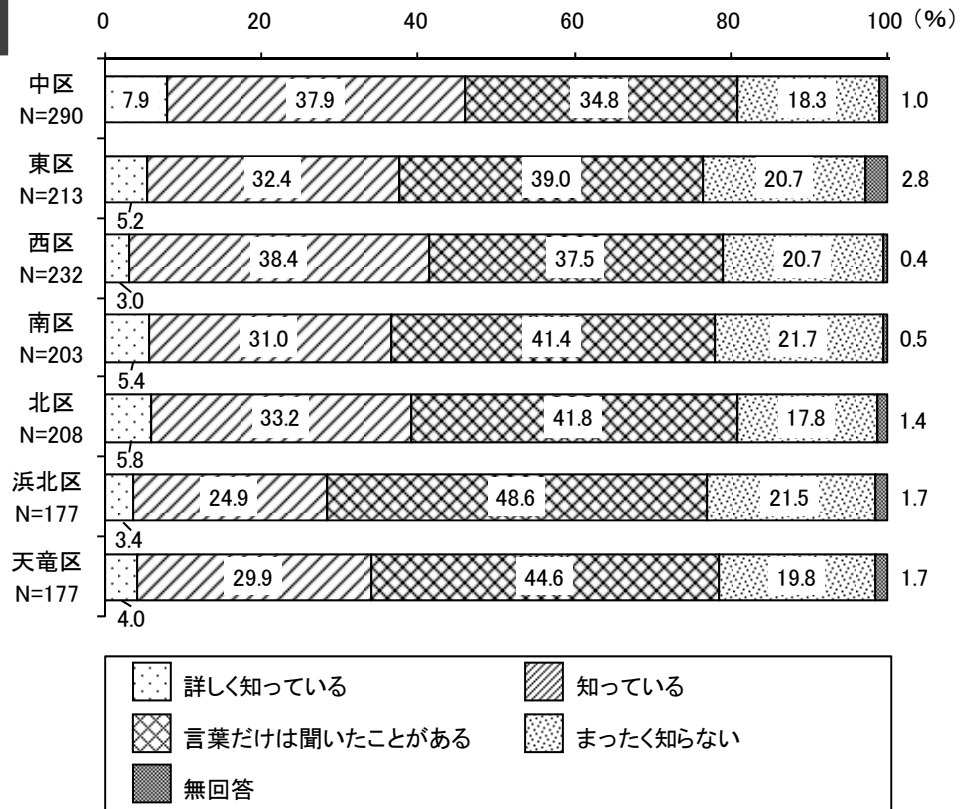
経年比較



年代別



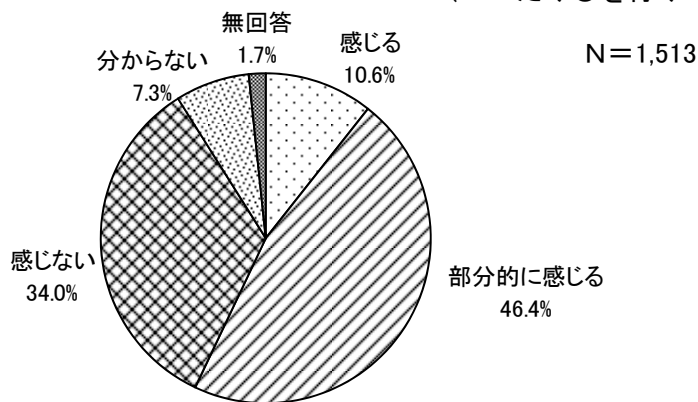
行政区別



(2) 地域の安全性

問8 あなたのお住まいの地域は、歩道整備や交通機関など移動の面や、防災・防犯などの面から安全・安心に暮らすことのできる地域と感じますか。

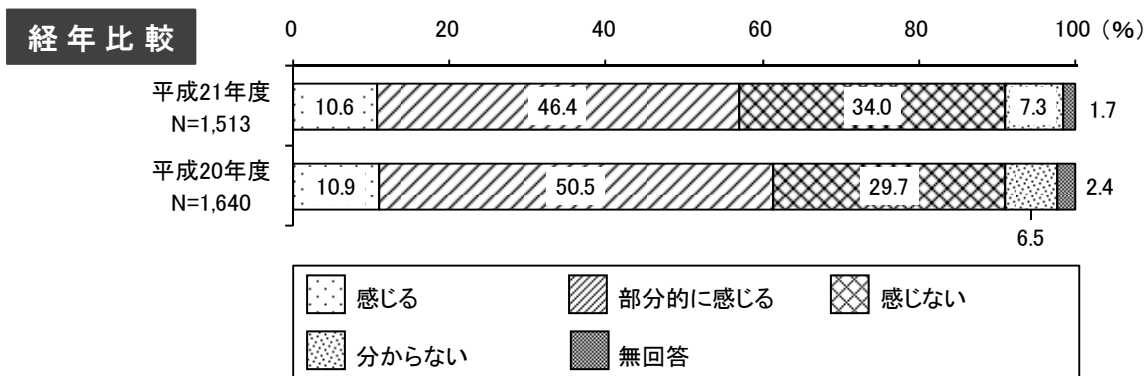
(1つだけ○を付けてください)



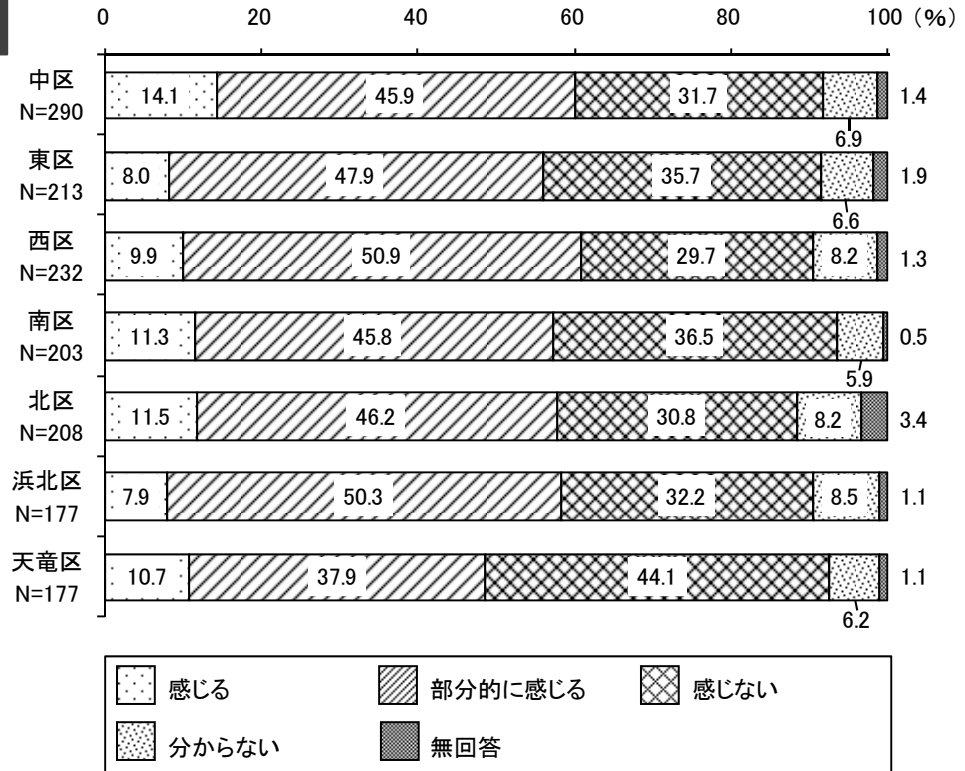
「感じる」が10.6%、「部分的に感じる」が46.4%、「感じない」が34.0%、「分からない」が7.3%となっている。「感じる」と「部分的に感じる」を合わせた『感じる』は57.0%となり、「感じない」を上回っている。

前年度調査と比較すると、『感じる』(平成20年度:61.4%、平成21年度:57.0%)が4.4ポイント減少した一方で、「感じない」(平成20年度:29.7%、平成21年度:34.0%)が4.3ポイント増加している。

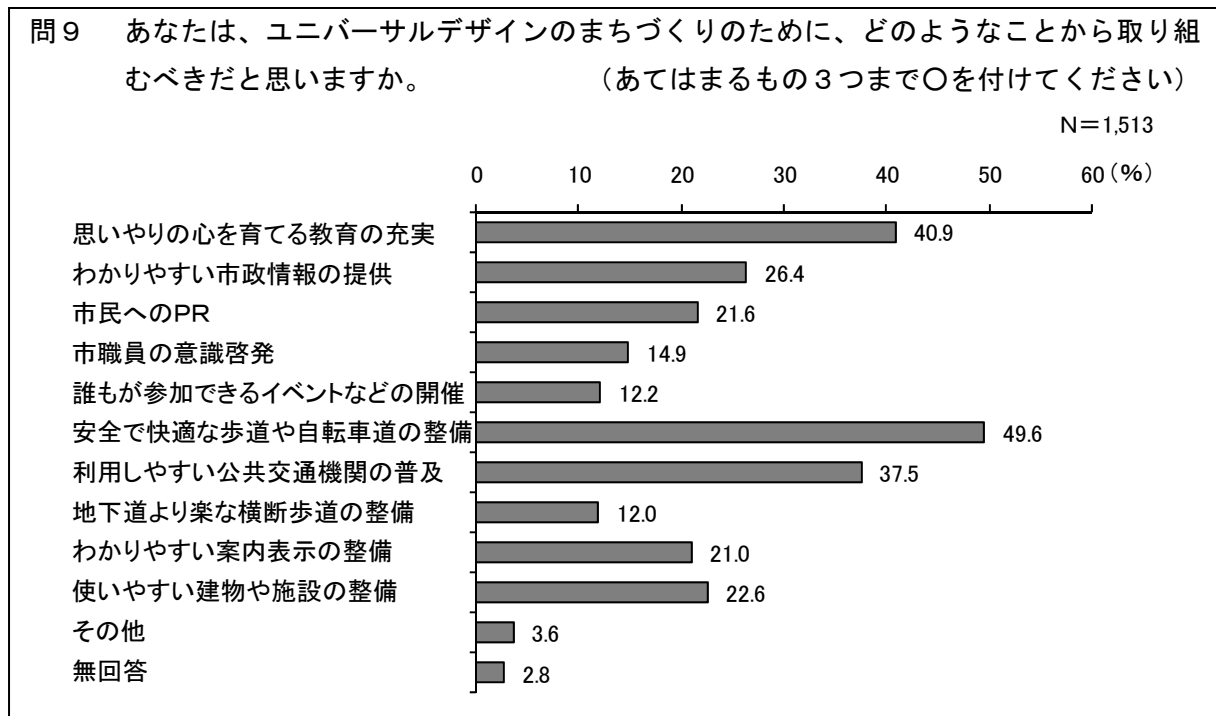
行政区別でみると、「感じる」は中区で14.1%と最も多くなっている。一方、「感じない」は天竜区で44.1%と、ほかの区がいずれも2割台から3割台となっているのに対し4割以上と多くなっている。



行政区別



(3) ユニバーサルデザインで取り組むべきこと

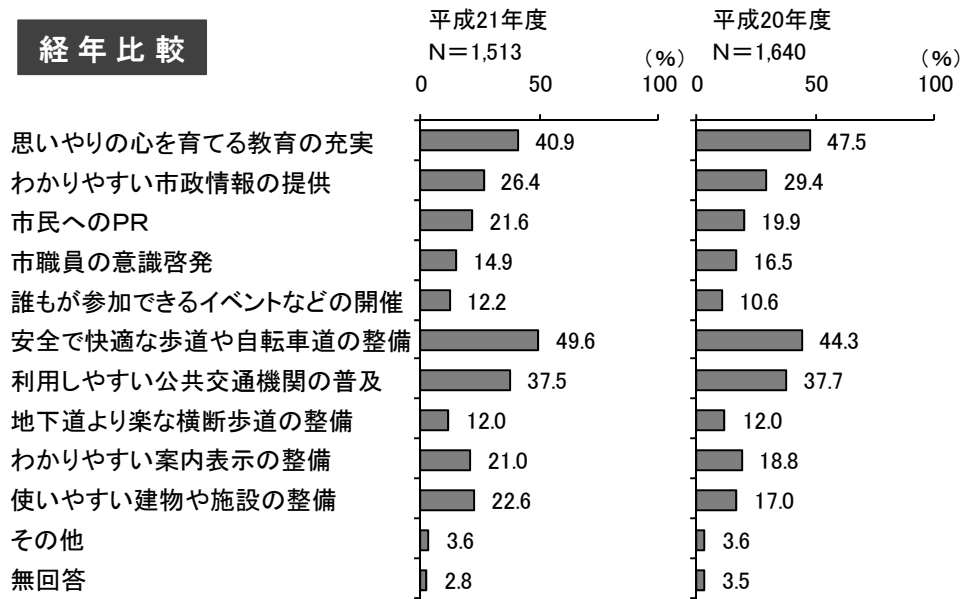


「安全で快適な歩道や自転車道の整備」が49.6%と最も多く、次いで「思いやりの心を育てる教育の充実」が40.9%、「利用しやすい公共交通機関の普及」が37.5%とこれらが3割以上となっている。全体的には、思いやりの心の教育といったソフト面と、生活で日常的に使う都市基盤の充実といったハード面の両面を望む結果となった。

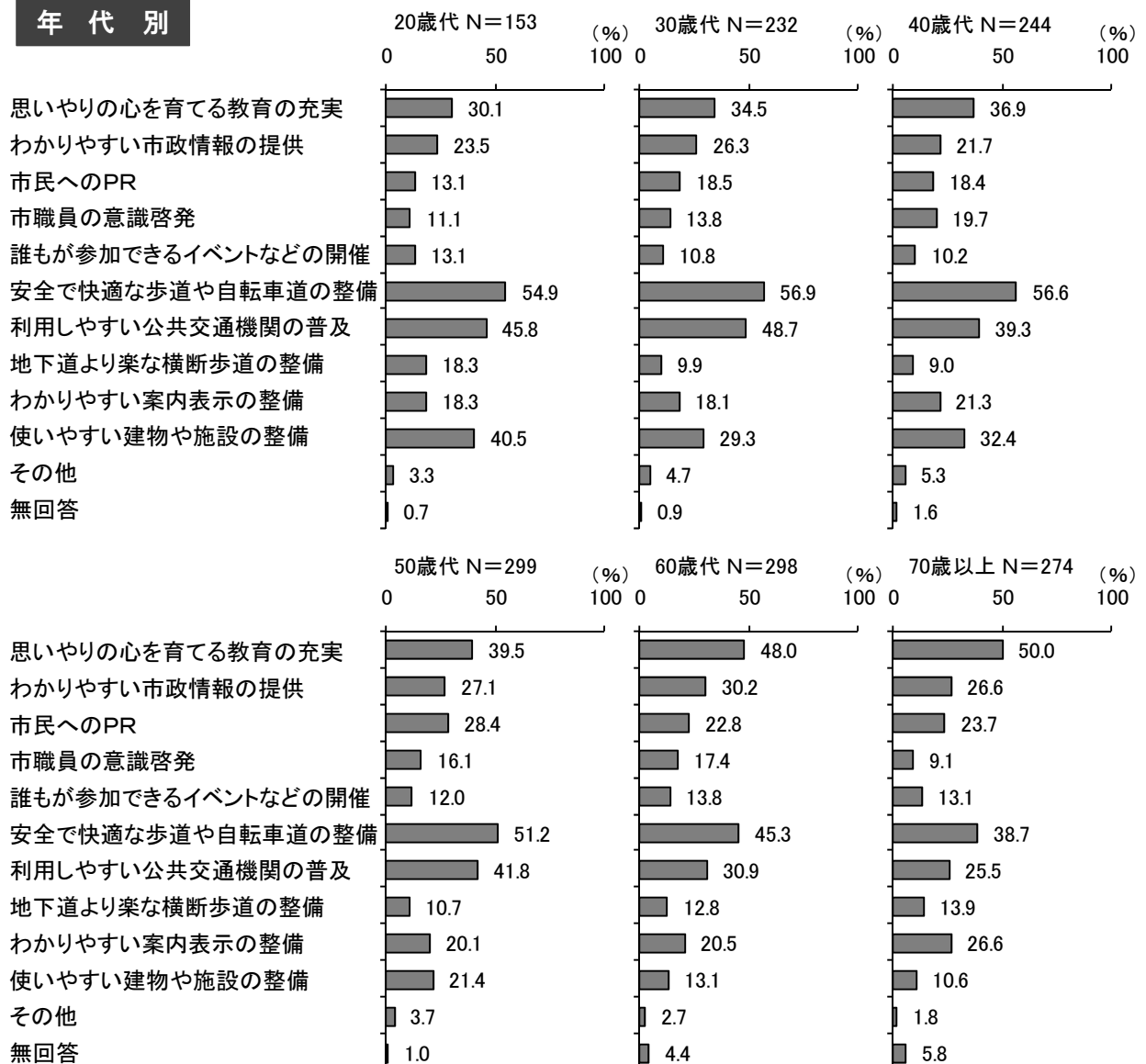
前年度調査と比較すると、「安全で快適な歩道や自転車道の整備」(平成20年度：44.3%、平成21年度：49.6%)が5.3ポイント、「使いやすい建物や施設の整備」(平成20年度：17.0%、平成21年度：22.6%)が5.6ポイント増加している。また、前年度調査とは逆に、「安全で快適な歩道や自転車道の整備」が「思いやりの心を育てる教育の充実」を上回る結果となったことから、より暮らしやすい生活環境を望む声が高まっていると考えられる。

年代別でみると、「安全で快適な歩道や自転車道の整備」は20歳代が54.9%、30歳代が56.9%、40歳代が56.6%、50歳代が51.2%と50歳代以下のいずれの年代でも最も多く半数以上となっている。一方、60歳代以上では、「安全で快適な歩道や自転車道の整備」がそれぞれ45.3%、38.7%と50歳代以下と比較して少なく、「思いやりの心を育てる教育の充実」がそれぞれ48.0%、50.0%と最も多い回答となっている。

経年比較



年代別

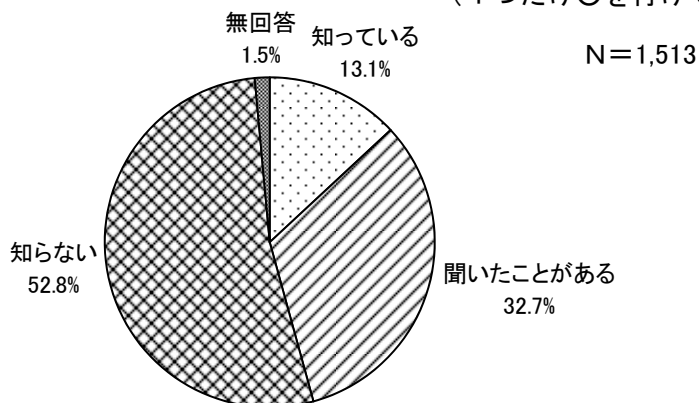


4 区協議会・地域協議会について

(1)「区協議会・地域協議会」の認知度

問 10 市では、市民の声を市政に反映させるための仕組みとして、平成 17 年 7 月の合併時に旧市町村単位に地域住民の代表で組織する「地域協議会」を設置しました。また、平成 19 年 4 月の政令指定都市移行に伴い、全ての区に地域協議会と同様の機能を持つ「区協議会」を設置しました。あなたは、区協議会・地域協議会のことをご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

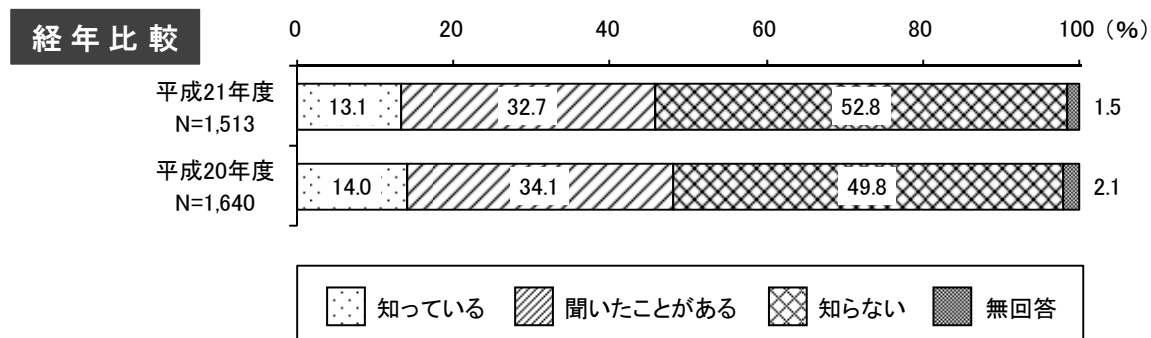


「知っている」が 13.1%、「聞いたことがある」が 32.7%、「知らない」が 52.8%となっている。「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている』は 45.8%となり、半数以上を占める「知らない」を下回っている。

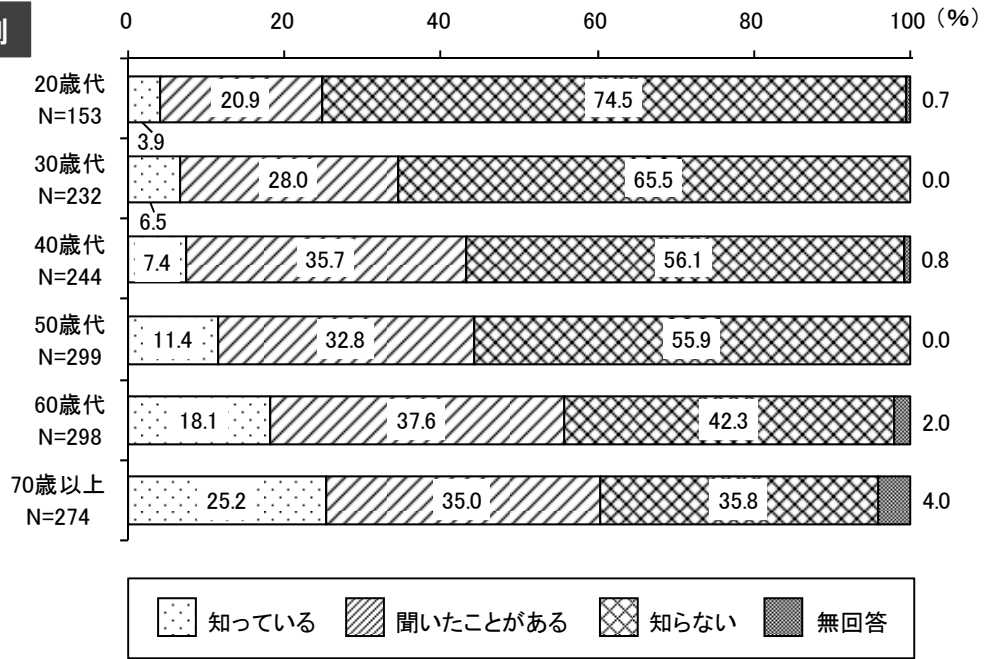
前回調査と比較すると、『知っている』（平成 20 年度：48.1%、平成 21 年度：45.8%）は 2.3 ポイント減少しているものの、大きな差はみられない。

年代別でみると、『知っている』は年代が高いほど多く、60 歳代が 55.7%、70 歳以上が 60.2%とこれらの年代で半数以上となっている。一方、「知らない」は 20 歳代が 74.5%、30 歳代が 65.5%とこれらの年代で多い。

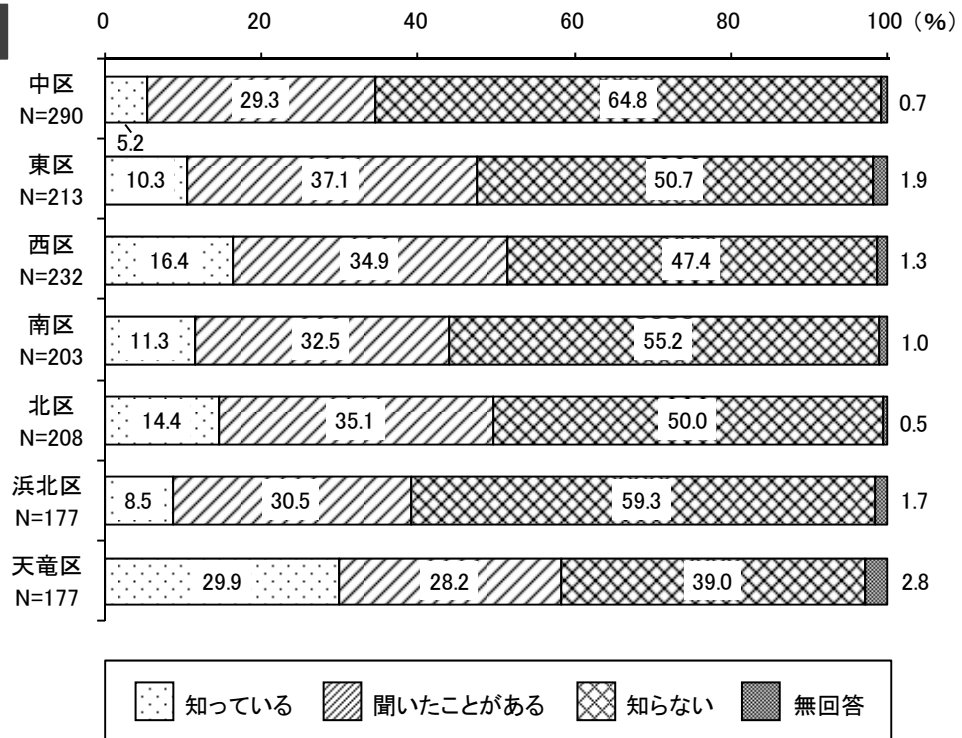
行政区別でみると、天竜区で『知っている』が 58.1%と行政区のなかで最も多く、また、「知らない」は 39.0%と最も少ないことから、ほかの区と比較して区協議会・地域協議会の認知がされているといえる。一方、『知っている』が最も少なかったのは中区の 34.5%となっている。



年代別



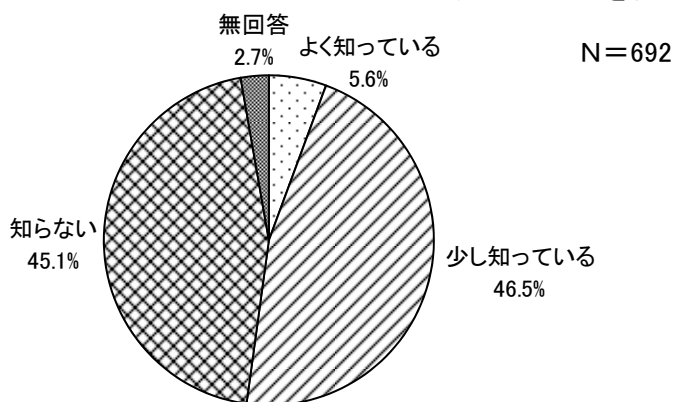
行政区別



(2)「区協議会・地域協議会」の活動内容

問11 問10で「1. 知っている」「2. 聞いたことがある」とお答えの方に伺います。
あなたは、区協議会・地域協議会がどのような活動をしているかご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

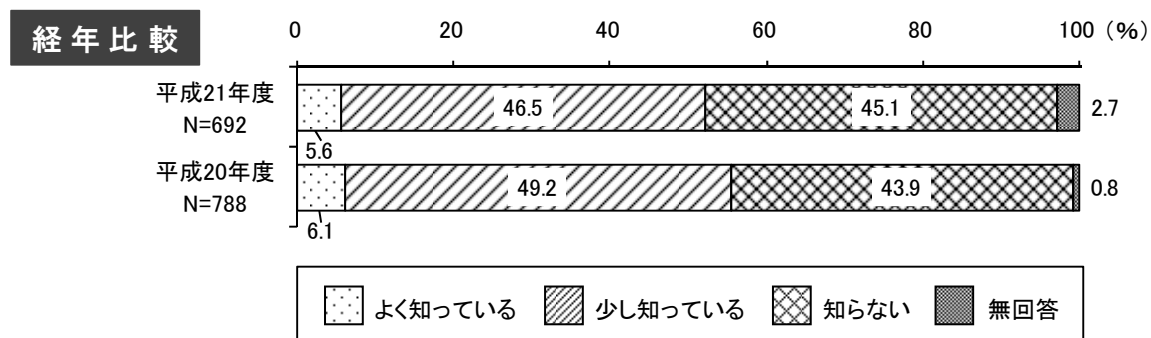


「よく知っている」が5.6%、「少し知っている」が46.5%、「知らない」が45.1%となっている。「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』は52.1%と半数以上を占め、「知らない」を上回っている。

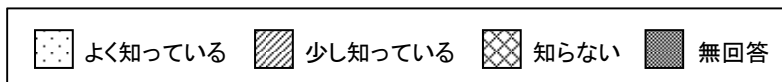
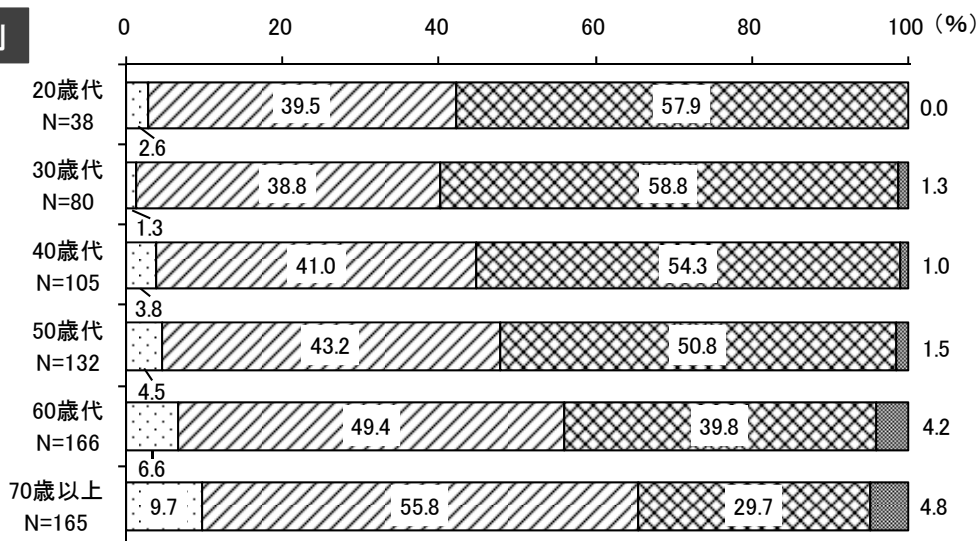
前年度調査と比較すると、『知っている』(平成20年度:55.3%、平成21年度:52.1%)は3.2ポイント減少している。

年代別でみると、『知っている』はおおむね年代が高いほど多く、60歳代が56.0%、70歳以上が65.5%とこれらの年代で半数以上となっている。一方、「知らない」は20歳代が57.9%、30歳代が58.8%とこれらの年代で多く、『知っている』を10ポイント以上上回っている。

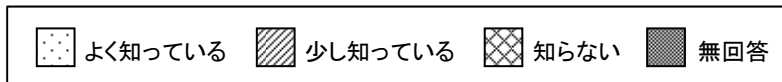
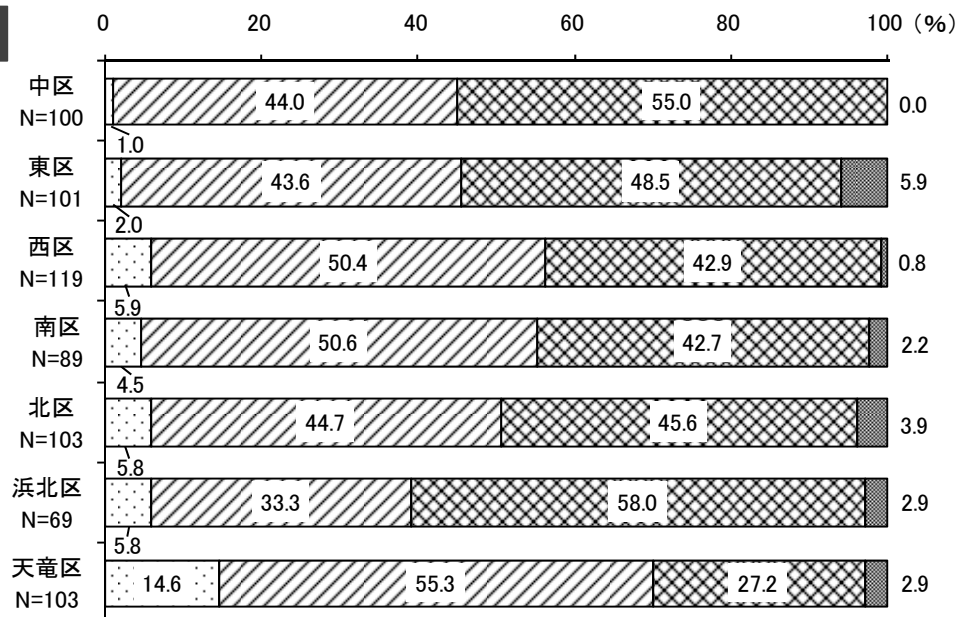
行政区別でみると、天竜区で『知っている』が69.9%と行政区のなかで最も多く、また、「知らない」は27.2%と最も少ないことから、ほかの区と比較して活動内容が認知されているといえる。一方、『知っている』が最も少なかったのは浜北区の39.1%、次いで中区の45.0%、東区の45.6%となっており、これらの行政区で「知らない」が『知っている』を上回った。



年代別



行政区別

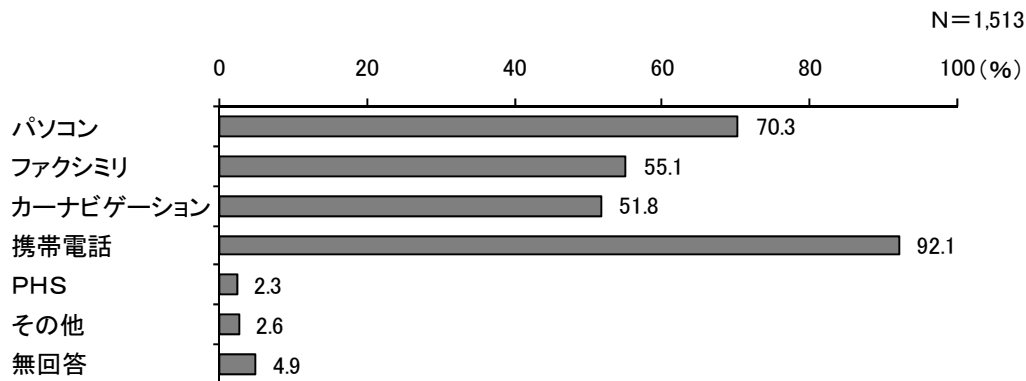


5 家庭の情報化について

(1) 家庭にある情報通信機器

問 12 あなたのご家庭では、次のような情報通信機器を持っていますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

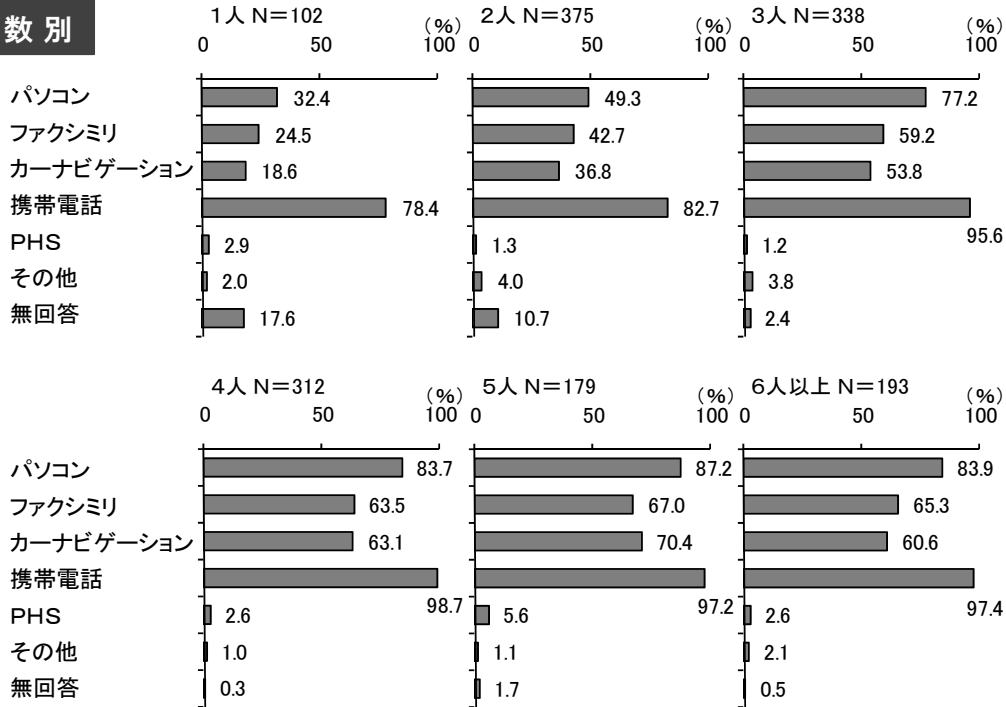


「携帯電話」が92.1%と最も多く、次いで「パソコン」が70.3%、「ファクシミリ」が55.1%、「カーナビゲーション」が51.8%とこれらがいずれも半数以上となっており、これらの情報機器の普及がうかがえる。一方、「PHS」への回答は2.3%とわずかであった。

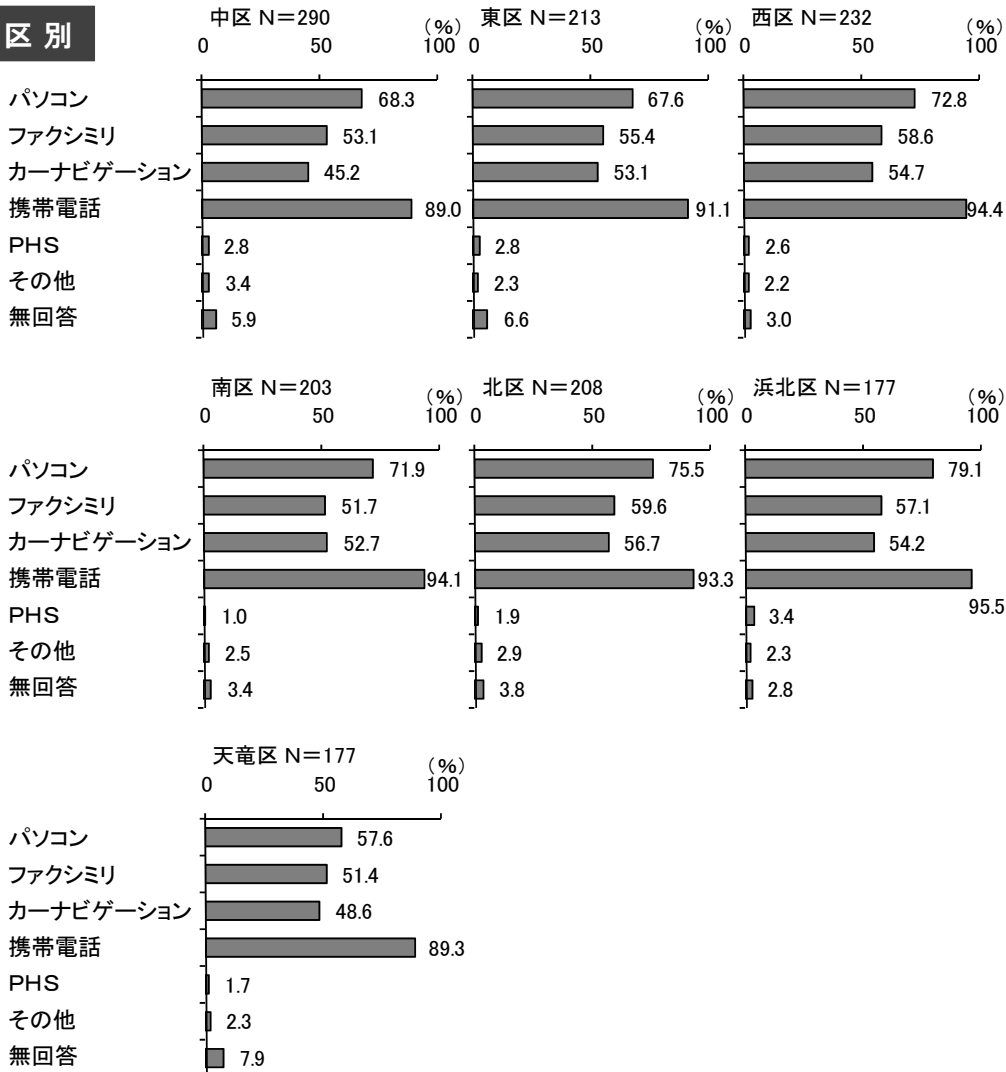
家族数別でみると、「パソコン」、「ファクシミリ」、「カーナビゲーション」および「携帯電話」はおおむね家族数が多いほど保有している割合も高い傾向となっている。「パソコン」、「ファクシミリ」および「カーナビゲーション」は、家族数2人以下ではいずれも5割以下であるのに対し、家族数4人以上ではいずれも6割以上となっている。

行政区別でみると、「パソコン」は浜北区が79.1%と最も多く、次いで北区が75.5%、西区が72.8%、南区が71.9%とこれらの区で7割以上となっており、天竜区の57.6%、東区の67.6%、中区の68.3%と差がみられた。「カーナビゲーション」は北区が56.7%、西区が54.7%、浜北区が54.2%、東区が53.1%、南区が52.7%とこれらの区で5割以上となっており、中区の45.2%や天竜区の48.6%と差がみられた。

家族数別

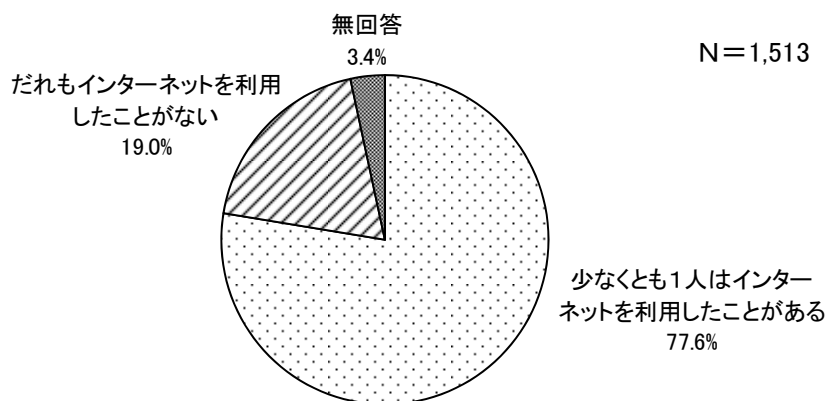


行政区別



(2) インターネットの利用状況

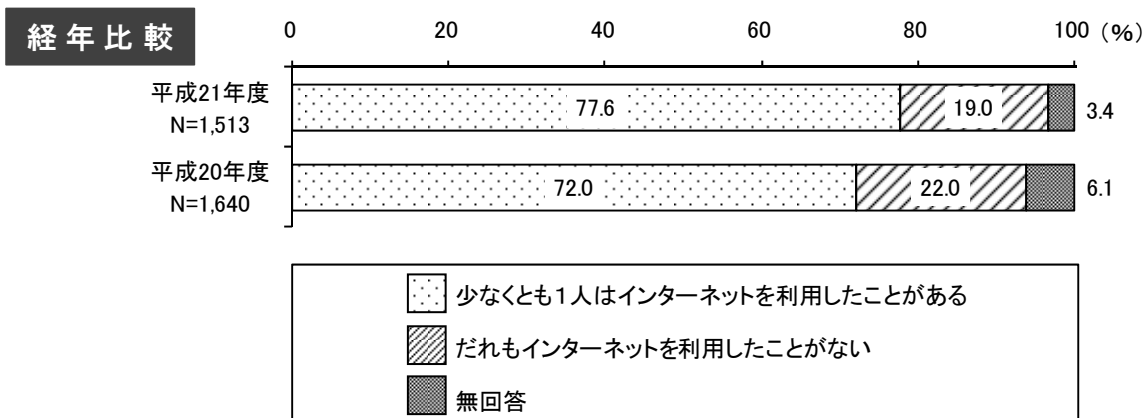
問 13 あなたやあなたのご家族は、パソコンや携帯電話などで過去1年間にインターネットを利用したことがありますか（メール送受信を含む）。（1つだけ○を付けてください）



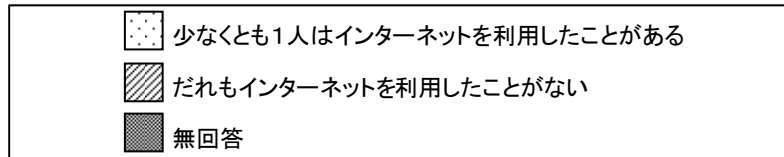
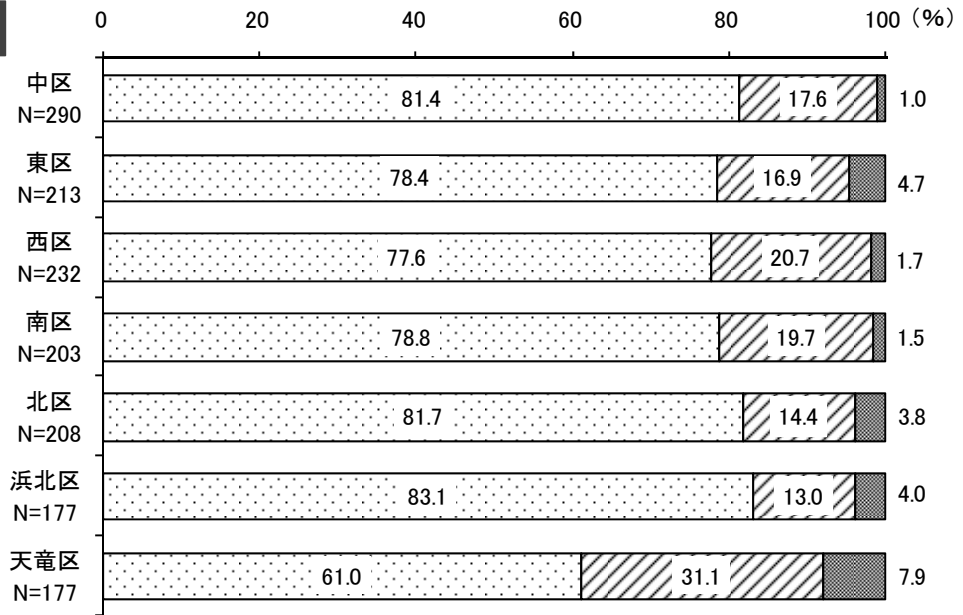
「少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」が77.6%、「だれもインターネットを利用したことがない」が19.0%となっている。

前年度調査と比較すると、「少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」（平成20年度：72.0%、平成21年度77.6%）は5.6ポイント増加している。

行政区別でみると、「少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」は天竜区が61.0%と少ないのに対し、ほかの行政区ではいずれも8割前後となっている。



行政区別

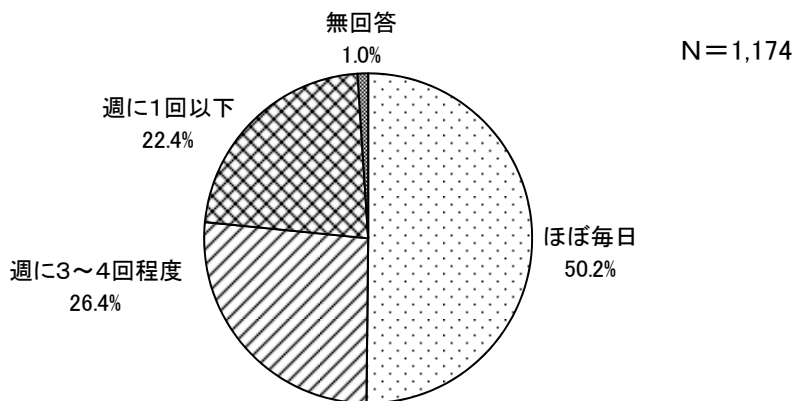


(3) インターネットの利用頻度

問 14 問 13 で「1. 少なくとも 1 人はインターネットを利用したことがある」とお答えの方に伺います。

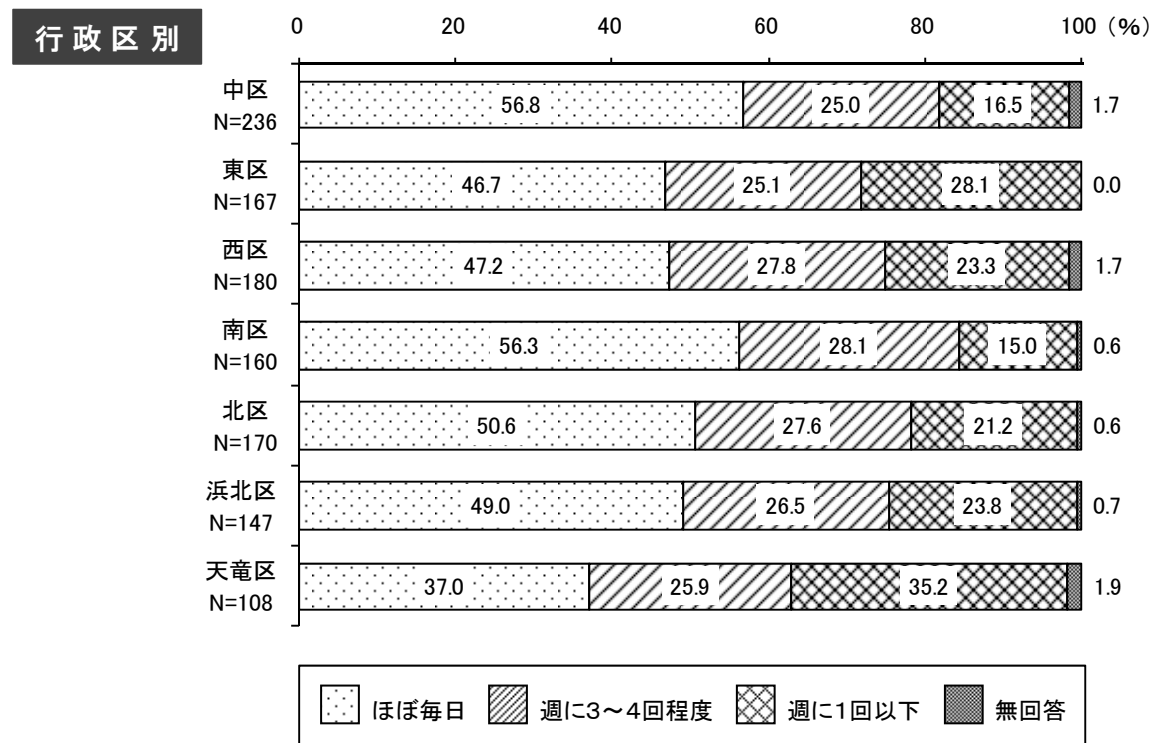
あなたやあなたのご家族は、どのくらいの頻度でインターネットを利用していますか。

(1つだけ○を付けてください)



「ほぼ毎日」が 50.2%、「週に 3～4 回程度」が 26.4%、「週に 1 回以下」が 22.4%となっている。

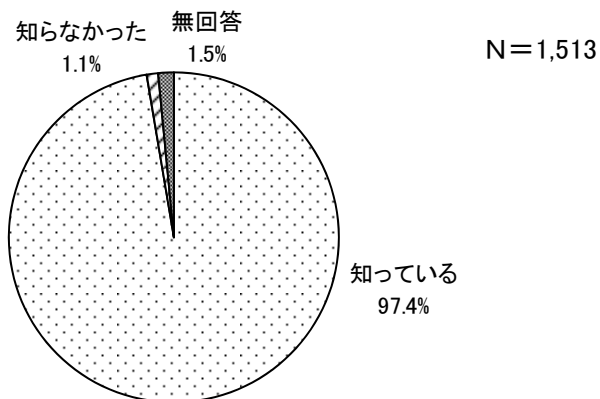
行政区別でみると、南区では「ほぼ毎日」が 56.3%、「週に 3～4 回程度」が 28.1%、また、中区では「ほぼ毎日」が 56.8%、「週に 3～4 回程度」が 25.0%とこれらの行政区で利用頻度が多い。一方、利用頻度が少ないのは天竜区で、「ほぼ毎日」が 37.0%、「週に 3～4 日程度」が 25.9%となっている。



(4) テレビのアナログ放送停止の認知度

問 15 あなたは、テレビのアナログ放送が 2011 年に停止されることをご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

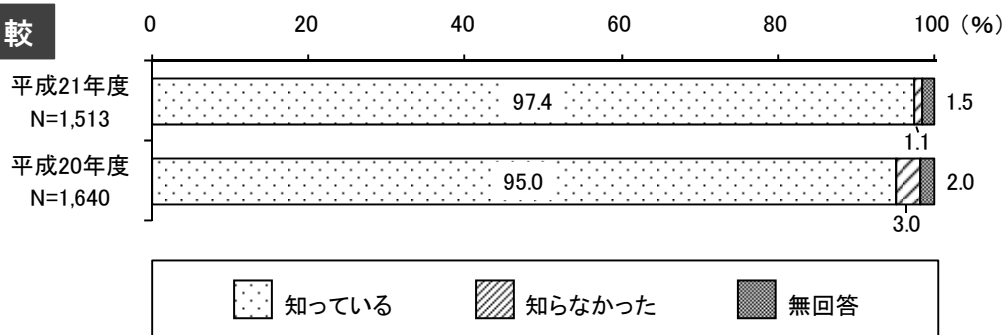


「知っている」が 97.4%、「知らなかった」が 1.1%となっており、認知度は非常に高い。

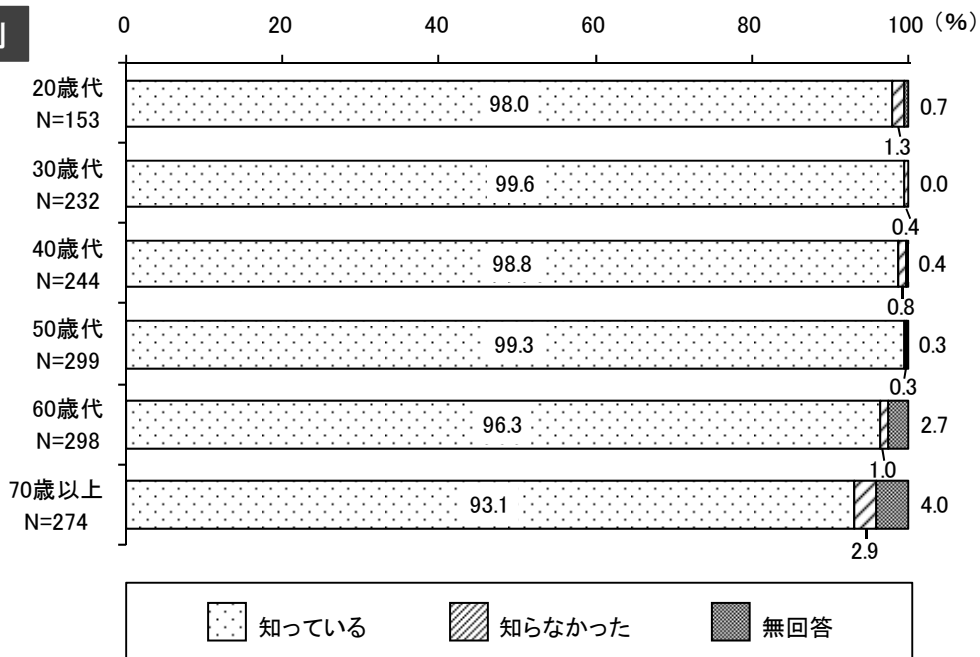
前年度調査と比較すると、「知っている」(平成 20 年度 : 95.0%、平成 21 年度 : 97.4%)は 2.4 ポイントと増加している。

年代別でみると、すべての年代で「知っている」が 9 割以上となっているものの、60 歳代が 96.3%、70 歳以上が 93.1%とこれらがほかの年代と比較してわずかに少なくなっている。

経年比較



年代別

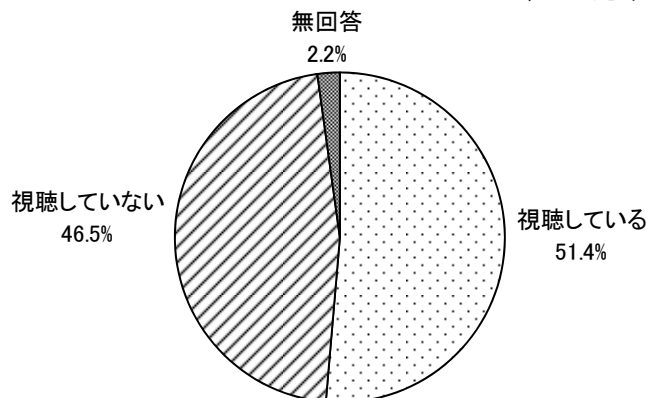


(5) 地上デジタル放送の視聴

問 16 あなたのご家庭では、地上デジタル放送を視聴されていますか。

(1つだけ○を付けてください)

N=1,513

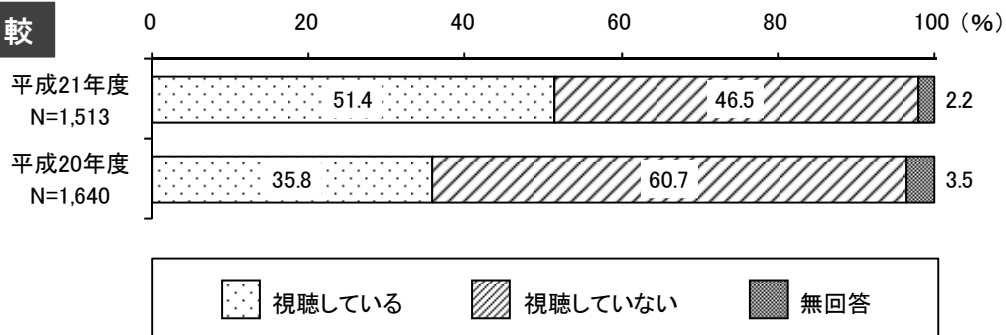


「視聴している」が51.4%、「視聴していない」が46.5%となっている。

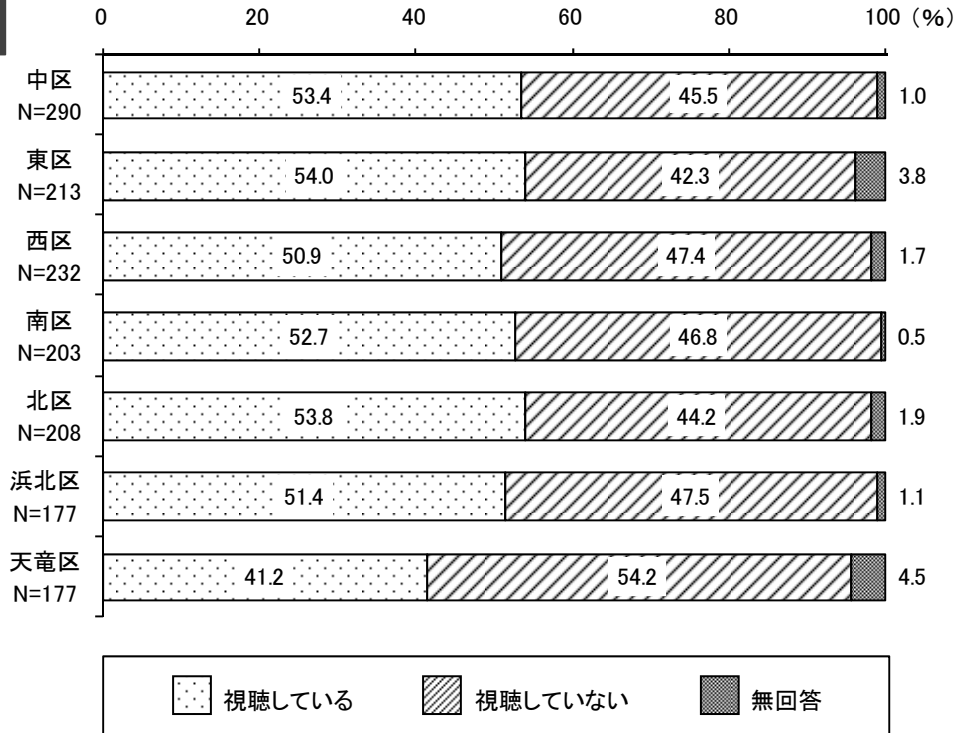
前年度調査と比較すると、「視聴している」(平成20年度:35.8%、平成21年度:51.4%)は15.6ポイントと大幅に増加している。実際に視聴しているのが半数程度であることから、今後も地上デジタル放送受信のための機器の更新を含めた周知が必要といえる。

行政区でみると、「視聴している」は東区が54.0%と最も多く、次いで北区が53.8%、中区が53.4%、南区が52.7%、浜北区が51.4%、西区が50.9%とこれらの区でいずれも半数以上となっているのに対し、天竜区は41.2%とおおよそ4割にとどまりほかの行政区と差がみられる。

経年比較



行政区別

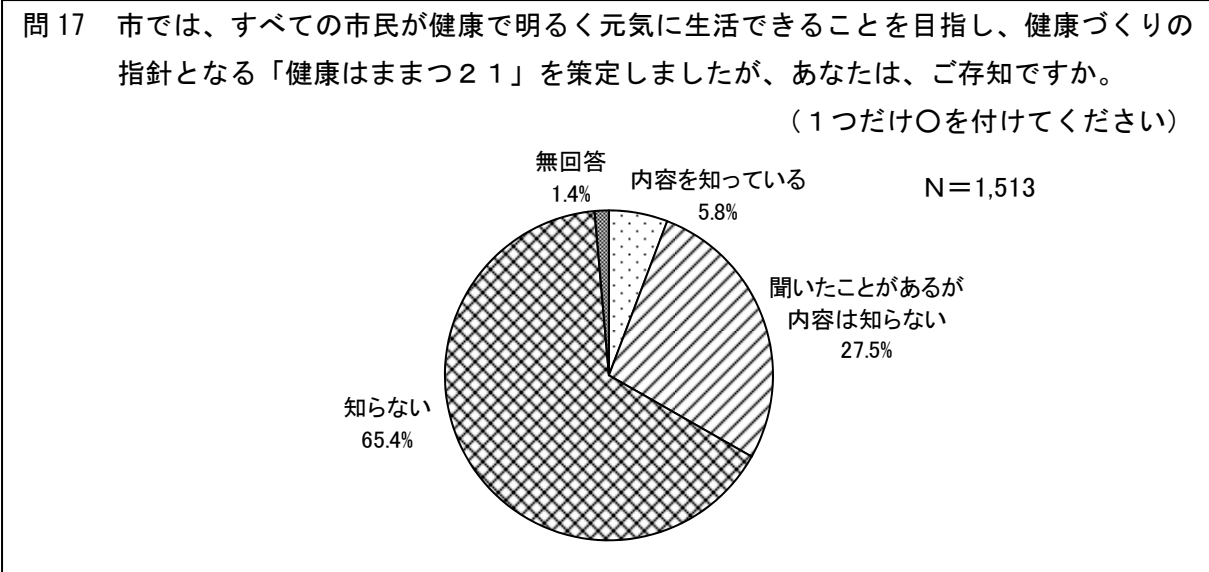


6 健康はままつ21について

(1)「健康はままつ21」の認知度

問17 市では、すべての市民が健康で明るく元気に生活できることを目指し、健康づくりの指針となる「健康はままつ21」を策定しましたが、あなたは、ご存知ですか。

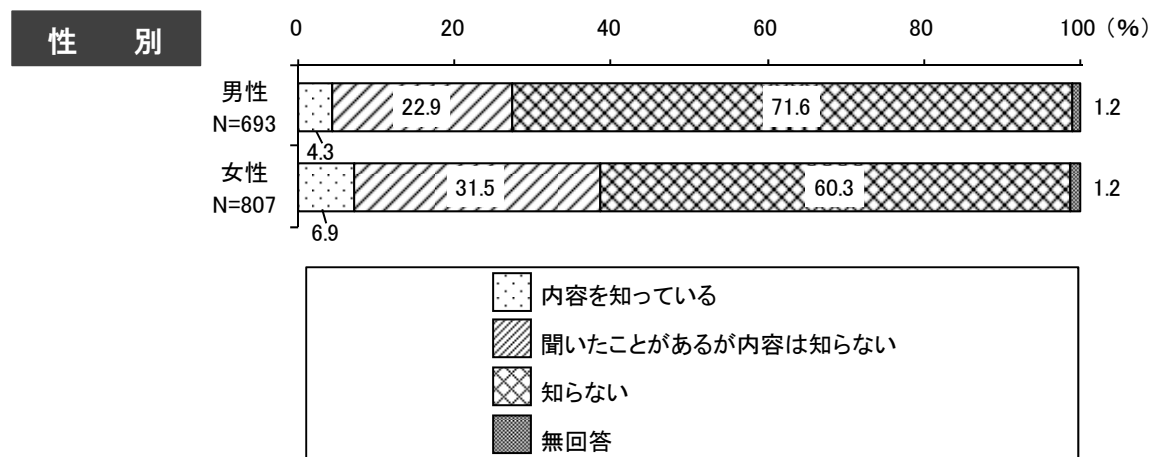
(1つだけ○を付けてください)



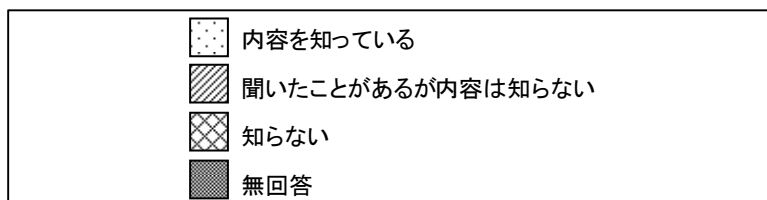
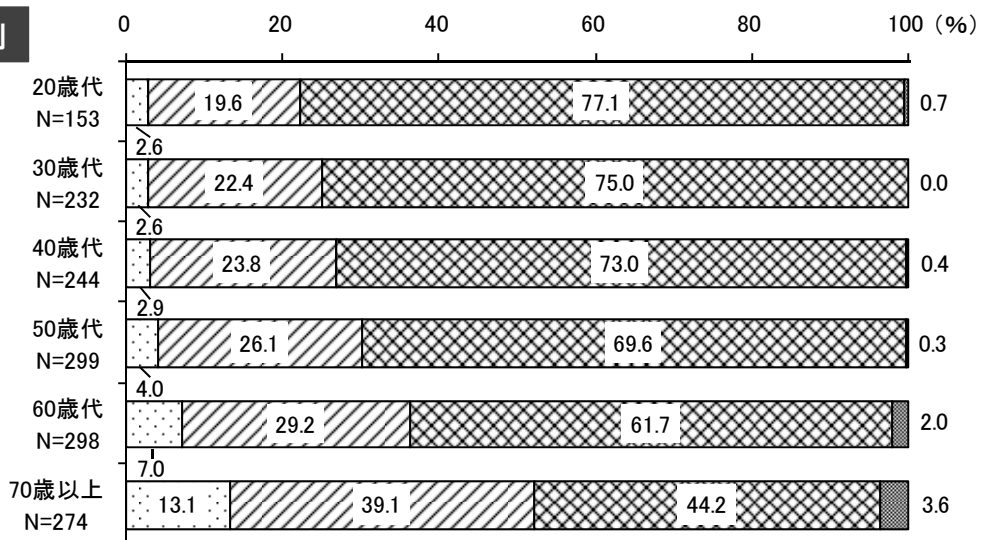
「内容を知っている」が5.8%、「聞いたことがあるが内容は知らない」が27.5%、「知らない」が65.4%となっている。「内容を知っている」と「聞いたことがあるが内容は知らない」を合わせた『認知度』は33.3%となっている。「健康はままつ21」は市民一人一人の健康づくりの指針であることから、今後も認知度を高めるための周知が必要といえる。

性別でみると、『認知度』は女性が38.4%、男性が27.2%と、女性が男性を11.2ポイント上回っている。

年代別でみると、「内容を知っている」および「聞いたことがあるが内容は知らない」ともに年代が高いほど多い傾向となっており、20歳代で『認知度』が22.2%、うち「内容を知っている」が2.6%であるのに対し、70歳以上では『認知度』が52.2%、うち「内容を知っている」が13.1%と差がみられる。



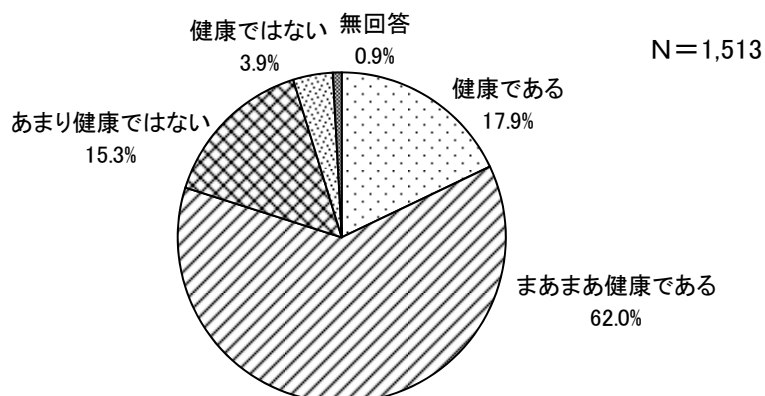
年代別



(2) 健康状態

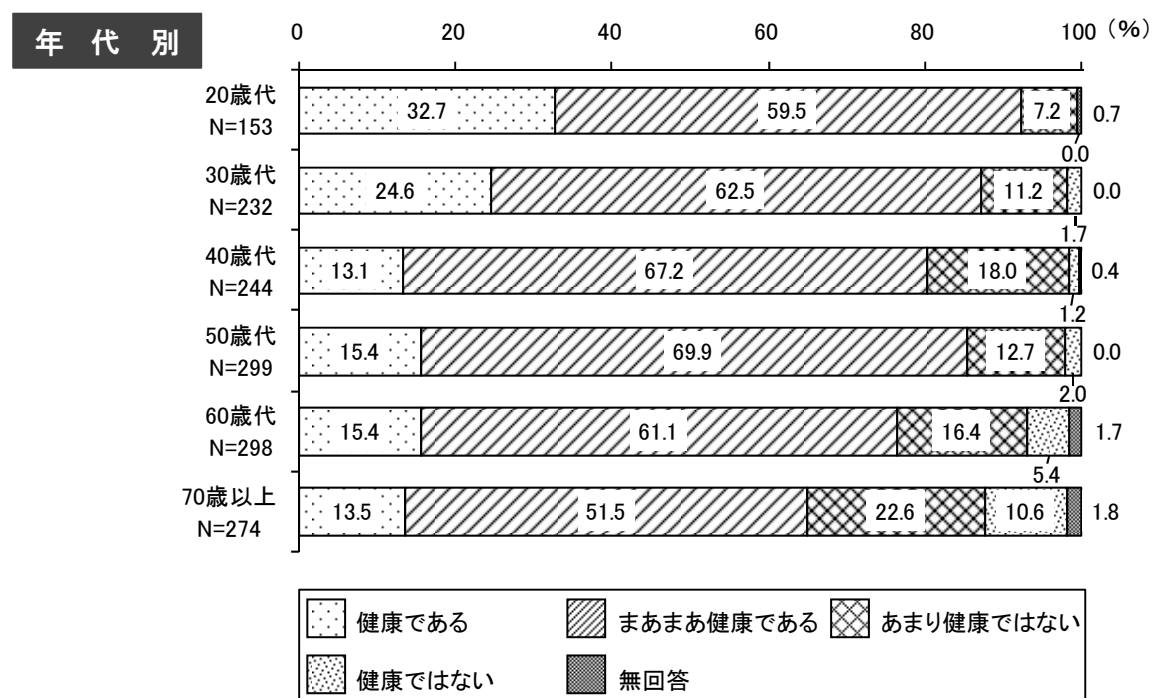
問 18 あなたは、現在ご自身の健康状態をどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)



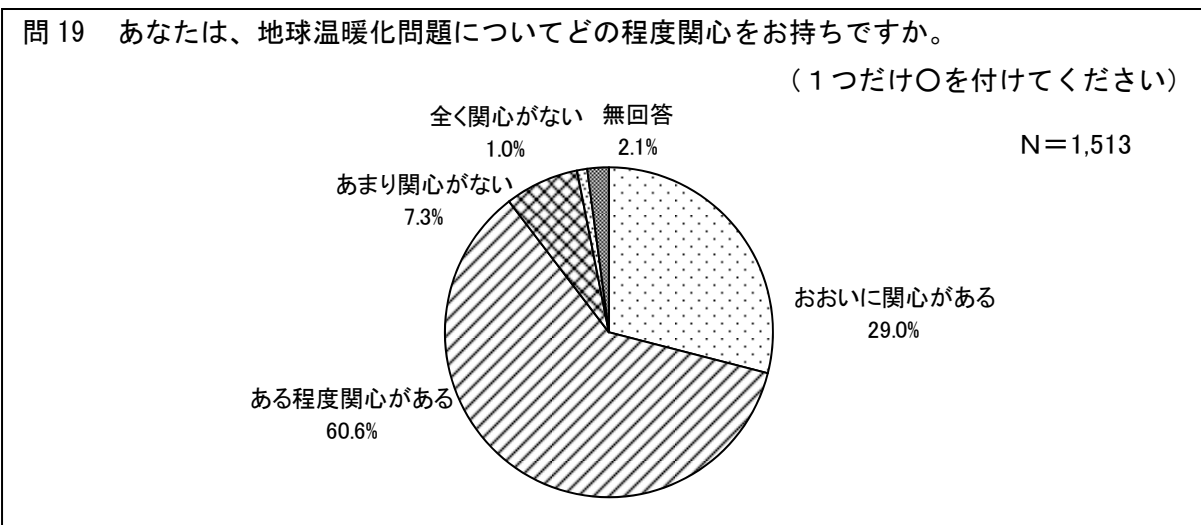
「健康である」が17.9%、「まあまあ健康である」が62.0%、「あまり健康ではない」が15.3%、「健康ではない」が3.9%であり、「健康である」と「まあまあ健康である」を合わせた『健康である』は79.9%とおよそ8割を占めている。

年代別でみると、『健康である』はおおむね年代が高いほど少なく、20歳代が92.2%と9割台であるのに対し、30歳代は87.1%、40歳代は80.3%、50歳代は85.3%、60歳代は76.5%、70歳以上は65.0%となっている。また、「健康である」は、20歳代が32.7%、30歳代が24.6%とこれらでほかの年代と比較して多く、40歳代以上では15%前後でほぼ同程度となっている。



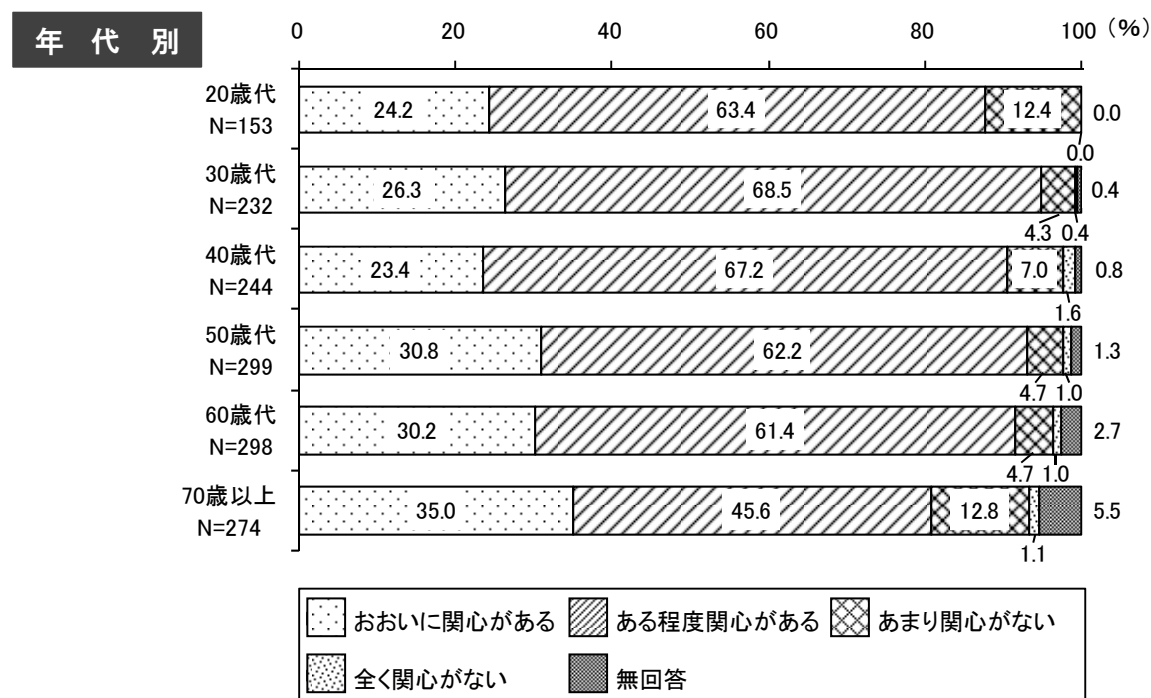
7 地球温暖化防止について

(1) 地球温暖化問題への関心度



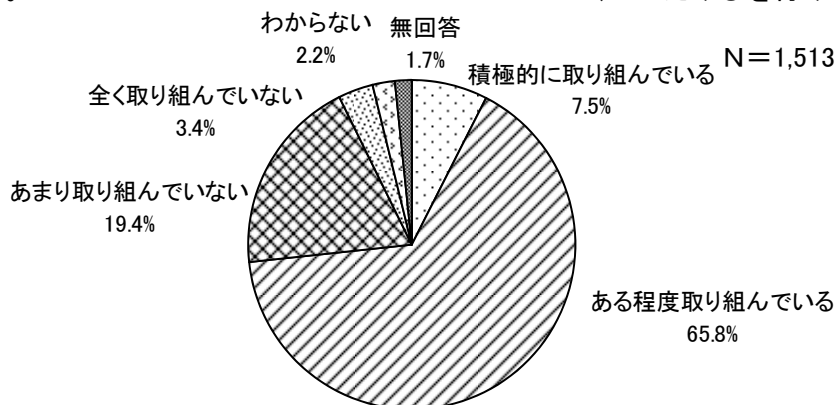
「おおいに関心がある」が 29.0%、「ある程度関心がある」が 60.6%、「あまり関心がない」が 7.3%、「全く関心がない」が 1.0%となっている。「おおいに関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』は 89.6%とおよそ 9 割を占め、関心の高さがうかがえる。

『関心がある』を年代別でみると、30 歳代から 60 歳代の年代でいずれも平均 (89.6%) を上回っているのに対し、20 歳代と 70 歳以上で平均を下回っている。



(2) 日常生活での地球温暖化防止の取り組み状況

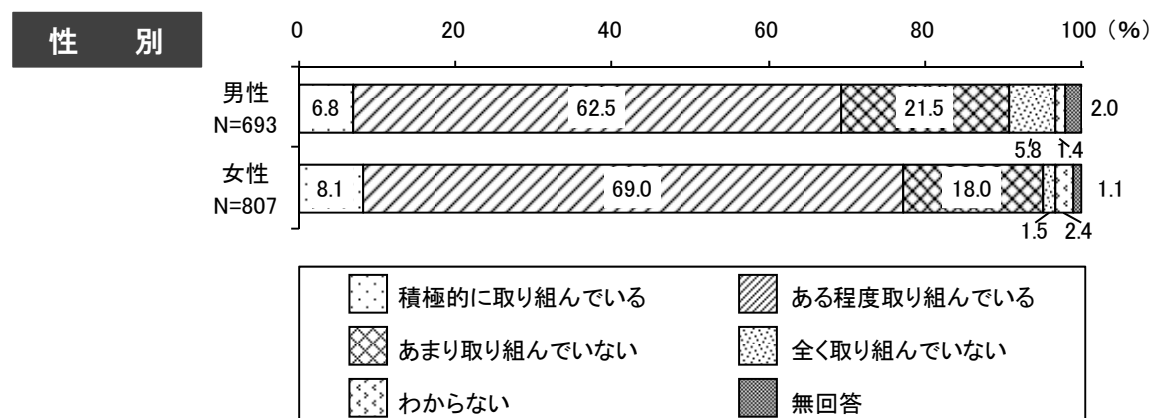
問 20 あなたは日常生活において、省エネルギーなど地球温暖化防止の取り組みを行っていますか。
(1つだけ○を付けてください)



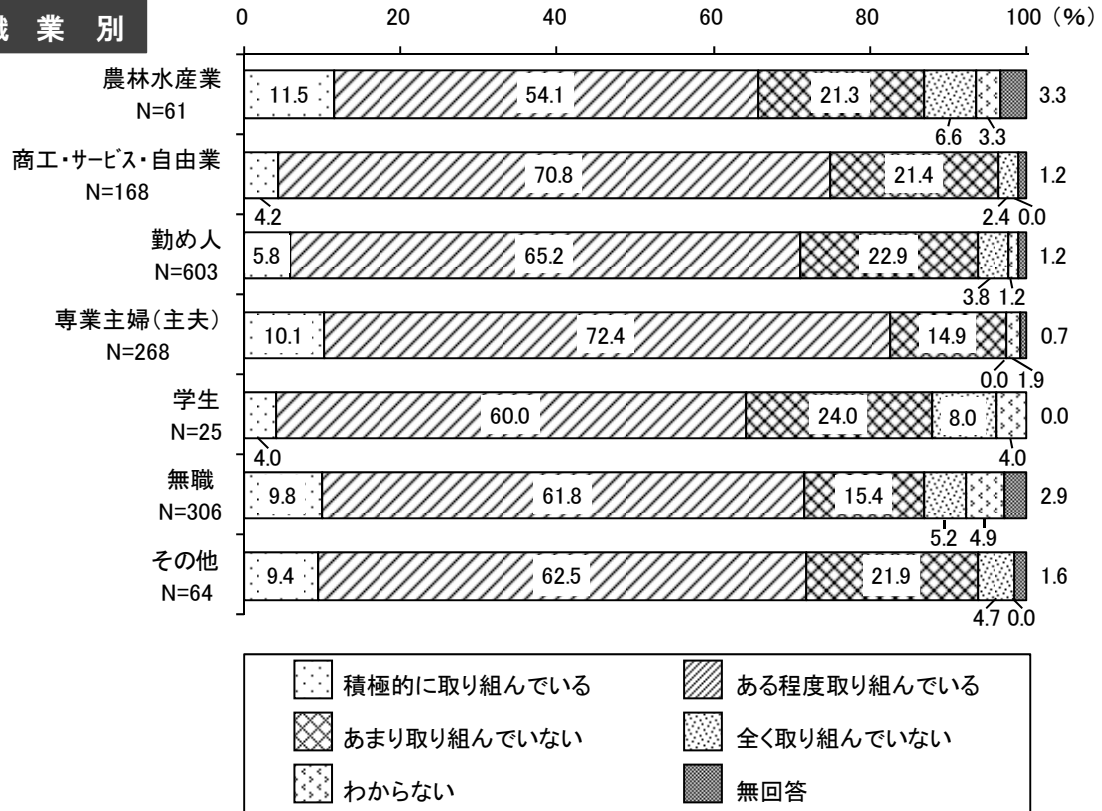
「積極的に取り組んでいる」が7.5%、「ある程度取り組んでいる」が65.8%、「あまり取り組んでいない」が19.4%、「全く取り組んでいない」が3.4%、「わからない」が2.2%となっている。「積極的に取り組んでいる」と「ある程度取り組んでいる」を合わせた『取り組んでいる』は73.3%と7割以上で、「あまり取り組んでいない」と「全く取り組んでいない」を合わせた『取り組んでいない』の22.8%を大きく上回っている。

性別でみると、『取り組んでいる』は女性の77.1%に対し、男性が69.3%と女性が男性を7.8ポイント上回っている。また、「全く取り組んでいない」では、男性は5.8%であるのに対し女性は1.5%であることから、地球温暖化防止の取り組みについては男性よりも女性の意識が高いといえる。

職業別でみると、『取り組んでいる』は専業主婦（主夫）が82.5%と8割以上で、ほかの職業と比較して非常に多くなっている。一方、『取り組んでいる』が最も少ないのは学生の64.0%、次いで農林水産業の65.6%、勤め人の71.0%となっている。



職業別



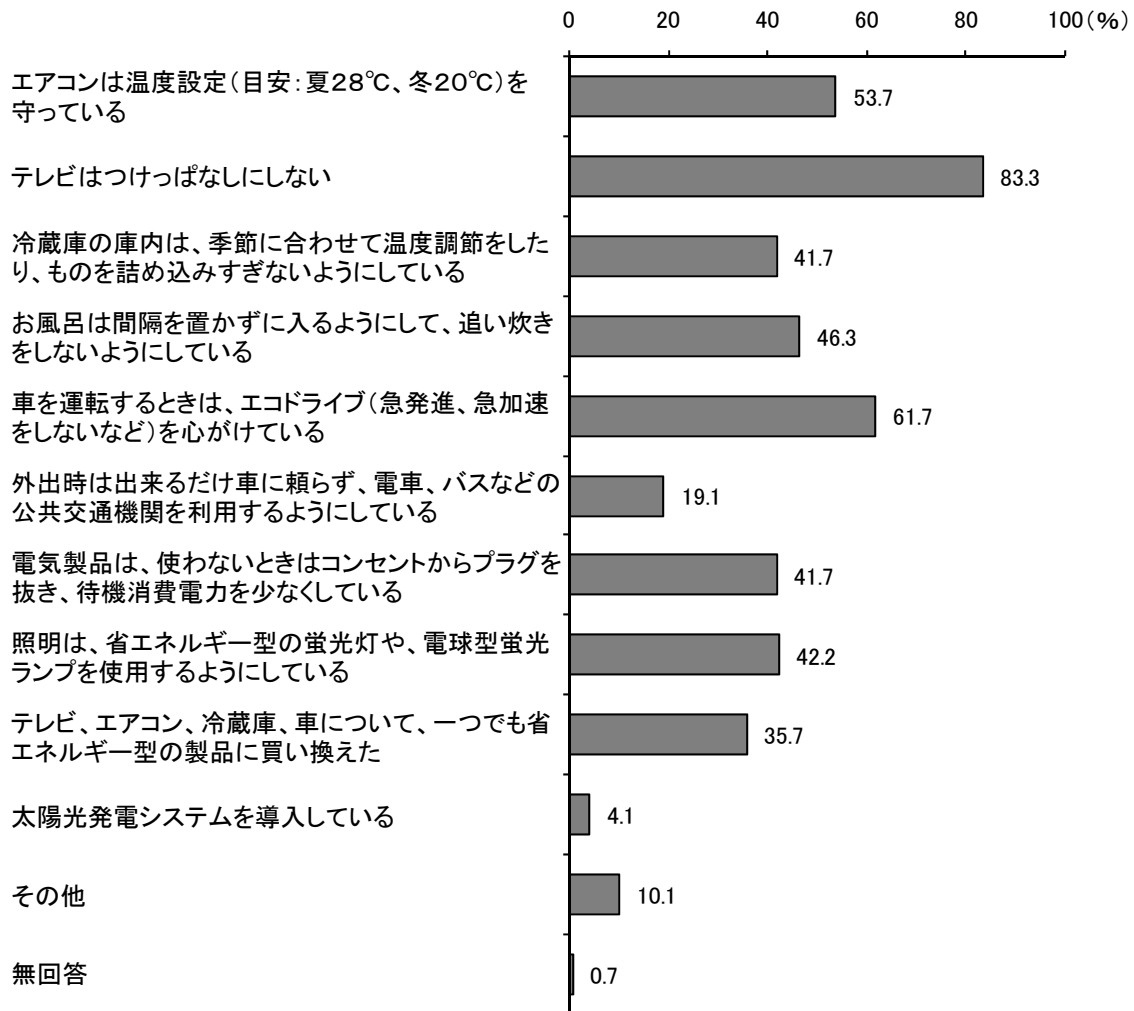
(3) 地球温暖化防止の取り組み

問 21 問 20 で「1. 積極的に取り組んでいる」「2. ある程度取り組んでいる」とお答えの方に伺います。

あなたは地球温暖化防止のために、どのような取り組みを行っていますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

N=1,109



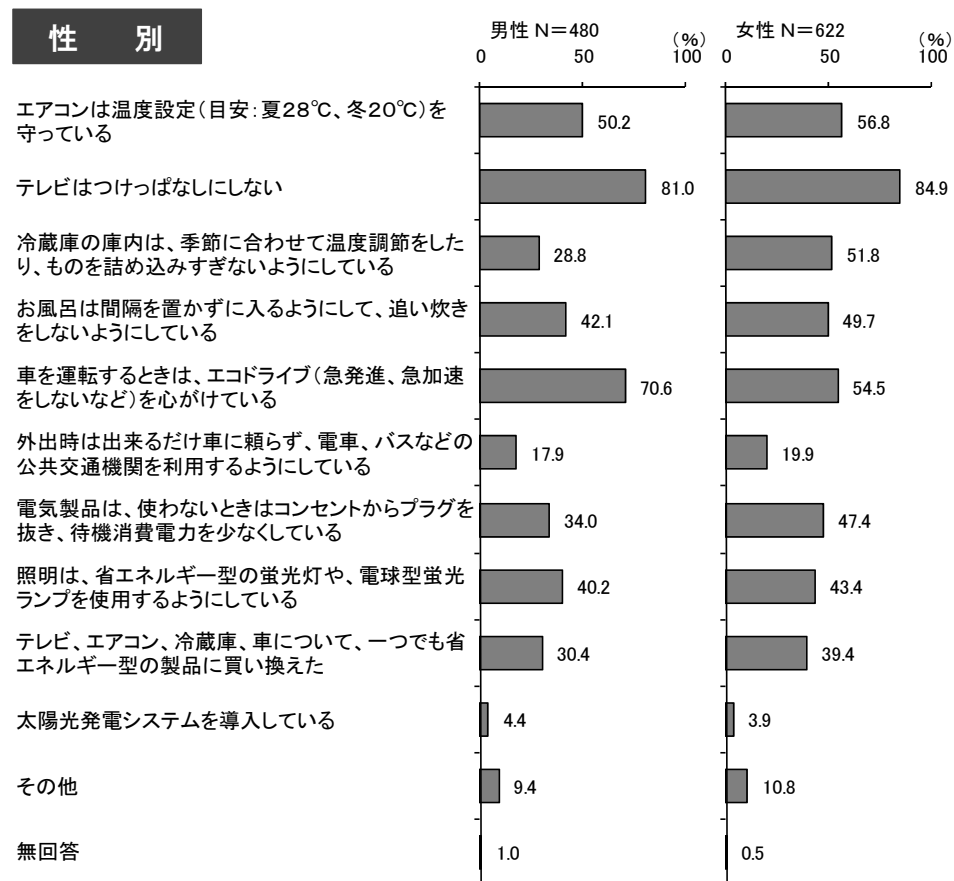
「テレビをつけっぱなしにしない」が83.3%と最も多く、8割以上を占めている。次いで「車を運転するときは、エコドライブ(急発進、急加速をしないなど)を心がけている」が61.7%、「エアコンは温度設定(目安:夏28℃、冬20℃)を守っている」が53.7%とこれらが5割を超えている一方、「太陽光発電システムを導入している」は4.1%とわずかな回答にとどまっている。

性別でみると、家庭での取り組みについてはいずれも女性が男性を上回っている。特に、「冷蔵庫の庫内は、季節に合わせて温度調節をしたり、ものを詰め込みすぎないようにしている」は女性が51.8%であるのに対し、男性は28.8%、「電気製品は、使わないときはコンセントからプラグを抜き、待機消費電力を少なくしている」は女性が47.4%であるのに対し、男性は34.0%となっている。

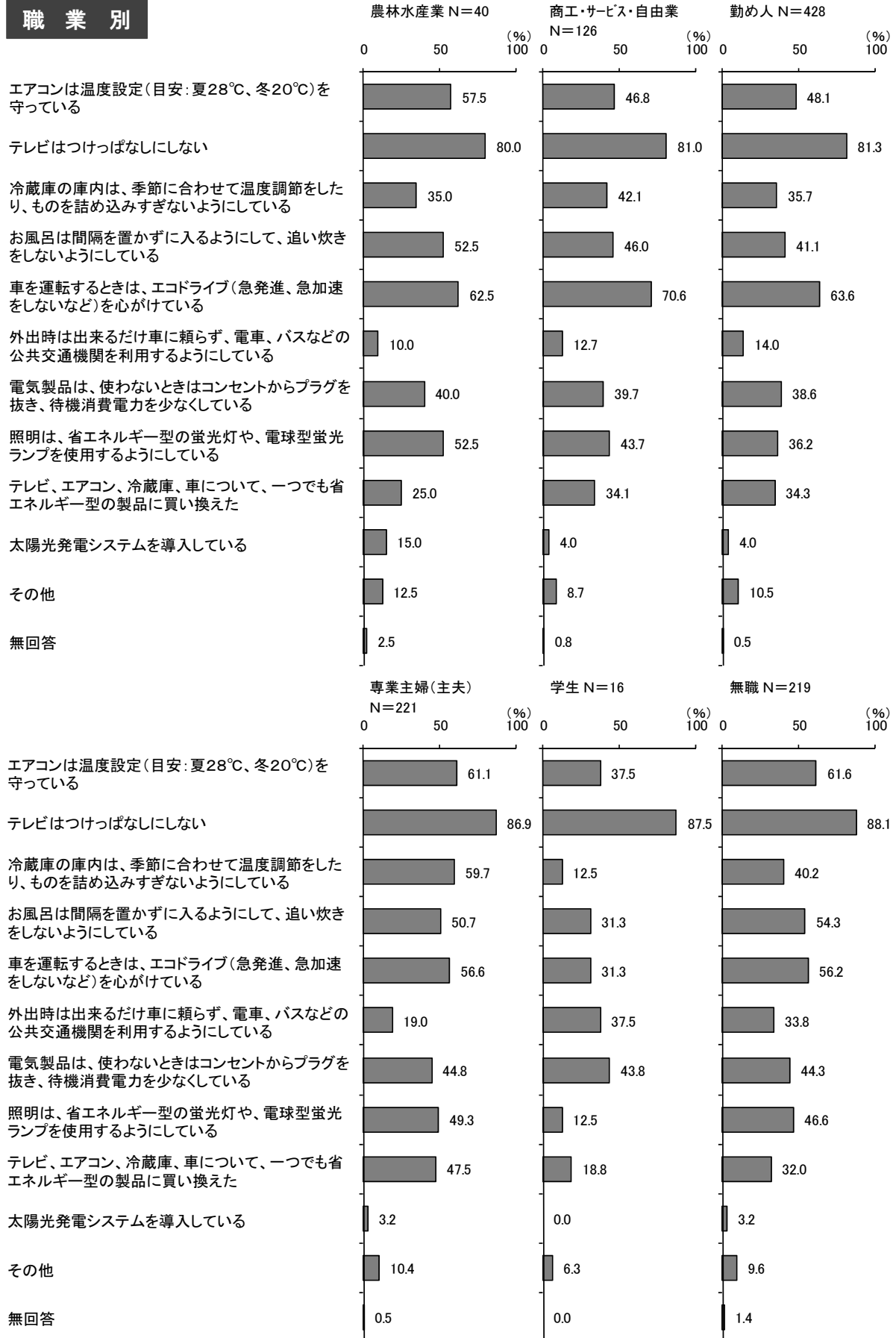
職業別でみると、「車を運転するときは、エコドライブ(急発進、急加速をしないなど)を心がけている」は商工・サービス・自由業が70.6%とほかの職業と比較して多い。「冷蔵庫の庫内は、

季節に合わせて温度調節をしたり、ものを詰め込みすぎないようにしている」および「テレビ、エアコン、冷蔵庫、車について、一つでも省エネルギー型の製品に買い換えた」は専業主婦（主夫）でそれぞれ 59.7%、47.5%とほかの職業と比較して多い。

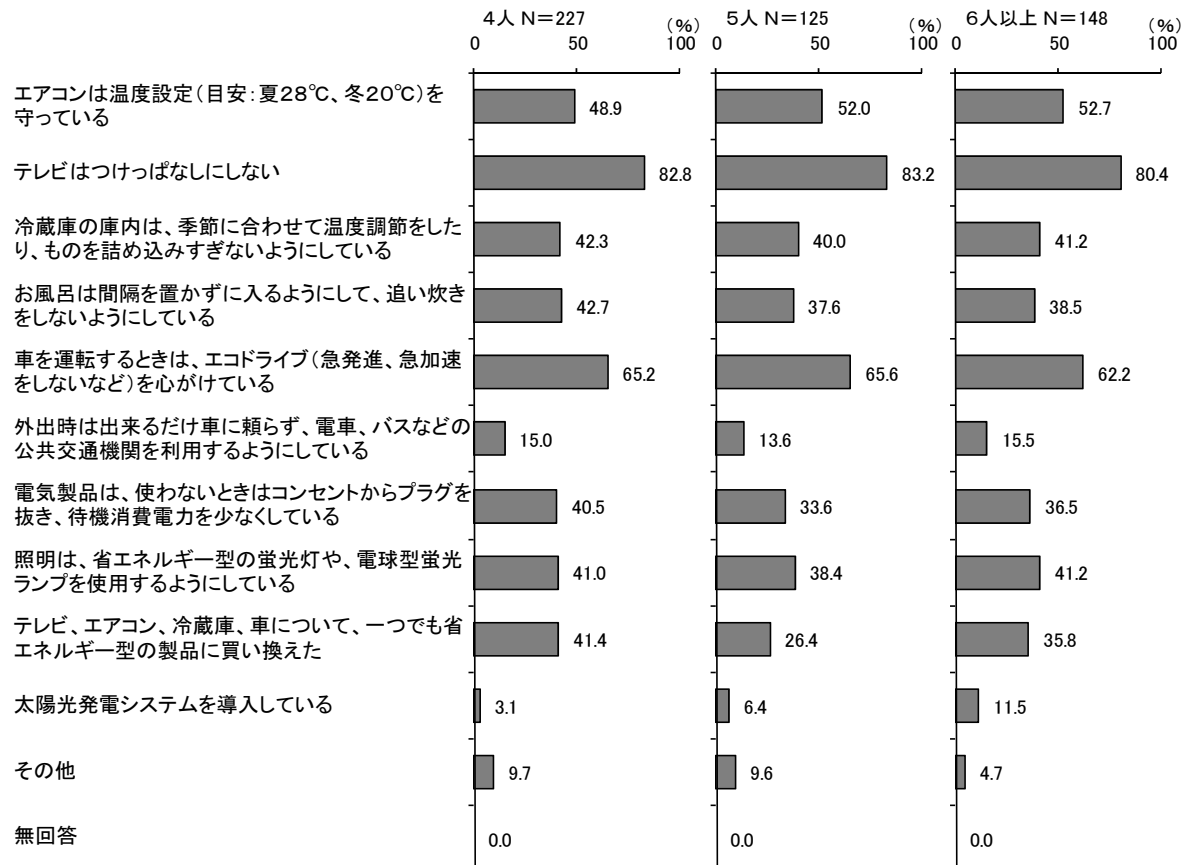
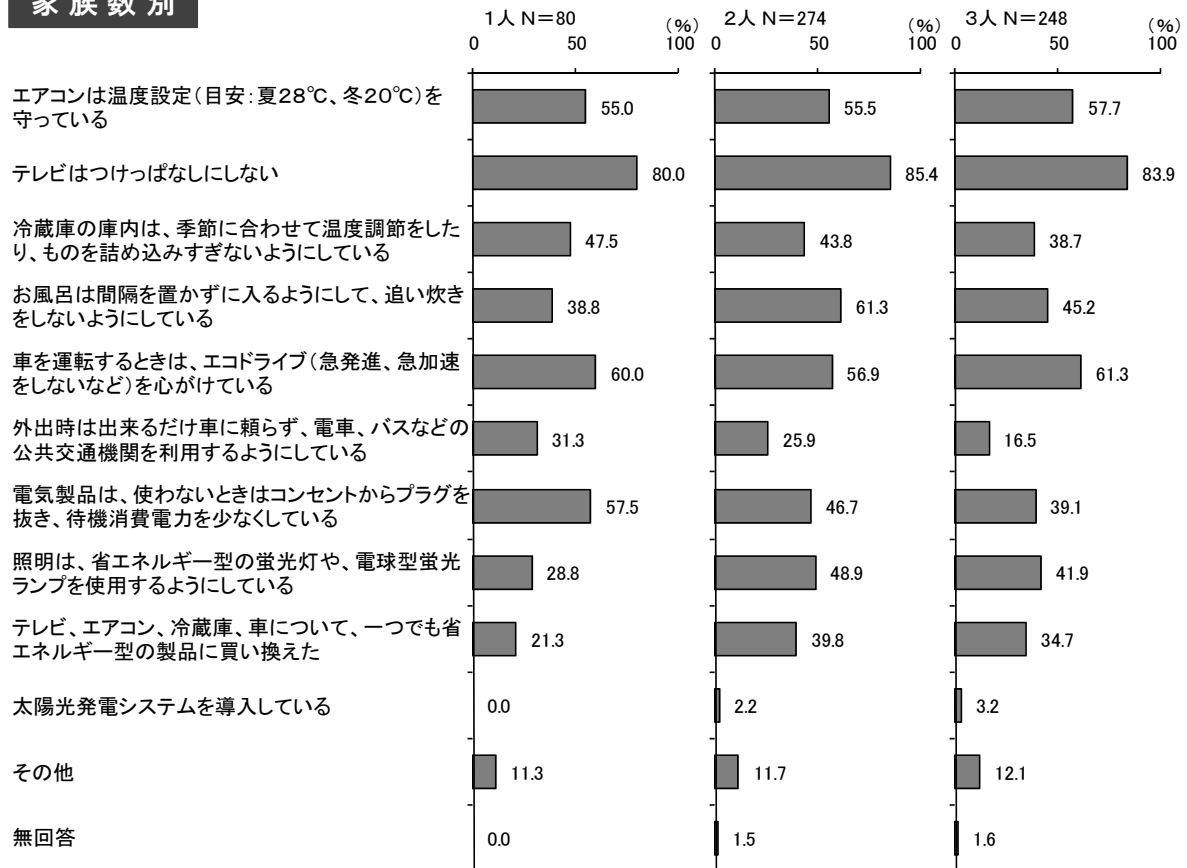
家族数別でみると、「お風呂は間隔を置かずに入るようにして、追い焚きしないようにしている」は 2 人で 61.3%とほかの家族数と比較して多い。「外出時は出来るだけ車に頼らず、電車、バスなどの公共交通機関を利用するようにしている」は 1 人が 31.3%、2 人が 25.9%とそれぞれ 2 割台で、ほかの家族数と比較して多くなっている。



職業別



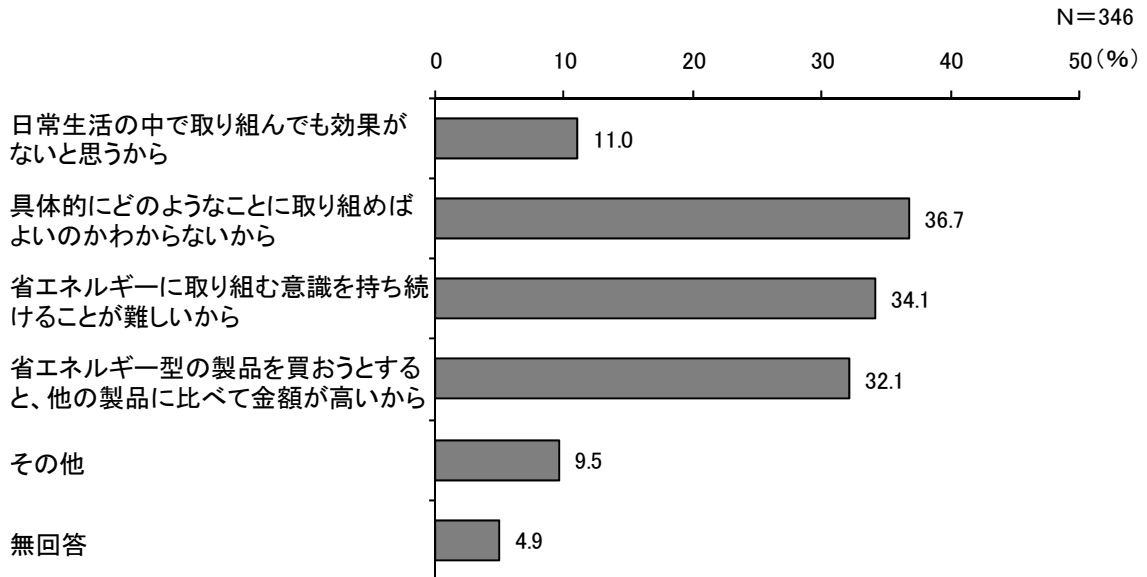
家族数別



(4) 地球温暖化防止の取り組みを行わない理由

問 22 問 20 で「3. あまり取り組んでいない」「4. 全く取り組んでいない」とお答えの方に伺います。

あなたが、省エネルギーなど地球温暖化防止の取り組みを、行わない理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

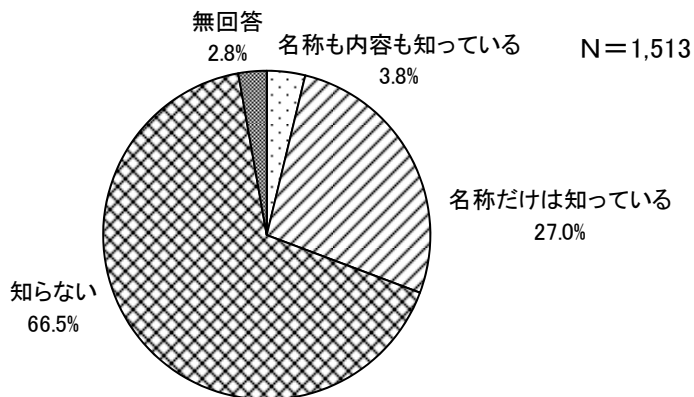


「具体的にどのようなことに取り組めばよいのかわからないから」が 36.7%、「省エネルギーに取り組む意識を持ち続けることが難しいから」が 34.1%、「省エネルギー型の製品を買おうとすると、他の製品に比べて金額が高いから」が 32.1%とこれらがそれぞれ 3 割以上となっている。一方、「日常生活の中で取り組んでも効果がないと思うから」は 11.0%とおおよそ 1 割を占めるにとどまっている。

8 子育て支援について

(1)「浜松市次世代育成支援行動計画」の認知度

問 23 あなたは、「浜松市次世代育成支援行動計画」をご存知でしたか。(1つだけ○を付けてください)



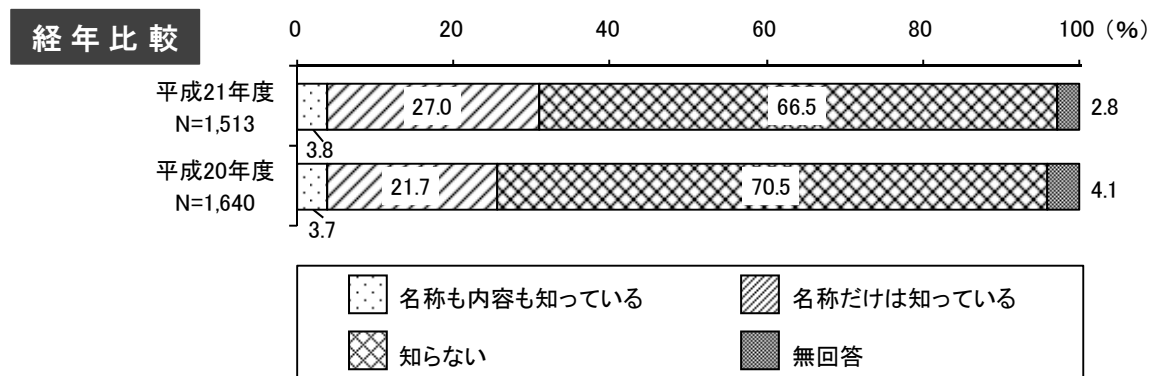
「名称も内容も知っている」が3.8%、「名称だけは知っている」が27.0%、「知らない」が66.5%となっている。「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『知っている』は30.8%となっている。

前年度調査と比較すると、『知っている』(平成20年度:25.4%、平成21年度:30.8%)は5.4ポイント増加している。

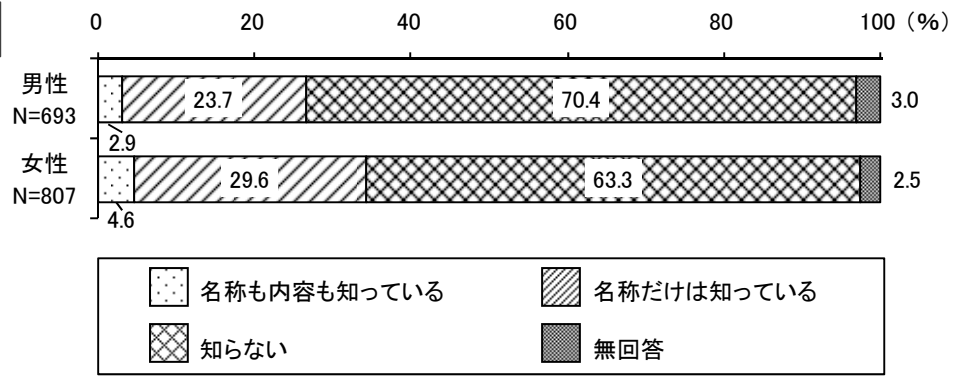
性別でみると、『知っている』は女性が34.2%、男性が26.6%と、女性が男性を7.6ポイント上回っている。しかし、「名称も内容も知っている」は女性が4.6%、男性が2.9%で男女ともに少なく、内容の認知は浸透していないといえる。

年代別でみると、『知っている』は年代が高いほど多い傾向となっており、20歳代が20.9%であるのに対し、70歳以上は40.5%となっている。しかし、「名称も内容も知っている」はいずれの年代でも5%以下となっており、大きな差はみられない。

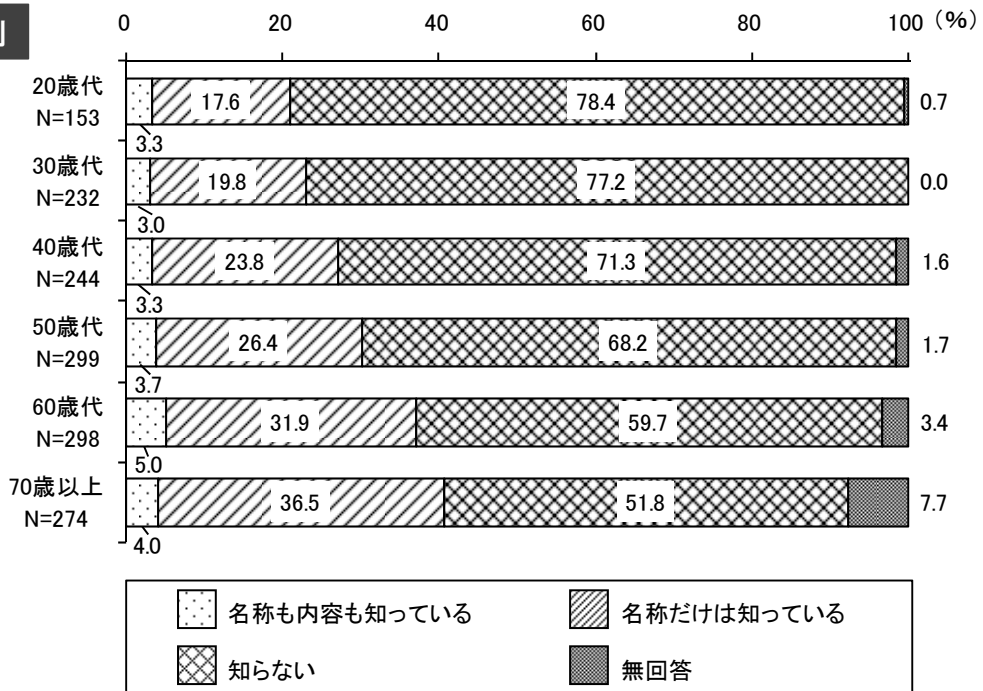
「浜松市次世代育成支援行動計画」は、性別や年代を問わず子育てに関わっていくことが重要とされていることから、計画の認知度を性別や年代問わず、全般的に向上させていくことが必要となる。



性別



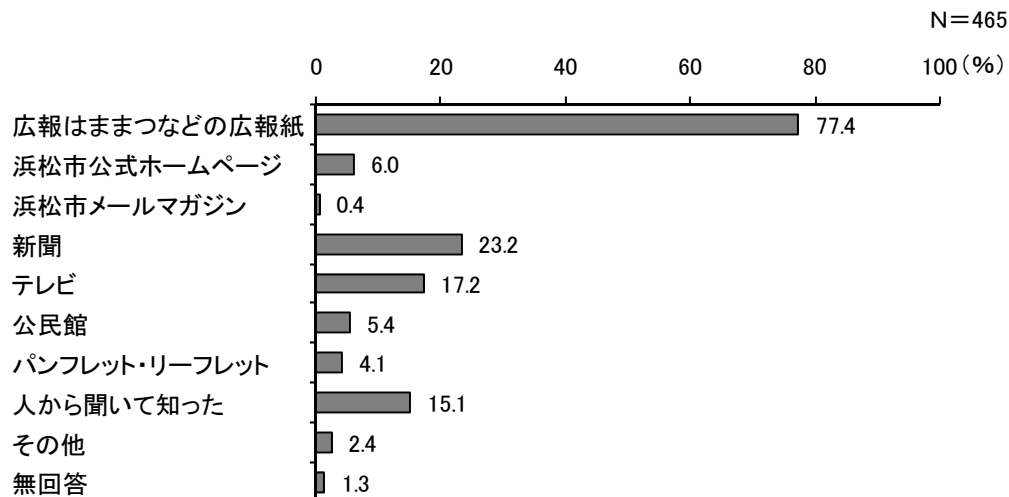
年代別



(2)「浜松市次世代育成支援行動計画」の情報源

問 24 問 23 で「1. 名称も内容も知っている」「2. 名称だけは知っている」とお答えの方に伺います。

あなたは、何で知りましたか。 (あてはまるものすべてに○を付けてください)

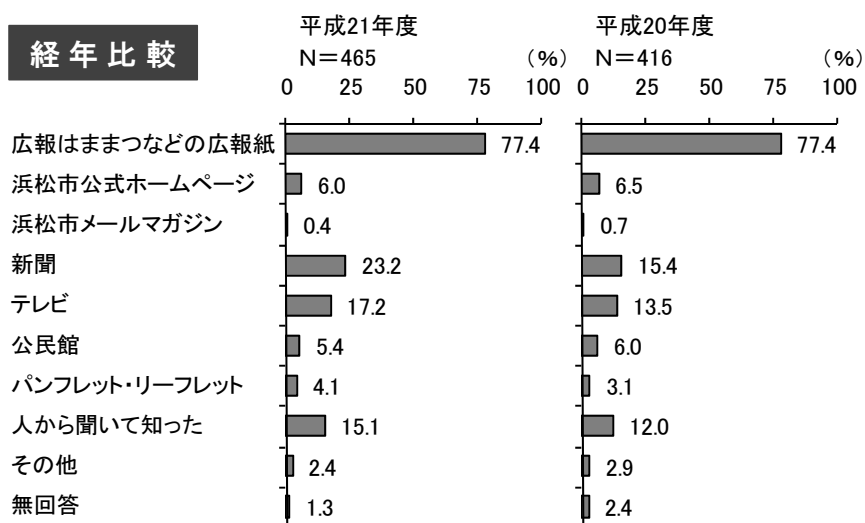


「広報はままつなどの広報紙」が 77.4%と最も多く、ほかの情報源との大きな差がみられる。次いで多いのは「新聞」の 23.2%、「テレビ」の 17.2%、「人から聞いて知った」の 15.1%でこれらが 1 割以上となっている。

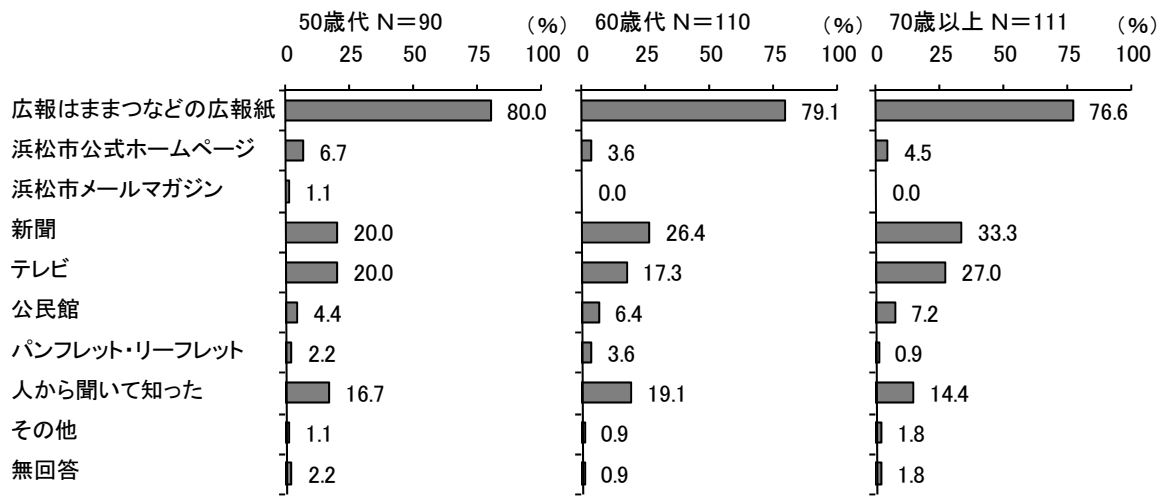
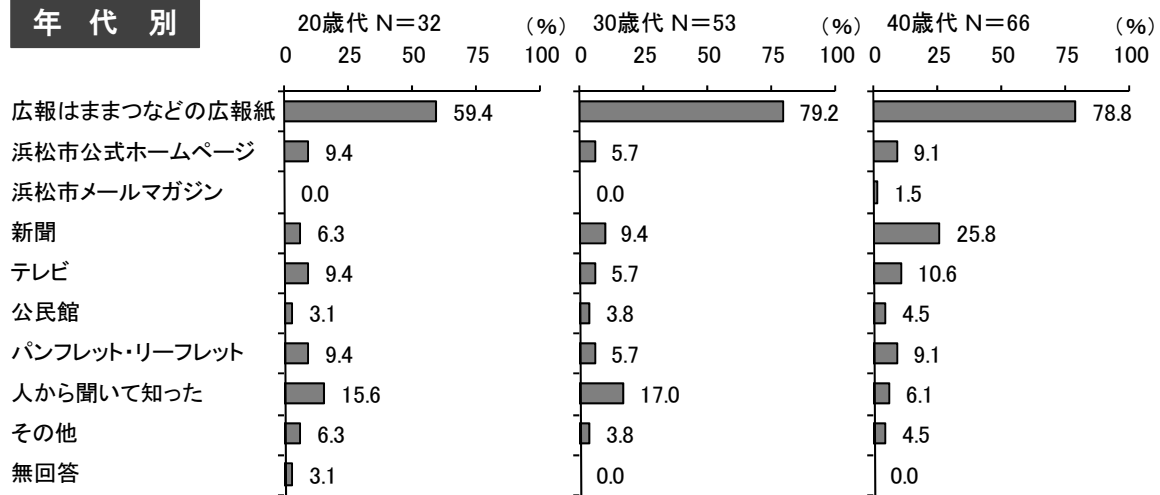
前年度調査と比較すると、「新聞」(平成 20 年度：15.4%、平成 21 年度：23.2%) および「テレビ」(平成 20 年度：13.5%、平成 21 年度：17.2%) といったメディアを情報源とする回答が増加している。

年代別でみると、「広報はままつなどの広報紙」は 30 歳代以上ではいずれの年代でも 7 割以上となっているのに対し、20 歳代は 59.4%と少ない。

情報源はライフステージやライフスタイルごとに異なることから、各広報媒体の特性を利用して、より効果的な周知活動を行っていく必要がある。

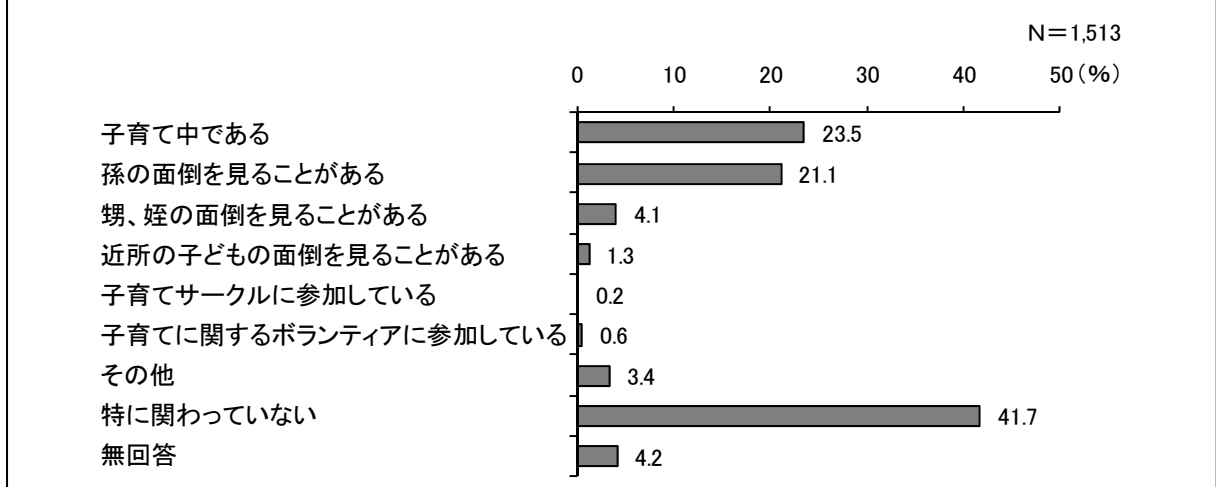


年代別



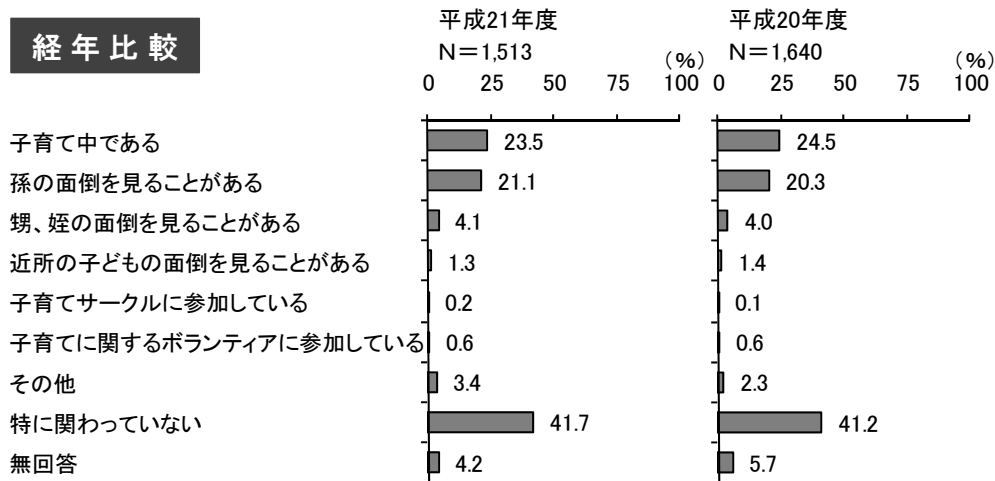
(3) 子育てへの関わり方

問 25 あなたは、「子育て」に対して、現在、どのような関わり方をしていますか。
(1つだけ○を付けてください)



関わりを持っているなかでは、「子育て中である」が 23.5%と最も多く、次いで「孫の面倒を見ることがある」が 21.1%となっている。一方、「特に関わっていない」は 41.7%となっている。前年度調査と比較すると特に大きな変化はみられない。

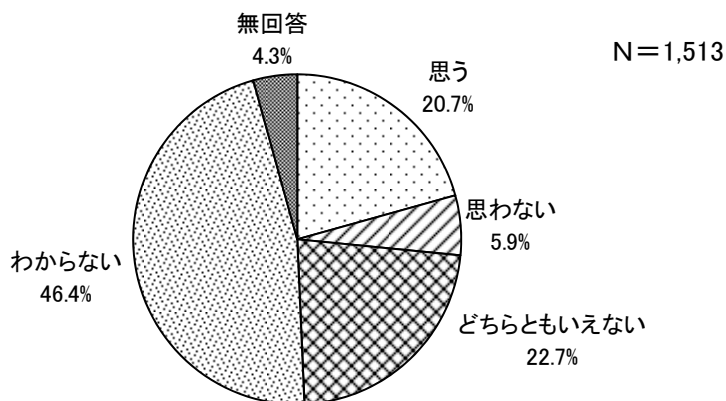
経年比較



(4) 市の行う子育て支援

問 26 市では、子育て広場やファミリーサポートセンターなど子育てに関するさまざまな支援※を行なっています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。 (1つだけ○を付けてください)

※そのほかの子育て支援としては、なかよし館、育児サークル支援、放課後児童会などの事業を行っています。

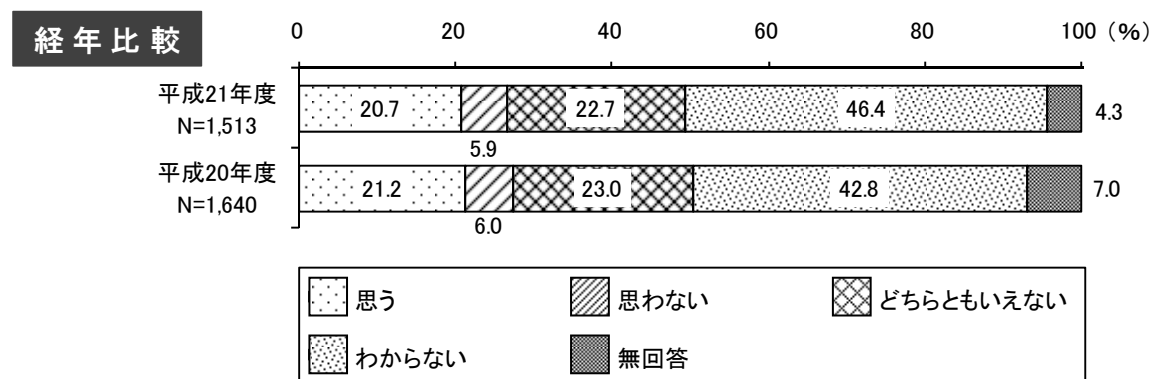


「思う」が 20.7%、「思わない」が 5.9%、「どちらともいえない」が 22.7%、「わからない」が 46.4%となっている。

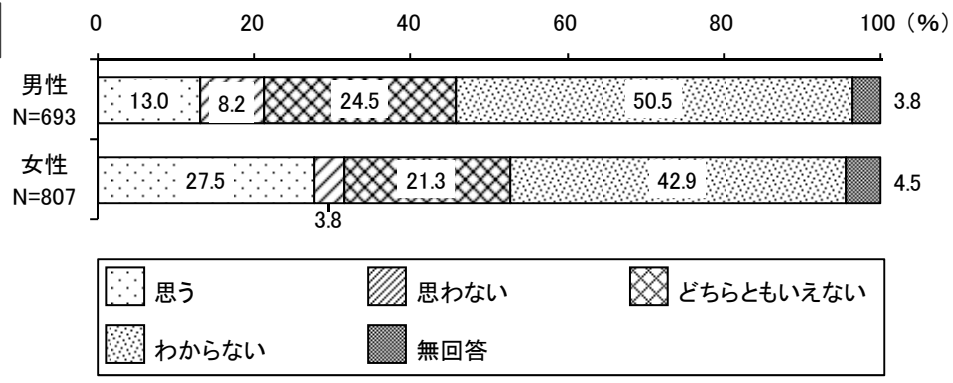
前年度調査と比較すると、「思う」(平成 20 年度：21.2%、平成 21 年度：20.7%) および「思わない」(平成 20 年度：6.0%、平成 21 年度：5.9%) とも大きな変化はみられない。

性別でみると、「思う」は女性が 27.5%、男性が 13.0%と女性が男性を大きく上回っている。一方、「思わない」は男性が 8.2%、女性が 3.8%と男性が女性を上回っている。

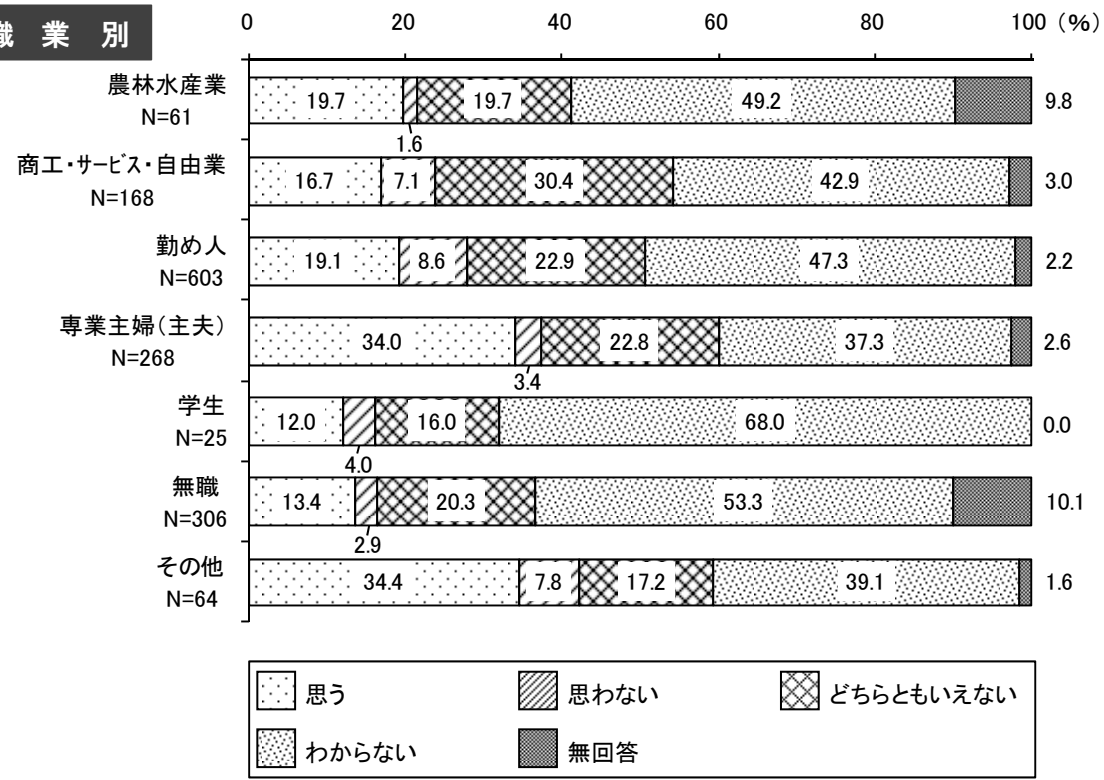
職業別でみると、「思う」は専業主婦(主婦)が 34.0%と 3 割以上を占め、ほかの職業に比べて多くなっている。一方、「思わない」は勤め人が 8.6%、商工・サービス・自由業が 7.1%とこれらが多くなっている。就業していても「子育てがしやすい」と感じられるように仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現に向けた社会基盤づくりが必要となる。



性別



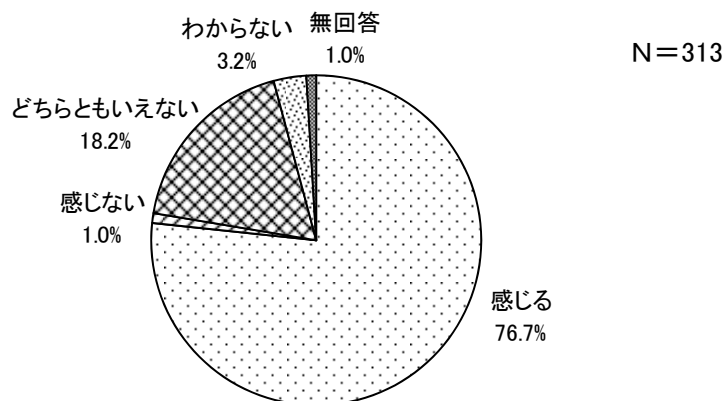
職業別



(5) 子育ては楽しいと感じるか

問 27 問 26 で「1. 思う」とお答えの方に伺います。

あなたは、子育ては楽しいことだと感じますか。 (1つだけ○を付けてください)



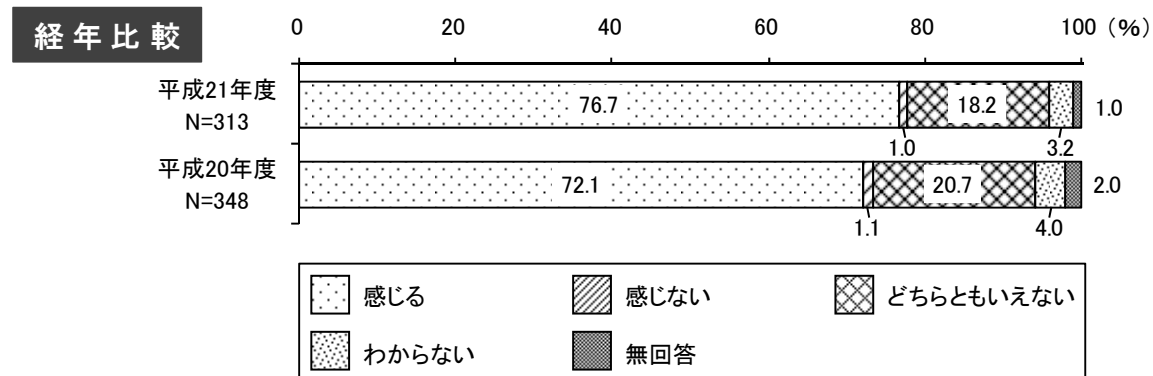
「感じる」が76.7%、「感じない」が1.0%、「どちらともいえない」が18.2%、「わからない」が3.2%となっている。

前年度調査と比較すると、「感じる」(平成20年度:72.1%、平成21年度:76.7%)は4.6ポイント増加している。

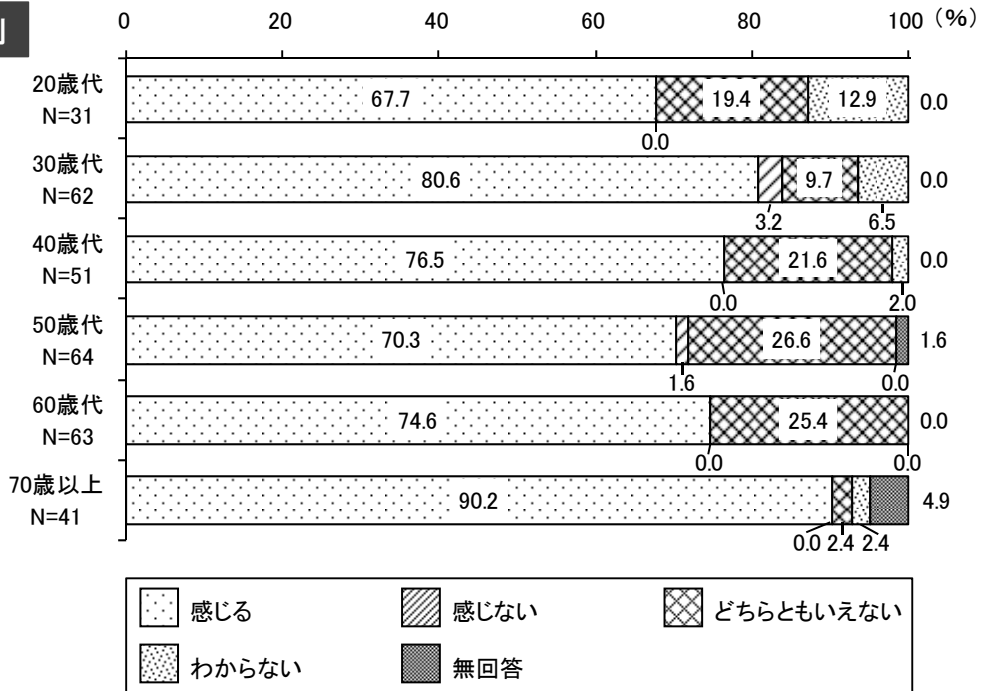
年代別でみると、「感じる」は70歳代で90.2%と最も多く、逆に20歳代では67.7%と最も少なくなっている。

行政区別でみると、「感じる」は天竜区で82.9%と最も多く、浜北区で69.4%と最も少なくなっている。

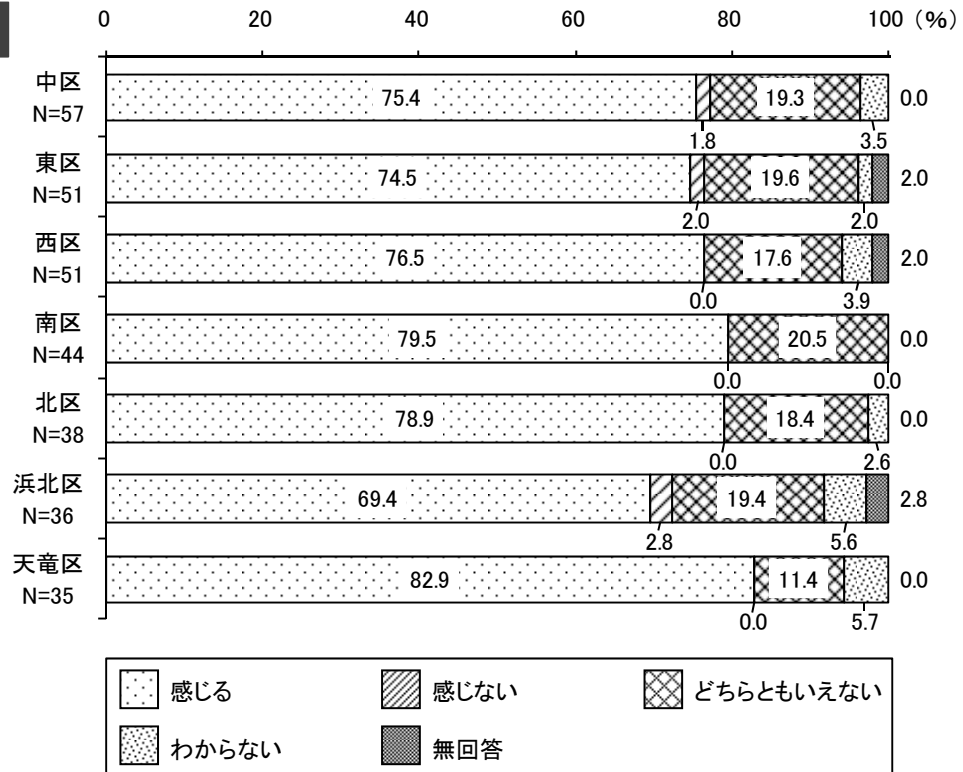
今後も、各世代のニーズに合った施策の展開や地域社会で子育てサポートを行うための気運づくりが必要である。



年代別



行政区別

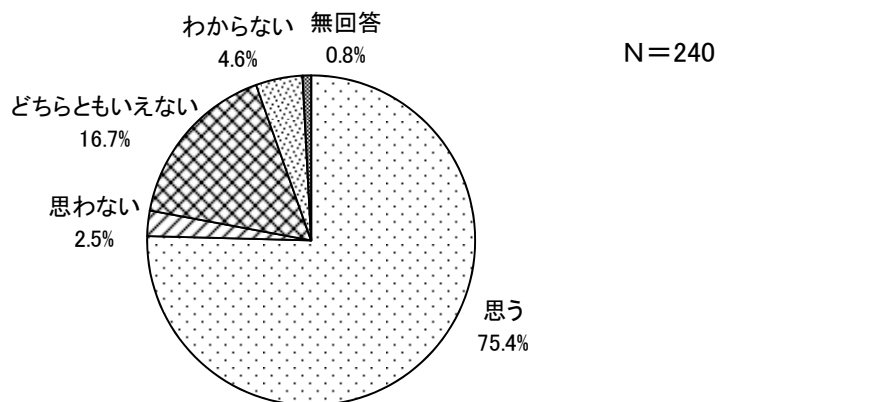


(6) 子どもの笑顔が輝いていると思うか

問 28 問 27 で「1. 感じる」とお答えの方に伺います。

あなたのまわりでは、子どもの笑顔が輝いていると思いますか。

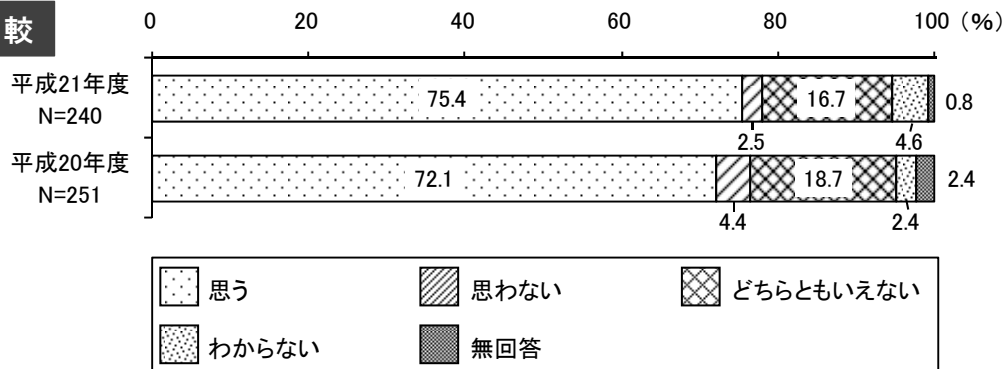
(1つだけ○を付けてください)



「思う」が 75.4%、「思わない」が 2.5%、「どちらともいえない」が 16.7%、「わからない」が 4.6%となっている。

前年度調査と比較すると、「思う」(平成 20 年度 : 72.1%、平成 21 年度 75.4%) は 3.3 ポイント増加しており、その一方で「思わない」(平成 20 年度 : 4.4%、平成 21 年度 : 2.5%) は 1.9 ポイント減少している。

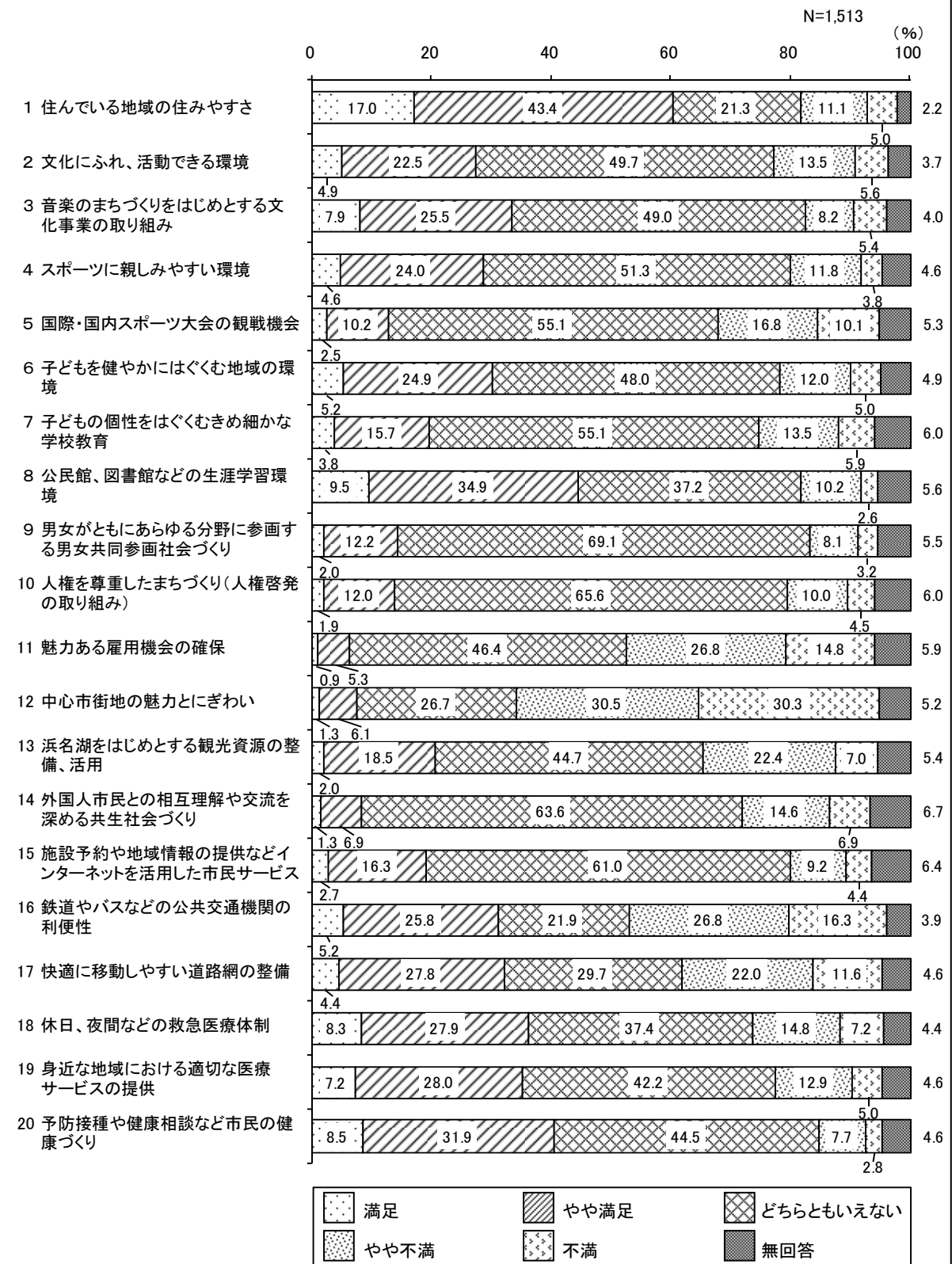
経年比較

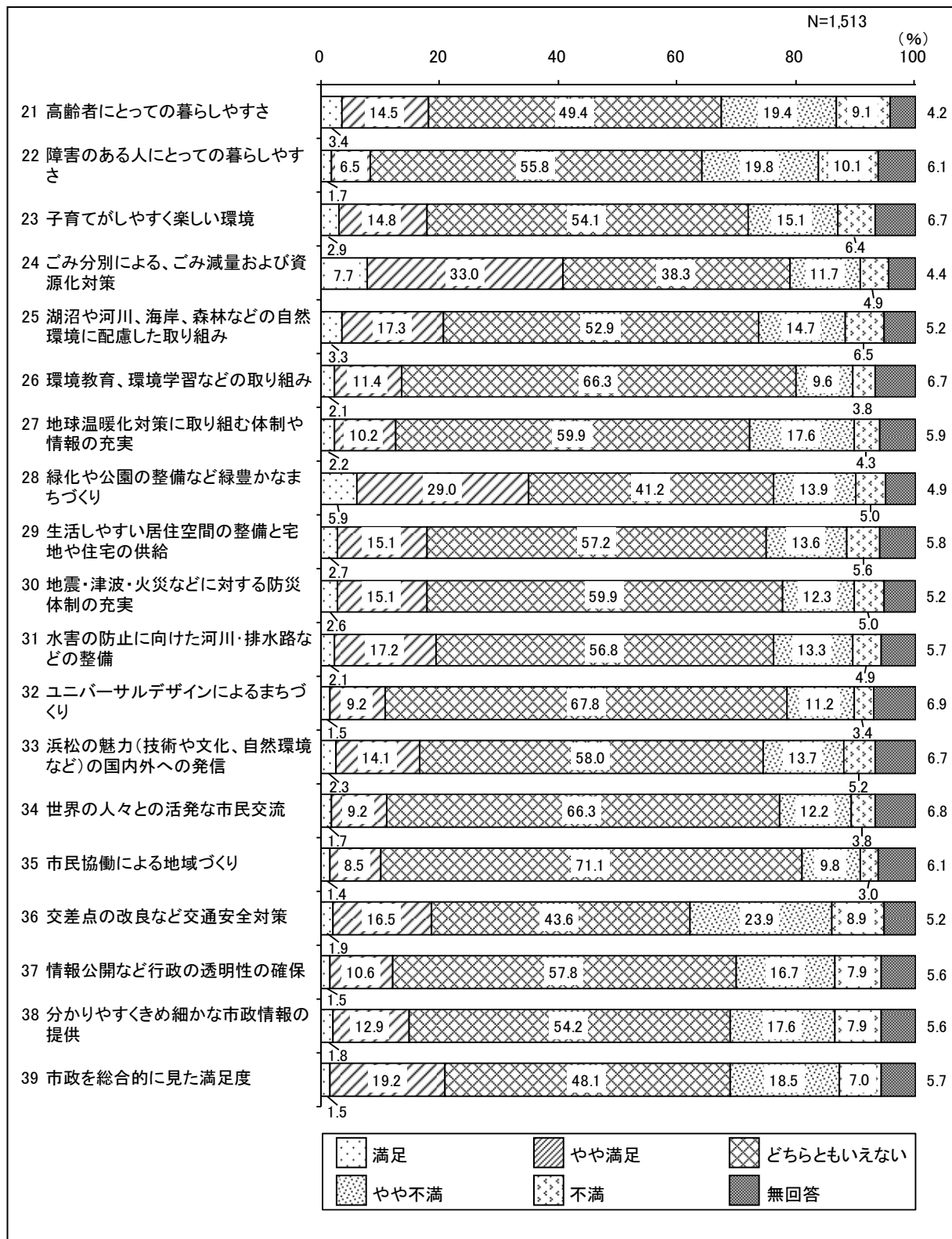


9 市政の満足度評価について

(1) 市政の満足度

問 29 あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取り組みについて日ごろどのように感じていますか。以下の各項目についてその評価を1～5のうちからそれぞれ1つだけ選び○を付けてください。





「満足」と「やや満足」を合わせた『満足している』が3割以上だったものは、以下の11項目である。

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1 住んでいる地域の住みやすさ | 60.4% |
| 8 公民館、図書館などの生涯学習環境 | 44.4% |
| 24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策 | 40.7% |
| 20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり | 40.4% |

18 休日、夜間などの救急医療体制	36.2%
19 身近な地域における適切な医療サービスの提供	35.2%
28 緑化や公園の整備など緑豊かなまちづくり	34.9%
3 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み	33.4%
17 快適に移動しやすい道路網の整備	32.2%
16 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	31.0%
6 子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	30.1%

一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満である』が3割以上だったのは、以下の5項目である。

12 中心市街地の魅力とにぎわい	60.8%
16 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	43.1%
11 魅力ある雇用機会の確保	41.6%
17 快適に移動しやすい道路網の整備	33.6%
36 交差点の改良など交通安全対策	32.8%

また、次表は「満足」を10点、「やや満足」を7.5点、「どちらともいえない」を5点、「やや不満」を2.5点、「不満」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど満足度が高くなる指数である。

性別でみると、「1 住んでいる地域の住みやすさ」が男女とも満足度が最も高い。一方、満足度が低いのは「12 中心市街地の魅力とにぎわい」で、男性が2.5点、女性が3.1点となっており、ほかの項目と比較して低くなっている。

年代別でみると、「18 休日、夜間などの救急医療体制」および「19 身近な地域における適切な医療サービスの提供」では、70歳以上で6点以上と満足度が高いのに対し、60歳代以下では5.1点から5.7点となっており、この年代を境に満足度に差がみられる。また、「24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策」では、60歳代以上で6点以上と満足度が高いのに対し、50歳代以下では5.1点から5.7点となっており、満足度に差がみられる。

行政区別でみると、「1 住んでいる地域の住みやすさ」では、天竜区とほかの区とで差がみられ、ほかの区ではいずれも6点台となっているのに対し、天竜区では5.5点と低くなっている。「24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策」では、西区で6点以上と満足度が高いのに対し、ほかの区では5点台となっている。また、「28 緑化や公園の整備など緑豊かなまちづくり」では、浜北区で6点以上と満足度が高いのに対し、ほかの区では5点台となっている。「39 市政を総合的に見た満足度」では、中区が5.1点と最も高く4点台のほかの区と比べて差がみられた一方、満足度が最も低かったのは天竜区の4.1点となっている。

性別 年代別

◎ = 6点以上 △ = 4点以下

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 住んでいる地域の住みやすさ	◎ 6.4	◎ 6.3	◎ 6.6	◎ 6.5	◎ 6.4	◎ 6.0	◎ 6.4	◎ 6.6	◎ 6.7
2 文化にふれ、活動できる環境	5.2	5.0	5.3	5.4	5.2	4.9	5.0	5.3	5.4
3 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み	5.6	5.4	5.8	5.3	5.5	5.6	5.5	5.6	5.9
4 スポーツに親しみやすい環境	5.4	5.3	5.4	5.4	5.4	5.3	5.3	5.3	5.6
5 国際・国内スポーツ大会の観戦機会	4.4	4.1	4.7	4.5	4.6	4.3	4.2	4.3	4.8
6 子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	5.4	5.2	5.5	5.4	5.0	5.3	5.3	5.4	5.7
7 子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	4.9	4.8	5.1	4.7	4.9	4.7	4.8	5.0	5.4
8 公民館、図書館などの生涯学習環境	◎ 6.0	5.9	◎ 6.2	◎ 6.2	◎ 6.0	5.6	5.9	◎ 6.1	◎ 6.4
9 男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	5.0	5.1	5.0	5.2	5.0	4.8	4.8	5.2	5.4
10 人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	4.9	4.9	5.0	5.1	4.8	4.8	4.8	4.9	5.2
11 魅力ある雇用機会の確保	△ 3.7	△ 3.7	△ 3.7	△ 3.7	△ 3.7	△ 3.4	△ 3.5	△ 3.7	4.2
12 中心市街地の魅力とにぎわい	△ 2.8	△ 2.5	△ 3.1	△ 3.2	△ 2.2	△ 2.2	△ 2.6	△ 3.2	△ 3.6
13 浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.6	4.3	4.9	4.9	4.5	4.2	4.6	4.7	5.1
14 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.5	4.4	4.6	4.4	4.3	4.4	4.5	4.5	4.7
15 施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	5.1	4.9	5.3	5.3	5.3	5.1	5.0	5.0	5.1
16 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	4.4	4.2	4.6	4.4	△ 4.0	△ 4.0	4.1	4.5	5.4
17 快適に移動しやすい道路網の整備	4.8	4.5	5.0	4.9	4.6	4.5	4.5	4.9	5.4
18 休日、夜間などの救急医療体制	5.4	5.1	5.6	5.4	5.1	5.2	5.2	5.6	◎ 6.0
19 身近な地域における適切な医療サービスの提供	5.5	5.3	5.7	5.7	5.4	5.2	5.3	5.5	◎ 6.1
20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり	5.9	5.7	◎ 6.1	◎ 6.2	5.7	5.7	5.5	◎ 6.0	◎ 6.6
21 高齢者にとっての暮らしやすさ	4.6	4.5	4.7	4.7	4.2	4.4	4.2	4.8	5.2
22 障害のある人にとっての暮らしやすさ	4.2	4.2	4.2	4.4	△ 4.0	4.1	△ 3.9	4.3	4.7
23 子育てがしやすく楽しい環境	4.8	4.5	5.0	5.0	4.4	4.7	4.6	4.9	5.3
24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	5.7	5.5	5.8	5.7	5.1	5.5	5.4	◎ 6.1	◎ 6.5
25 湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した取り組み	4.9	4.7	5.1	5.1	5.0	4.6	4.7	5.0	5.2
26 環境教育、環境学習などの取り組み	5.0	4.8	5.1	5.1	5.0	4.8	4.8	5.0	5.3
27 地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	4.7	4.5	4.8	4.9	4.6	4.4	4.4	4.7	5.3
28 緑化や公園の整備など緑豊かなまちづくり	5.4	5.3	5.6	5.9	5.3	5.4	5.2	5.3	5.8
29 生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	4.9	4.7	5.1	5.1	4.9	4.8	4.5	5.0	5.3
30 地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	5.0	4.9	5.0	5.1	4.6	5.0	4.8	5.0	5.4
31 水害の防止に向けた河川・排水路などの整備	5.0	4.9	5.0	5.1	4.8	4.9	4.9	4.9	5.2
32 ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.8	4.7	5.0	4.9	4.7	4.8	4.8	4.9	5.1
33 浜松の魅力(技術や文化、自然環境など)の国内外への発信	4.9	4.7	5.0	4.9	4.6	4.7	4.7	5.1	5.3
34 世界の人々との活発な市民交流	4.8	4.7	4.9	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8	5.1
35 市民協働による地域づくり	4.9	4.7	5.0	4.8	4.8	4.6	4.8	4.9	5.3
36 交差点の改良など交通安全対策	4.4	4.1	4.7	4.4	4.3	4.1	4.1	4.8	5.0
37 情報公開など行政の透明性の確保	4.5	4.3	4.7	4.5	4.4	4.4	4.2	4.6	4.9
38 分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	4.6	4.3	4.8	4.4	4.3	4.4	4.2	4.8	5.3
39 市政を総合的に見た満足度	4.7	4.5	4.9	4.9	4.5	4.4	4.5	4.9	5.3

行政区別

◎ = 6点以上 △ = 4点以下

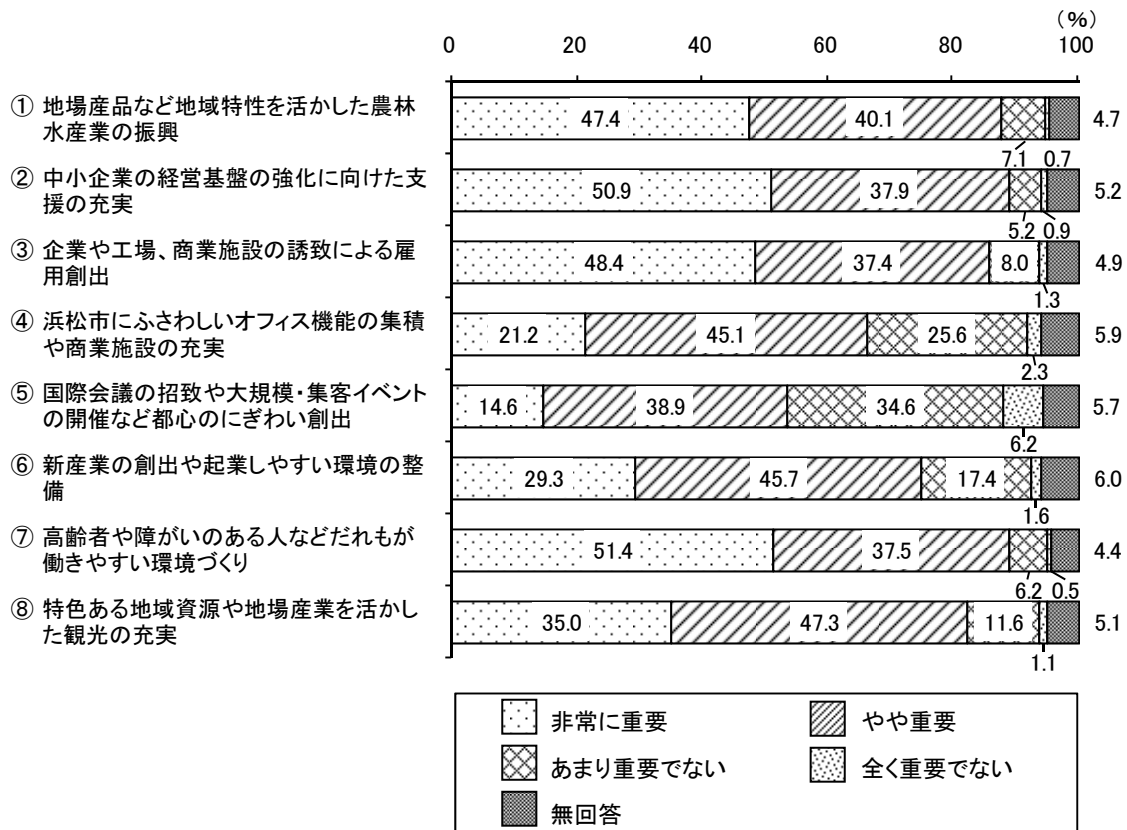
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
1 住んでいる地域の住みやすさ	◎ 6.9	◎ 6.5	◎ 6.4	◎ 6.2	◎ 6.7	◎ 6.6	5.5
2 文化にふれ、活動できる環境	5.4	5.0	5.3	5.2	5.4	5.4	4.6
3 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み	5.9	5.8	5.6	5.6	5.5	5.6	4.9
4 スポーツに親しみやすい環境	5.4	5.5	5.5	5.3	5.2	5.7	5.0
5 国際・国内スポーツ大会の観戦機会	4.5	4.8	4.6	4.5	4.2	4.3	△ 4.0
6 子どもを健やかにほぐむ地域の環境	5.2	5.3	5.6	5.1	5.5	5.4	5.5
7 子どもの個性をはぐむきめ細かな学校教育	4.8	5.0	5.1	4.7	5.0	5.0	5.2
8 公民館、図書館などの生涯学習環境	◎ 6.2	◎ 6.0	◎ 6.3	5.8	◎ 6.1	◎ 6.3	5.4
9 男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	5.0	5.2	5.2	5.0	5.0	4.9	5.1
10 人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	4.9	5.0	5.0	4.8	4.8	5.1	4.7
11 魅力ある雇用機会の確保	△ 3.7	△ 3.9	△ 3.8	△ 3.5	△ 3.6	△ 4.0	△ 3.3
12 中心市街地の魅力とにぎわい	△ 2.4	△ 2.9	△ 2.8	△ 2.5	△ 3.2	△ 3.2	△ 3.2
13 浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.5	4.7	4.8	4.7	4.3	4.8	4.8
14 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.3	4.5	4.6	4.3	4.5	4.7	4.5
15 施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	5.2	5.3	5.1	5.1	5.2	5.3	4.6
16 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	5.2	4.5	4.2	4.6	4.1	4.5	△ 3.2
17 快適に移動しやすい道路網の整備	5.1	4.7	5.2	5.0	4.6	4.9	△ 3.7
18 休日、夜間などの救急医療体制	5.8	5.6	5.6	5.6	5.4	5.0	4.4
19 身近な地域における適切な医療サービスの提供	5.8	5.6	5.7	5.6	5.5	5.4	4.5
20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり	◎ 6.2	◎ 6.1	◎ 6.1	5.7	5.7	◎ 6.0	5.5
21 高齢者にとっての暮らしやすさ	4.7	4.7	4.6	4.3	4.9	4.7	4.1
22 障害のある人にとっての暮らしやすさ	4.2	4.3	4.3	4.1	4.2	4.4	△ 3.8
23 子育てがしやすい楽しい環境	4.8	4.9	5.1	4.5	4.9	4.8	4.6
24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	5.7	5.8	◎ 6.0	5.7	5.5	5.2	5.8
25 湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した取り組み	5.0	4.9	5.0	4.7	4.8	5.1	4.9
26 環境教育、環境学習などの取り組み	4.9	4.9	5.0	5.0	4.9	5.2	4.9
27 地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	4.7	4.6	4.8	4.7	4.5	4.8	4.6
28 緑化や公園の整備など緑豊かなまちづくり	5.5	5.3	5.5	5.5	5.1	◎ 6.1	5.2
29 生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	5.1	5.0	4.9	4.7	4.9	5.1	4.5
30 地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	5.0	5.0	5.0	4.8	5.1	5.3	4.6
31 水害の防止に向けた河川・排水路などの整備	5.0	5.2	5.0	4.8	5.0	5.2	4.5
32 ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.9	4.9	5.0	4.9	4.9	4.7	4.6
33 浜松の魅力(技術や文化、自然環境など)の国内外への発信	5.0	4.8	4.9	4.8	4.6	4.9	5.0
34 世界の人々との活発な市民交流	4.8	4.8	4.8	4.9	4.8	4.8	4.8
35 市民協働による地域づくり	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	4.8	4.9
36 交差点の改良など交通安全対策	4.4	4.5	4.6	4.7	4.2	4.3	4.3
37 情報公開など行政の透明性の確保	4.7	4.6	4.7	4.3	4.4	4.4	4.3
38 分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	4.7	4.7	4.8	4.3	4.4	4.5	4.5
39 市政を総合的に見た満足度	5.1	4.8	4.9	4.6	4.7	4.7	4.1

10 市政への要望について

問 30 あなたは、浜松市が積極的・重点的に取り組んでいくべき具体的な施策として、以下の各項目についてどの程度重要だと思いますか。各項目について重要度を1～4のうちからそれぞれ1つだけ選んで○を付けてください。

(1) 産業・経済分野に対する取り組み

N=1,513



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の5項目となっている。

- | | |
|-------------------------------|-------|
| ⑦ 高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり | 88.9% |
| ② 中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実 | 88.8% |
| ① 地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興 | 87.5% |
| ③ 企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出 | 85.8% |
| ⑧ 特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実 | 82.3% |

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別 **年代別** **行政区別**

◎ = 8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
① 地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	◎ 8.0	7.9	◎ 8.1	7.4	7.6	7.7	◎ 8.3	◎ 8.3	◎ 8.2
② 中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	◎ 8.2	◎ 8.2	◎ 8.2	◎ 8.2	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.1	◎ 8.0
③ 企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.0	7.9	7.8	7.8	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.0
④ 浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	6.3	6.1	6.5	5.8	6.2	6.2	6.2	6.3	7.0
⑤ 国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	5.5	5.4	5.6	5.5	5.2	5.1	5.4	5.6	6.2
⑥ 新産業の創出や起業しやすい環境の整備	6.9	7.2	6.7	6.7	6.2	6.6	7.2	7.4	7.4
⑦ 高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.4	◎ 8.4	◎ 8.2	◎ 8.1	◎ 8.3	◎ 8.1	◎ 8.1
⑧ 特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	7.4	7.2	7.6	7.1	7.3	7.3	7.3	7.5	7.6

	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	7.9	◎ 8.0	7.9	7.8	◎ 8.1	7.8	◎ 8.6
② 中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	7.9	◎ 8.4	◎ 8.0	◎ 8.3	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.5
③ 企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	7.7	7.9	◎ 8.0	◎ 8.1	◎ 8.0	7.7	◎ 8.4
④ 浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	6.5	6.1	6.5	6.4	6.1	6.1	6.5
⑤ 国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	5.6	5.7	5.6	5.5	5.0	5.4	5.6
⑥ 新産業の創出や起業しやすい環境の整備	6.9	6.8	6.8	6.9	7.1	6.8	7.4
⑦ 高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.1	◎ 8.3	◎ 8.2	◎ 8.2	◎ 8.5
⑧ 特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	7.4	7.4	7.3	7.4	7.2	7.4	7.7

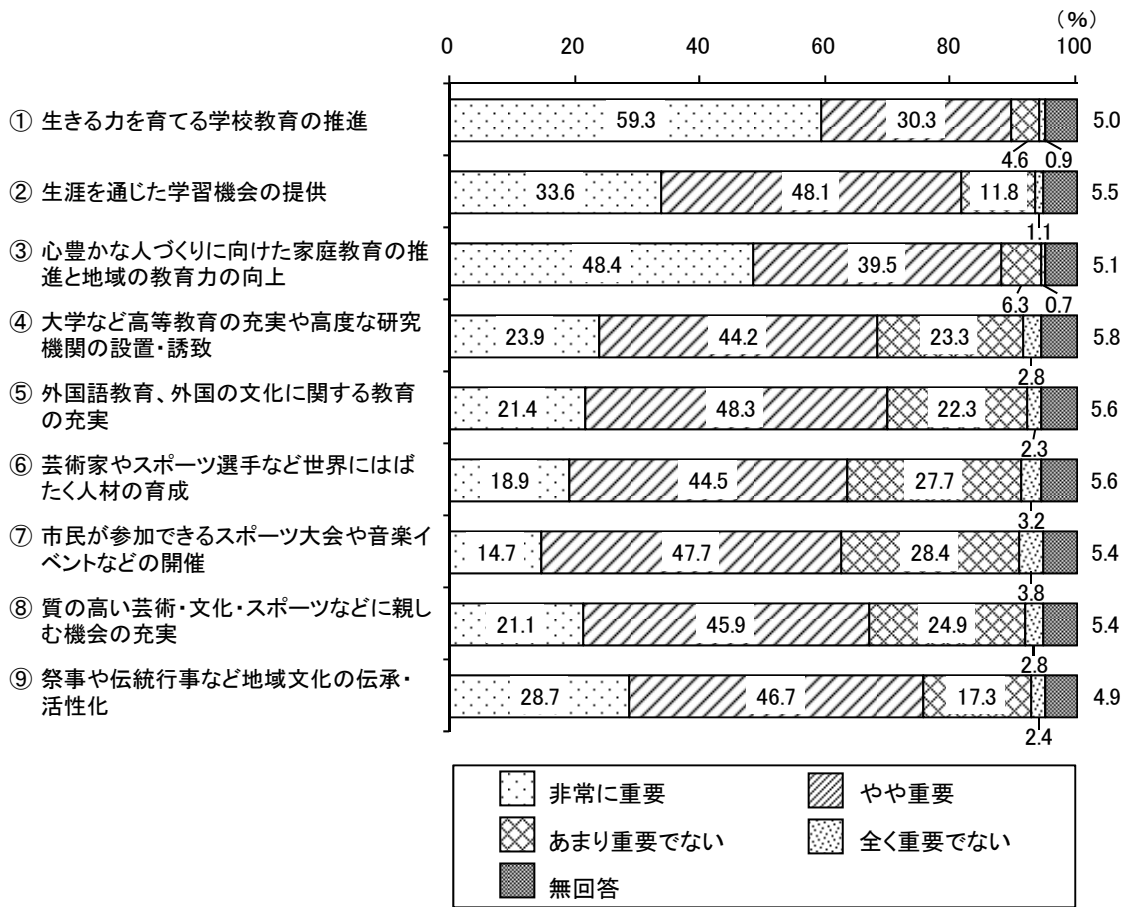
性別でみると、男女とも8点以上の高い重要度であったのは「②中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実」、「③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出」および「⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり」となっている。一方、「④浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実」および「⑧特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実」では女性が男性を、「⑥新産業の創出や起業しやすい環境の整備」では男性が女性を上回り、それぞれ男女の意識に違いがみられる。

年代別でみると、いずれの年代でも8点以上の高い重要度であったのは「②中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実」および「⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり」となっている。「①地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興」および「③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出」では50歳代以上で8点以上と高い重要度となっている。また、「⑥新産業の創出や起業しやすい環境の整備」では50歳代以上でいずれも7点台となっているのに対し、40歳代以下では6点台となっており、この年代を境に意識の違いがみられる。

行政区別でみると、「⑦高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり」はいずれの年代でも8点以上の高い重要度となっている。「①地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興」、「②中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実」および「③企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出」では区による差がみられ、この3項目いずれにおいても天竜区が最も高い点数となっている。

(2) 教育、文化、スポーツに対する取り組み

N=1,513



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の3項目となっている。

- ① 生きる力を育てる学校教育の推進 89.6%
- ③ 心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上 87.9%
- ② 生涯を通じた学習機会の提供 81.7%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別 **年代別** **行政区別**

◎ = 8点以上

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
① 生きる力を育てる学校教育の推進	◎ 8.5	◎ 8.3	◎ 8.7	7.8	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.8	◎ 8.9
② 生涯を通じた学習機会の提供	7.3	7.1	7.5	7.1	7.4	7.2	7.4	7.3	7.6
③ 心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	◎ 8.1	7.7	◎ 8.4	7.8	◎ 8.1	7.9	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.4
④ 大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	6.4	6.4	6.5	6.1	6.1	6.3	6.4	6.5	7.2
⑤ 外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	6.4	6.3	6.6	6.6	6.8	6.3	6.2	6.3	6.6
⑥ 芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	6.1	5.9	6.3	6.1	6.3	5.7	5.9	6.0	6.7
⑦ 市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	5.9	5.7	6.0	6.0	5.9	5.5	5.8	5.8	6.4
⑧ 質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	6.3	6.1	6.4	6.5	6.4	6.1	6.4	6.1	6.5
⑨ 祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	6.9	6.7	7.0	7.0	7.2	6.6	6.7	7.0	6.8

	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 生きる力を育てる学校教育の推進	◎ 8.4	◎ 8.6	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.8
② 生涯を通じた学習機会の提供	7.3	7.7	7.4	7.2	7.1	7.1	7.4
③ 心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.2	7.8	◎ 8.0	◎ 8.4
④ 大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	6.6	6.5	6.4	6.4	6.2	6.4	6.4
⑤ 外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	6.5	6.8	6.3	6.6	6.3	6.2	6.2
⑥ 芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	6.2	5.9	6.3	6.3	5.8	5.9	6.2
⑦ 市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	5.9	6.0	5.9	6.0	5.6	5.8	5.9
⑧ 質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	6.5	6.3	6.4	6.3	5.9	6.4	6.2
⑨ 祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	6.9	7.0	6.7	6.9	6.4	6.8	7.4

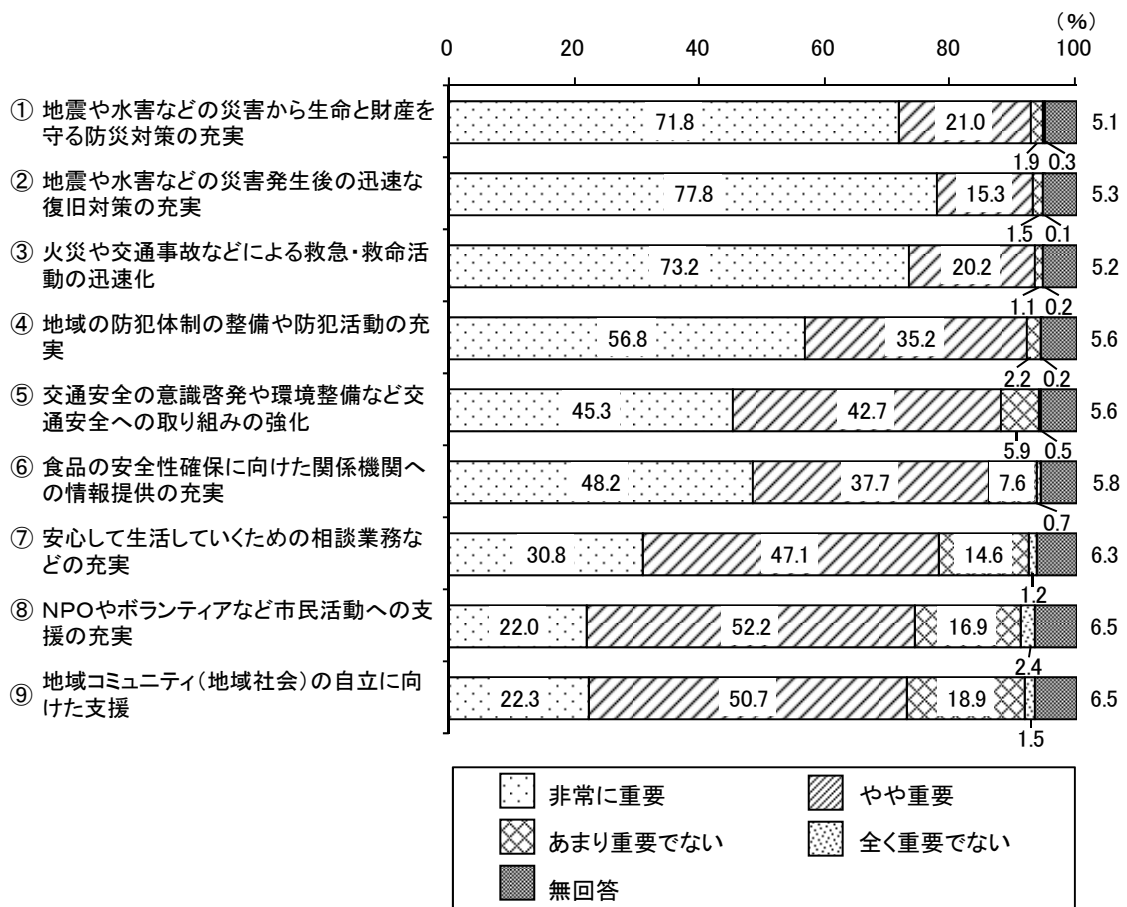
性別で見ると、男女とも8点以上の高い重要度であったのは「①生きる力を育てる学校教育の推進」となっている。いずれの項目の重要度も女性が男性を上回っており、「③心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上」では特に男女で差がみられる。

年代別で見ると、「①生きる力を育てる学校教育の推進」では30歳代以上でいずれも8点以上の高い重要度となっている。「④大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致」では、70歳以上で7.2点となっているのに対し、60歳代以下ではいずれも6.1点から6.5点となっており、この年代を境に差がみられる。

行政区別で見ると、いずれの行政区でも8点以上の高い重要度であったのは「①生きる力を育てる学校教育の推進」となっている。また、「⑨祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化」では天竜区が7.4点とほかの行政区に比べて高くなっている。

(3) 市民が安全・安心に暮らすための取り組み

N=1,513



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の6項目となっている。

- ③ 火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化 93.4%
- ② 地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実 93.1%
- ① 地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実 92.8%
- ④ 地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実 92.0%
- ⑤ 交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化 88.0%
- ⑥ 食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実 85.9%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

性別 **年代別** **行政区別**

◎ = 8点以上

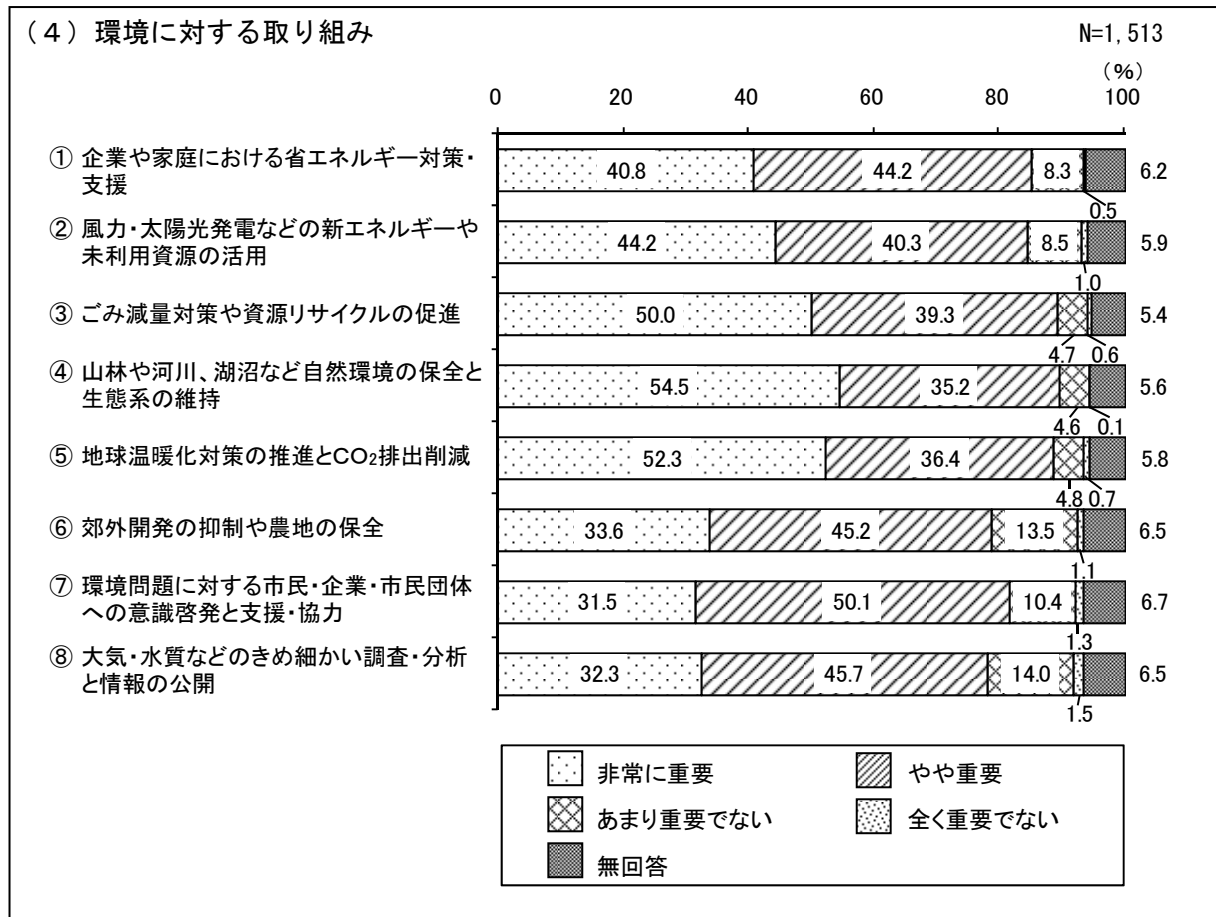
	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
① 地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	◎ 9.1	◎ 9.0	◎ 9.2	◎ 9.0	◎ 9.0	◎ 9.1	◎ 9.2	◎ 9.0	◎ 9.1
② 地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	◎ 9.3	◎ 9.2	◎ 9.5	◎ 9.3	◎ 9.2	◎ 9.2	◎ 9.5	◎ 9.4	◎ 9.3
③ 火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	◎ 9.2	◎ 8.9	◎ 9.4	◎ 9.2	◎ 9.1	◎ 9.0	◎ 9.2	◎ 9.2	◎ 9.3
④ 地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	◎ 8.6	◎ 8.3	◎ 8.7	◎ 8.4	◎ 8.6	◎ 8.4	◎ 8.6	◎ 8.5	◎ 8.9
⑤ 交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	◎ 8.0	7.8	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.0	7.7	7.9	7.9	◎ 8.5
⑥ 食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	◎ 8.0	7.7	◎ 8.4	◎ 8.0	7.7	7.6	◎ 8.0	◎ 8.3	◎ 8.6
⑦ 安心して生活していくための相談業務などの充実	7.1	6.7	7.5	6.9	7.1	6.8	7.0	7.2	7.7
⑧ NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	6.6	6.3	7.0	6.8	6.3	6.1	6.5	6.9	7.3
⑨ 地域コミュニティ(地域社会)の自立に向けた支援	6.6	6.3	6.9	6.8	6.5	6.3	6.4	6.9	7.1

	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	◎ 9.0	◎ 9.1	◎ 9.2	◎ 9.2	◎ 9.1	◎ 8.9	◎ 9.2
② 地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	◎ 9.3	◎ 9.5	◎ 9.2	◎ 9.4	◎ 9.3	◎ 9.3	◎ 9.4
③ 火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	◎ 9.0	◎ 9.3	◎ 9.2	◎ 9.2	◎ 9.1	◎ 9.3	◎ 9.4
④ 地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	◎ 8.5	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.5	◎ 8.6	◎ 8.4	◎ 8.6
⑤ 交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	7.9	◎ 8.3	7.8	◎ 8.0	7.9	7.9	◎ 8.2
⑥ 食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	◎ 8.0	◎ 8.3	◎ 8.1	7.9	7.9	◎ 8.0	◎ 8.2
⑦ 安心して生活していくための相談業務などの充実	7.0	7.3	7.1	7.0	7.0	7.2	7.3
⑧ NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	6.5	6.9	6.8	6.7	6.3	6.4	6.9
⑨ 地域コミュニティ(地域社会)の自立に向けた支援	6.5	6.8	6.6	6.3	6.5	6.6	7.4

性別でみると、男女とも9点以上の非常に高い重要度であったのは「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」および「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」となっている。また、いずれの項目の重要度も女性が男性を上回っており、特に「⑥食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実」、「⑦安心して生活していくための相談業務などの充実」および「⑧NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実」では男女の意識に差がみられる。

年代別でみると、いずれの年代でも9点以上の非常に高い重要度であったのは、「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」、「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」および「③火災や交通事故などによる救急・救命活動の充実」となっている。

行政区別でみると、いずれの行政区でも8点以上の高い重要度であったのは「①地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実」、「②地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実」、「③火災や交通事故などによる救急・救命活動の充実」および「④地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実」となっている。



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の6項目となっている。

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ④ 山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持 | 89.7% |
| ③ ごみ減量対策や資源リサイクルの促進 | 89.3% |
| ⑤ 地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減 | 88.7% |
| ① 企業や家庭における省エネルギー対策・支援 | 85.0% |
| ② 風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用 | 84.5% |
| ⑦ 環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力 | 81.6% |

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

	性別		年代別				行政区別			
	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
① 企業や家庭における省エネルギー対策・支援	7.8	7.5	7.9	7.6	7.8	7.6	7.7	7.8	◎ 8.1	
② 風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	7.8	7.8	7.9	7.9	7.8	7.6	7.8	◎ 8.0	◎ 8.0	
③ ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.4	◎ 8.1	◎ 8.0	7.9	◎ 8.3	◎ 8.3	◎ 8.4	
④ 山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.7	◎ 8.3	◎ 8.4	◎ 8.4	◎ 8.3	
⑤ 地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減	◎ 8.3	◎ 8.0	◎ 8.5	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.0	◎ 8.2	◎ 8.6	◎ 8.6	
⑥ 郊外開発の抑制や農地の保全	7.3	7.0	7.5	7.0	7.3	7.3	7.1	7.4	7.4	
⑦ 環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	7.3	7.0	7.5	6.9	7.2	7.2	7.2	7.4	7.8	
⑧ 大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	7.2	7.0	7.3	6.5	6.9	7.1	7.1	7.5	7.7	

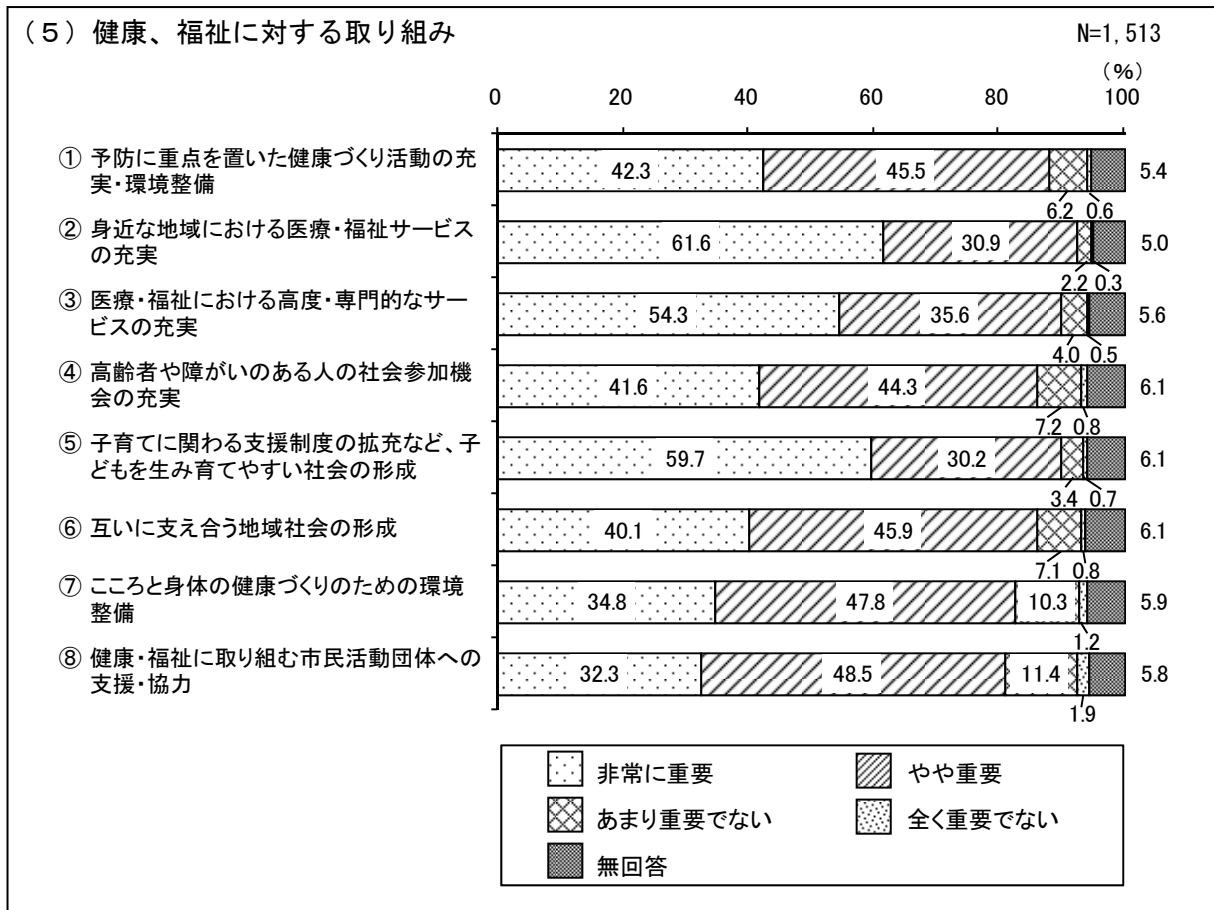
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 企業や家庭における省エネルギー対策・支援	7.6	◎ 8.0	7.7	7.9	7.5	7.8	7.7
② 風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	7.9	◎ 8.0	7.7	7.9	7.9	7.8	7.6
③ ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	◎ 8.1	◎ 8.3	◎ 8.1	◎ 8.5	◎ 8.1	◎ 8.0	◎ 8.2
④ 山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.2	◎ 8.3	◎ 8.3	7.9	◎ 8.7
⑤ 地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減	◎ 8.4	◎ 8.2	◎ 8.2	◎ 8.5	◎ 8.1	◎ 8.1	◎ 8.3
⑥ 郊外開発の抑制や農地の保全	7.5	7.2	7.1	7.1	7.3	7.1	7.5
⑦ 環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	7.3	7.4	7.2	7.3	7.2	7.1	7.4
⑧ 大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	7.4	7.3	7.1	7.3	7.1	6.8	7.2

◎ = 8点以上

性別でみると、男女とも8点以上の高い重要度であったのは「③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進」、「④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持」および「⑤地球温暖化対策の推進とCO₂排出削減」となっている。いずれの項目でも女性が男性を上回っており、男女の意識に差がみられる。

年代別でみると、いずれの年代でも8点以上の高い重要度であったのは「④山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持」および「⑤地球温暖化対策の推進とCO₂排出削減」となっている。「①企業や家庭における省エネルギー対策・支援」は70歳以上で8点以上となっているのに対し、ほかの年代では7点台とこの年代を境に差がみられる。

行政区別でみると、いずれの行政区でも8点以上の高い重要度であったのは「③ごみ減量対策や資源リサイクルの促進」および「⑤地球温暖化対策の推進とCO₂排出削減」となっている。「①企業や家庭における省エネルギー対策・支援」および「風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用」は東区で8点以上となっているのに対し、ほかの区では7点台となっている。



すべての項目で「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上となっている。

② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	92.5%
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	89.9%
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生き育てやすい社会の形成	89.9%
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	87.8%
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	86.0%
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	85.9%
⑦ こころと身体の健康づくりのための環境整備	82.6%
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	80.8%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

	性別		年代別				行政区別			
	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	7.9	7.8	◎ 8.0	7.7	7.8	7.5	7.7	◎ 8.0	◎ 8.5	
② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	◎ 8.7	◎ 8.5	◎ 8.9	◎ 8.5	◎ 8.5	◎ 8.5	◎ 8.8	◎ 8.8	◎ 9.0	
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	◎ 8.4	◎ 8.3	◎ 8.5	◎ 8.1	◎ 8.4	◎ 8.1	◎ 8.5	◎ 8.4	◎ 8.7	
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	7.8	7.6	◎ 8.0	◎ 8.0	◎ 8.1	7.6	7.7	7.7	7.7	
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを産み育てやすい社会の形成	◎ 8.6	◎ 8.4	◎ 8.8	◎ 9.1	◎ 8.8	◎ 8.2	◎ 8.4	◎ 8.8	◎ 8.6	
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	7.7	7.5	7.9	7.9	7.7	7.4	7.6	7.8	◎ 8.2	
⑦ ところと身体・健康づくりのための環境整備	7.4	7.2	7.6	7.5	7.2	7.1	7.2	7.4	◎ 8.1	
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	7.2	7.0	7.4	7.2	7.2	6.7	7.1	7.2	◎ 8.0	

	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	7.8	7.9	7.9	7.7	7.7	◎ 8.0	◎ 8.0
② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.6	◎ 8.7	◎ 9.3
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	◎ 8.3	◎ 8.4	◎ 8.4	◎ 8.4	◎ 8.2	◎ 8.4	◎ 8.8
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	7.7	7.9	7.8	7.7	7.8	◎ 8.0	7.9
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを産み育てやすい社会の形成	◎ 8.4	◎ 8.5	◎ 8.7	◎ 8.7	◎ 8.5	◎ 8.7	◎ 8.9
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	7.5	◎ 8.1	7.9	7.5	7.6	7.7	7.9
⑦ ところと身体・健康づくりのための環境整備	7.1	7.8	7.4	7.2	7.4	7.5	7.6
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	6.9	7.5	7.3	7.2	7.1	7.2	7.7

◎ = 8点以上

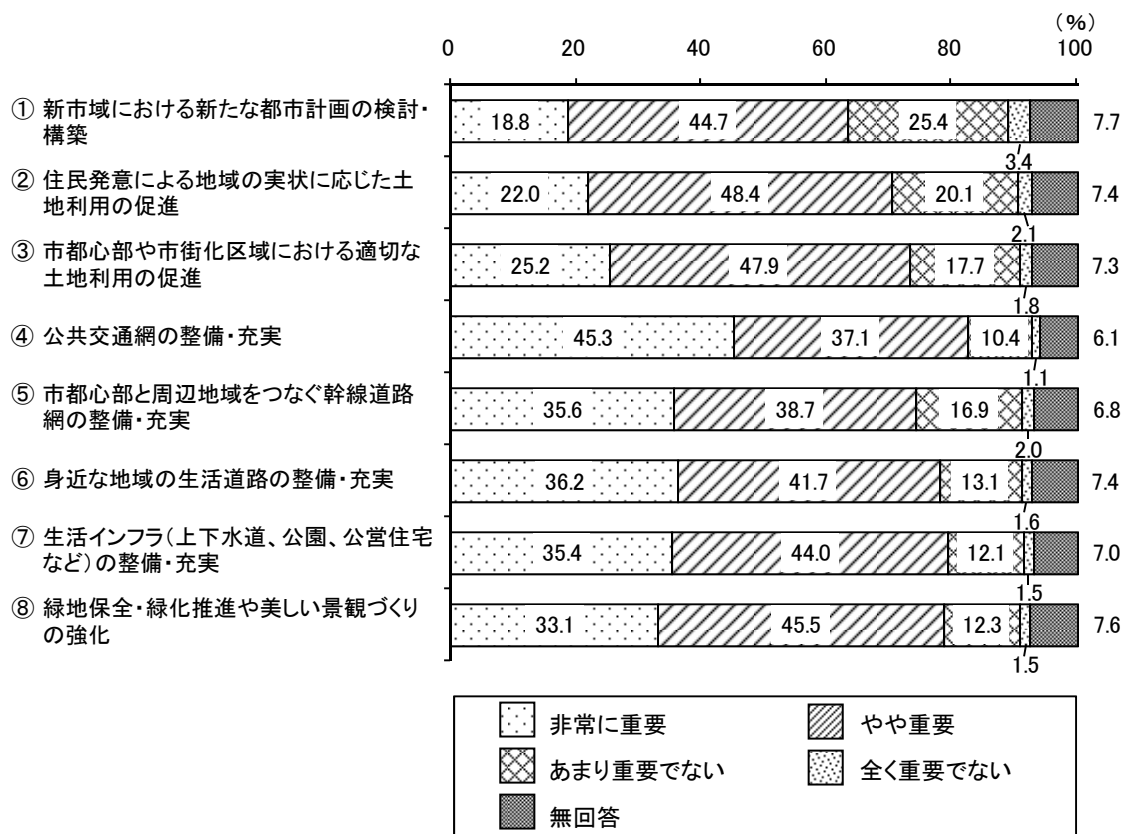
性別でみると、男女とも8点以上の高い重要度であったのは「②身近な地域における医療・福祉サービスの充実」、「③医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実」および「⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを産み育てやすい社会の形成」となっている。また、いずれの項目でも女性が男性を上回っている。

年代別でみると、「①予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備」は60歳代以上で8点以上となっているのに対し、50歳代以下では7点台と、この年代を境に差がみられる。「④高齢者や障がいがある人の社会参加機会の充実」は30歳代以下で8点以上であるのに対し、40歳代以上では7点台とこの年代を境に差がみられる。「⑥互いに支え合う地域社会の形成」、「⑦ところと身体・健康づくりのための環境整備」および「⑧健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力」では70歳以上でいずれも8点以上となっているのに対し、60歳代以下では7点台となっており、この年代を境に差がみられる。

行政区別でみると、いずれの年代でも8点以上の高い重要度であったのは「②身近な地域における医療・福祉サービスの充実」、「③医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実」および「⑤子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを産み育てやすい社会の形成」となっている。

(6) 都市・生活基盤の整備に対する取り組み

N=1,513



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の1項目となっている。

- ④ 公共交通網の整備・充実 82.4%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

	性 別	年 代 別	行政 区 別
			◎ = 8 点以上
	全体	男性 女性 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳以上	
① 新市域における新たな都市計画の検討・構築	6.1	6.1 6.2 5.5 5.8 6.1 6.2 6.3 6.8	
② 住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	6.5	6.5 6.6 6.4 6.2 6.3 6.5 6.6 7.2	
③ 市都心部や市街化区域における適切な土地利用の促進	6.8	6.7 6.9 6.7 6.6 6.5 6.8 6.7 7.3	
④ 公共交通網の整備・充実	7.8	7.7 7.9 ◎ 8.1 7.8 7.8 7.7 7.6 ◎ 8.0	
⑤ 市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	7.2	7.2 7.1 7.2 7.0 7.2 7.1 6.9 7.7	
⑥ 身近な地域の生活道路の整備・充実	7.4	7.3 7.4 7.3 7.2 7.3 7.1 7.4 7.8	
⑦ 生活インフラ(上下水道、公園、公営住宅など)の整備・充実	7.4	7.3 7.4 7.3 7.4 7.1 7.2 7.4 7.7	
⑧ 緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	7.3	7.2 7.4 7.1 7.7 7.1 6.8 7.3 7.7	
	中区	東区 西区 南区 北区 浜北区 天竜区	
① 新市域における新たな都市計画の検討・構築	6.0	6.3 6.0 6.1 6.1 6.1 6.6	
② 住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	6.4	6.5 6.7 6.5 6.4 6.3 7.0	
③ 市都心部や市街化区域における適切な土地利用の促進	6.7	6.8 7.0 6.8 6.7 6.5 6.8	
④ 公共交通網の整備・充実	7.7	7.8 7.8 7.5 7.9 7.9 ◎ 8.2	
⑤ 市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	6.9	7.1 7.0 7.0 7.3 7.1 ◎ 8.0	
⑥ 身近な地域の生活道路の整備・充実	7.1	7.1 7.2 7.2 7.5 7.5 ◎ 8.2	
⑦ 生活インフラ(上下水道、公園、公営住宅など)の整備・充実	7.2	7.4 7.5 7.2 7.3 7.6 7.3	
⑧ 緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	7.4	7.4 7.5 7.3 7.1 7.1 7.1	

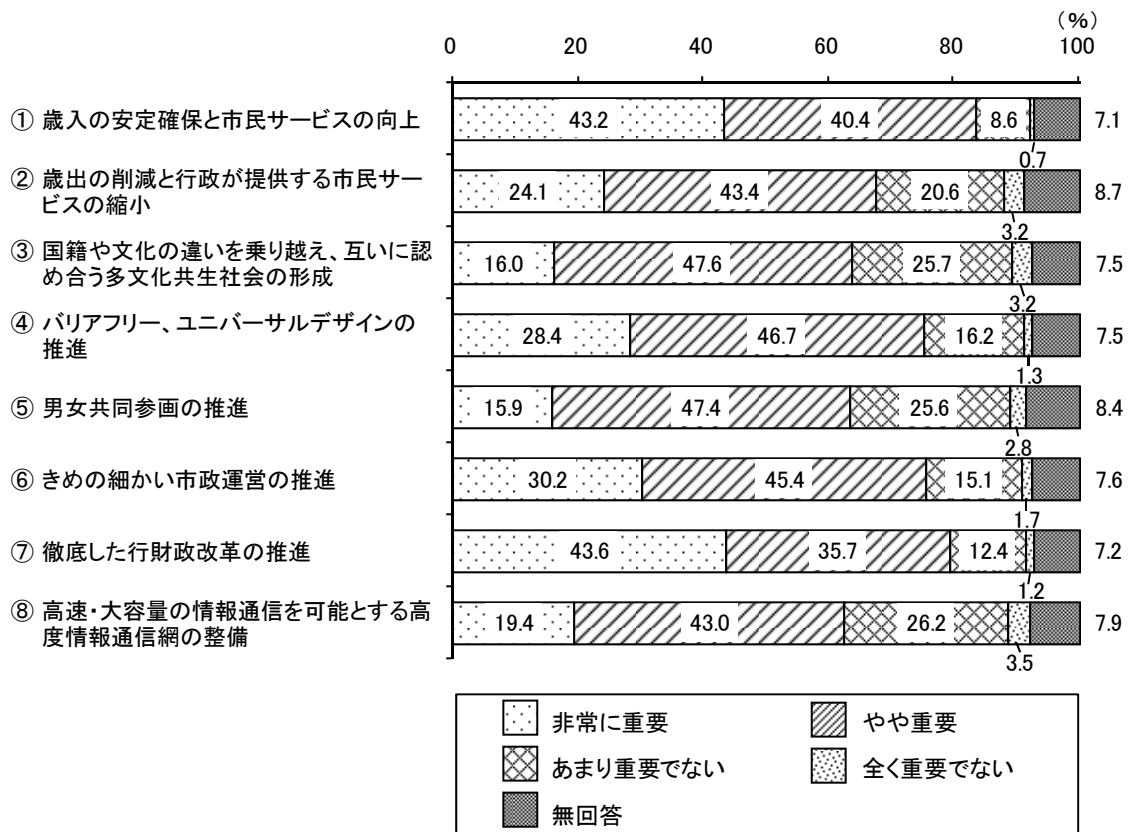
性別でみると、男女とも最も重要度が高いのは「④公共交通網の整備・充実」となっている。

年代別でみると、いずれの年代でも最も重要度が高いのは「④公共交通網の整備・充実」となっている。

行政区別でみると、いずれの行政区でも重要度が高いのは「④公共交通網の整備・充実」となっている。「④公共交通網の整備・充実」、「⑤市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実」および「身近な地域の生活道路の整備・充実」は、天竜区でいずれも8点台となっており、ほかの区と比較して重要度が高くなっている。

(7) 都市経営に対する取り組み

N=1,513



「非常に重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の回答が8割以上だったのは、以下の1項目となっている。

- ① 歳入の安定確保と市民サービスの向上 83.6%

また、下表は「非常に重要」を10点、「やや重要」を6.6点、「あまり重要でない」を3.3点、「全く重要でない」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は10点に近いほど重要度が高くなる指数である。

	性別		年代別					行政区別				
	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上			
① 歳入の安定確保と市民サービスの向上	7.8	7.8	7.8	7.3	7.7	7.6	7.9	7.9	◎ 8.5			
② 歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	6.5	6.4	6.6	6.2	6.1	5.9	6.7	6.9	7.1			
③ 国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	6.0	5.8	6.2	6.2	6.0	5.7	5.9	6.0	6.6			
④ バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	7.0	6.7	7.2	7.5	7.2	6.7	6.9	6.8	6.9			
⑤ 男女共同参画の推進	6.1	5.8	6.3	6.2	5.9	6.0	5.8	6.1	6.5			
⑥ きめの細かい市政運営の推進	7.1	7.0	7.1	6.4	6.6	6.6	7.0	7.3	7.9			
⑦ 徹底した行財政改革の推進	7.7	7.8	7.6	7.1	7.1	7.0	7.9	◎ 8.2	◎ 8.3			
⑧ 高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	6.1	6.2	6.1	6.4	5.9	5.8	6.0	6.2	6.6			

	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
① 歳入の安定確保と市民サービスの向上	7.9	7.7	◎ 8.0	7.7	7.8	7.8	◎ 8.0
② 歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	6.7	6.3	6.8	6.6	6.2	6.3	6.3
③ 国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	6.0	6.1	6.3	6.1	6.0	6.0	5.9
④ バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	7.0	7.2	7.1	6.9	7.0	6.8	6.9
⑤ 男女共同参画の推進	6.0	6.0	6.3	5.9	6.0	5.9	6.2
⑥ きめの細かい市政運営の推進	6.9	7.0	7.1	7.2	6.8	6.9	7.5
⑦ 徹底した行財政改革の推進	7.7	7.6	7.7	7.9	7.5	7.6	7.7
⑧ 高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	6.3	6.0	6.2	6.3	5.8	6.0	6.2

◎ = 8点以上

性別でみると、男女とも重要度が高いのは「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」および「⑦徹底した行財政改革の推進」となっている。

年代別でみると、「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」が70歳以上で高く、「⑦徹底した行財政改革の推進」が50歳代以上で高くなっている。

行政区別でみると、いずれの行政区でも「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」および「⑦徹底した行財政改革の推進」の重要度が高くなっている。「①歳入の安定確保と市民サービスの向上」の重要度は西区および天竜区で特に高くなっている。

付録 調査票

— あなたの声を市政に生かす —

平成21年度 市民アンケート調査 (第36回)

日ごろ、市政の推進につきましては、深いご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。
浜松市では、市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実を図り、市民の皆さまの暮らしが豊かになるように努めていきたいと考えています。

そこで今後のまちづくりの基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施させていただきます。この調査を実施するにあたり、市内在住の満20歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただきご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式ホームページなどで報告させていただきます予定です。

平成21年6月 浜松市長 鈴木 康 友

<ご回答についてのお願い>

1. 封書のあて名の人が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することはなく、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. 6月30日(火)までにこの用紙を同封の封筒に入れて、切手をはらずにご投函ください。
5. ご不明な点は、広聴広報課 市民の声グループ ☎(053)457-2023 へお問い合わせください。

あなたはご存知ですか？

問1 次の項目について、あなたはご存知ですか。
1～3のうちから1つ選んで○を付けてください。

	名称も内容も 知っている	名称だけは 知っている	知らない
① NPO ※民間の非営利組織で、自発的に公益的な活動を継続して行っている団体のこと。	1	2	3
② 市民協働 ※市民、市民活動団体、事業者および市が、互いの相違を認識し、それぞれの特性を生かしながら、市民が望むまちづくりを目指して、さまざまな観点や形態で協力して取り組むこと。	1	2	3
③ 『 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例 』 (通称：市民マナー条例) ※歩きタバコ・ごみのポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例。	1	2	3
④ 『 浜松市川や湖を守る条例 』 ※市内にある天竜川や浜名湖など、美しく豊かな川や湖を次世代に継承するために、市民や事業者が守るべきこと、しなければならないことを定めた条例。	1	2	3
⑤ 『 浜松市音・かおり・光環境創造条例 』 ※人に潤いや安らぎを与えてくれる音・かおり・光資源を保全するとともに、自らも人に不快感や嫌悪感を与える騒音、悪臭および光害の防止に取り組み、快適な生活環境創造のための条例。	1	2	3

	利用したこ とがある	知っているが 利用したこ とはない	知らない
⑥ スポーツ・文化施設予約システム「まつぼっくり」 ※インターネットで公共施設の予約や空き状況の照会ができるシステム。	1	2	3

ユニバーサルデザインについて

問7 市では、ユニバーサルデザインの考え方を市政に取り入れています。ユニバーサルデザインとは、身体能力、年齢、国籍、性別などに関係なく、誰もが安全で安心な暮らしができるように環境づくりやまちづくりなどを行っていかうとする考え方です。あなたは、ご存知でしたか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 詳しく知っている | 2. 知っている |
| 3. 言葉だけは聞いたことがある | 4. まったく知らない |

問8 あなたのお住まいの地域は、歩道整備や交通機関など移動の面や、防災・防犯などの面から安全・安心に暮らすことのできる地域と感じますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|--------|------------|---------|----------|
| 1. 感じる | 2. 部分的に感じる | 3. 感じない | 4. 分からない |
|--------|------------|---------|----------|

問9 あなたは、ユニバーサルデザインのまちづくりのために、どのようなことから取り組むべきだと思いますか。

(あてはまるもの3つまで○を付けてください)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 思いやりの心を育てる教育の充実 | 2. わかりやすい市政情報の提供 |
| 3. 市民へのPR | 4. 市職員の意識啓発 |
| 5. 誰もが参加できるイベントなどの開催 | 6. 安全で快適な歩道や自転車道の整備 |
| 7. 利用しやすい公共交通機関の普及 | 8. 地下道より楽な横断歩道の整備 |
| 9. わかりやすい案内表示の整備 | 10. 使いやすい建物や施設の整備 |
| 11. その他(具体的に:) | |

区協議会・地域協議会について

問10 市では、市民の声を市政に反映させるための仕組みとして、平成17年7月の合併時に旧市町村単位に地域住民の代表で組織する「地域協議会」を設置しました。また、平成19年4月の政令指定都市移行に伴い、全ての区に地域協議会と同様の機能を持つ「区協議会」を設置しました。あなたは、区協議会・地域協議会のことをご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------|-------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 聞いたことがある | 3. 知らない |
|----------|-------------|---------|

問11 問10で「1. 知っている」「2. 聞いたことがある」とお答えの方に伺います。あなたは、区協議会・地域協議会がどのような活動をしているかご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|------------|------------|---------|
| 1. よく知っている | 2. 少し知っている | 3. 知らない |
|------------|------------|---------|

※「地域協議会・区協議会」とは、地方自治法の規程に基づき、地域の住民の意見を行政に反映させるとともに、住民と行政の協働、連携の強化を図り、住民自治の強化、充実のため設置された新しい地域自治の仕組みです。

家庭の情報化について

問 12 あなたのご家庭では、次のような情報通信機器を持っていますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. パソコン | 2. ファクシミリ |
| 3. カーナビゲーション | 4. 携帯電話 |
| 5. PHS | 6. その他 (具体的に:) |

問 13 あなたやあなたのご家族は、パソコンや携帯電話などで過去1年間にインターネットを利用したことがありますか (メール送受信を含む)。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|------------------------------|
| 1. 少なくとも1人はインターネットを利用したことがある |
| 2. だれもインターネットを利用したことがない |

問 14 問13で「1. 少なくとも1人はインターネットを利用したことがある」とお答えの方に伺います。あなたやあなたのご家族は、どのくらいの頻度でインターネットを利用していますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|---------|-------------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に3～4回程度 | 3. 週に1回以下 |
|---------|-------------|-----------|

問 15 あなたは、テレビのアナログ放送が2011年に停止されることをご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っている | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問 16 あなたのご家庭では、地上デジタル放送を視聴されていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 視聴している | 2. 視聴していない |
|-----------|------------|

健康はままつ21について

問 17 市では、すべての市民が健康で明るく元気に生活できることを目指し、健康づくりの指針となる「健康はままつ21」を策定しましたが、あなたは、ご存知ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|-------------|---------------------|---------|
| 1. 内容を知っている | 2. 聞いたことがあるが内容は知らない | 3. 知らない |
|-------------|---------------------|---------|

問 18 あなたは、現在ご自身の健康状態をどのように感じていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|----------|--------------|--------------|-----------|
| 1. 健康である | 2. まあまあ健康である | 3. あまり健康ではない | 4. 健康ではない |
|----------|--------------|--------------|-----------|

地球温暖化防止について

問 19 あなたは、地球温暖化問題についてどの程度関心をお持ちですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. おおいに関心がある | 2. ある程度関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. 全く関心がない |

問 20 あなたは日常生活において、省エネルギーなど地球温暖化防止の取り組みを行っていますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 積極的に取り組んでいる | 2. ある程度取り組んでいる |
| 3. あまり取り組んでいない | 4. 全く取り組んでいない |
| 5. わからない | |

問 21 問 20 で「1. 積極的に取り組んでいる」「2. ある程度取り組んでいる」とお答えの方に伺います。あなたは地球温暖化防止のために、どのような取り組みを行っていますか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | |
|---|
| 1. エアコンは温度設定 (目安: 夏 28℃、冬 20℃) を守っている |
| 2. テレビはつけっぱなしにしない |
| 3. 冷蔵庫の庫内は、季節に合わせて温度調節をしたり、ものを詰め込みすぎないようにしている |
| 4. お風呂は間隔を置かずに入るようにして、追い炊きをしないようにしている |
| 5. 車を運転するときは、エコドライブ (急発進、急加速をしないなど) を心がけている |
| 6. 外出時は出来るだけ車に頼らず、電車、バスなどの公共交通機関を利用するようにしている |
| 7. 電気製品は、使わないときはコンセントからプラグを抜き、待機消費電力を少なくしている |
| 8. 照明は、省エネルギー型の蛍光灯や、電球型蛍光灯を使用するようにしている |
| 9. テレビ、エアコン、冷蔵庫、車について、一つでも省エネルギー型の製品に買い換えた |
| 10. 太陽光発電システムを導入している |
| 11. その他 (具体的に: _____) |

問 22 問 20 で「3. あまり取り組んでいない」「4. 全く取り組んでいない」とお答えの方に伺います。あなたが、省エネルギーなど地球温暖化防止の取り組みを、行わない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 日常生活の中で取り組んでも効果がないと思うから |
| 2. 具体的にどのようなことに取り組めばよいかわからないから |
| 3. 省エネルギーに取り組む意識を持ち続けることが難しいから |
| 4. 省エネルギー型の製品を買おうとすると、他の製品に比べて金額が高いから |
| 5. その他 (具体的に: _____) |

子育て支援について

急速な少子高齢化により、社会全体としての活力低下や社会保障制度の維持などの課題が指摘されています。こうしたなか、少子化の流れを変えようと、市では次世代を担う子どもの成長や子育てを支援する環境づくりを目指し、浜松市に暮らすすべての市民を対象とした施策（＝浜松市次世代育成支援行動計画）をまとめ、平成17年4月から施行しており、合併後は12市町村の計画を統合し、1つの計画としています。

問23 あなたは、「浜松市次世代育成支援行動計画」をご存知でしたか。（1つだけ○を付けてください）

1. 名称も内容も知っている 2. 名称だけは知っている 3. 知らない

問24 問23で「1. 名称も内容も知っている」「2. 名称だけは知っている」とお答えの方に伺います。あなたは、何で知りましたか。（あてはまるものすべてに○を付けてください）

1. 広報はままつなどの広報紙 2. 浜松市公式ホームページ 3. 浜松市メールマガジン
4. 新聞 5. テレビ 6. 公民館
7. パンフレット・リーフレット 8. 人から聞いて知った
9. その他（具体的に： ）

問25 あなたは、「子育て」に対して、現在、どのような関わり方をしていますか。

（1つだけ○を付けてください）

1. 子育て中である
2. 孫の面倒を見ることがある
3. 甥、姪の面倒を見ることがある
4. 近所の子どもの面倒を見ることがある
5. 子育てサークルに参加している
6. 子育てに関するボランティアに参加している
7. その他（具体的に： ）
8. 特に関わっていない

問26 市では、子育て広場やファミリーサポートセンターなど子育てに関するさまざまな支援*を行なっています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。

（1つだけ○を付けてください）

1. 思う 2. 思わない 3. どちらともいえない 4. わからない

*そのほかの子育て支援としては、なかよし館、育児サークル支援、放課後児童会などの事業を行っています。

問27 問26で「1. 思う」とお答えの方に伺います。

あなたは、子育ては楽しいことだと感じますか。（1つだけ○を付けてください）

1. 感じる 2. 感じない 3. どちらともいえない 4. わからない

問28 問27で「1. 感じる」とお答えの方に伺います。

あなたのまわりでは、子どもの笑顔が輝いていると思いますか。（1つだけ○を付けてください）

1. 思う 2. 思わない 3. どちらともいえない 4. わからない

市政の満足度評価について

問 29 あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取り組みについて日ごろどのように感じていますか。以下の各項目についてその評価を1～5のうちからそれぞれ1つだけ選び○を付けてください。

項 目		評 価				
		満 足	やや 満足	どちら も満足 しない	やや 不満	不 満
1	住んでいる地域の住みやすさ	1	2	3	4	5
2	文化にふれ、活動できる環境	1	2	3	4	5
3	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の取り組み	1	2	3	4	5
4	スポーツに親しみやすい環境	1	2	3	4	5
5	国際・国内スポーツ大会の観戦機会	1	2	3	4	5
6	子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	1	2	3	4	5
7	子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	1	2	3	4	5
8	公民館、図書館などの生涯学習環境	1	2	3	4	5
9	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	1	2	3	4	5
10	人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	1	2	3	4	5
11	魅力ある雇用機会の確保	1	2	3	4	5
12	中心市街地の魅力とにぎわい	1	2	3	4	5
13	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	1	2	3	4	5
14	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	1	2	3	4	5
15	施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	1	2	3	4	5
16	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性	1	2	3	4	5
17	快適に移動しやすい道路網の整備	1	2	3	4	5
18	休日、夜間などの救急医療体制	1	2	3	4	5
19	身近な地域における適切な医療サービスの提供	1	2	3	4	5
20	予防接種や健康相談など市民の健康づくり	1	2	3	4	5
21	高齢者にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5
22	障害のある人にとっての暮らしやすさ	1	2	3	4	5
23	子育てがしやすく楽しい環境	1	2	3	4	5
24	ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	1	2	3	4	5
25	湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した取り組み	1	2	3	4	5
26	環境教育、環境学習などの取り組み	1	2	3	4	5
27	地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	1	2	3	4	5
28	緑化や公園の整備など緑豊かなまちづくり	1	2	3	4	5
29	生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	1	2	3	4	5
30	地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	1	2	3	4	5
31	水害の防止に向けた河川・排水路などの整備	1	2	3	4	5
32	ユニバーサルデザインによるまちづくり	1	2	3	4	5
33	浜松の魅力（技術や文化、自然環境など）の国内外への発信	1	2	3	4	5
34	世界の人々との活発な市民交流	1	2	3	4	5
35	市民協働による地域づくり	1	2	3	4	5
36	交差点の改良など交通安全対策	1	2	3	4	5
37	情報公開など行政の透明性の確保	1	2	3	4	5
38	分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	1	2	3	4	5
39	市政を総合的に見た満足度	1	2	3	4	5

市政への要望について

問 30 あなたは、浜松市が積極的・重点的に取り組んでいくべき具体的な施策として、以下の各項目についてどの程度重要だと思いますか。各項目について重要度を1～4のうちからそれぞれ1つだけ選んで○を付けてください。

浜松市が取り組むべき施策	重 要 度			
	非 常 に 重 要	や や 重 要	あ ま り 重 要 で な い	全 く 重 要 で な い
1. 産業・経済分野に対する取り組み				
① 地場産品など地域特性を活かした農林水産業の振興	1	2	3	4
② 中小企業の経営基盤の強化に向けた支援の充実	1	2	3	4
③ 企業や工場、商業施設の誘致による雇用創出	1	2	3	4
④ 浜松市にふさわしいオフィス機能の集積や商業施設の充実	1	2	3	4
⑤ 国際会議の招致や大規模・集客イベントの開催など都心のにぎわい創出	1	2	3	4
⑥ 新産業の創出や起業しやすい環境の整備	1	2	3	4
⑦ 高齢者や障がいのある人などだれもが働きやすい環境づくり	1	2	3	4
⑧ 特色ある地域資源や地場産業を活かした観光の充実	1	2	3	4
2. 教育、文化、スポーツに対する取り組み				
① 生きる力を育てる学校教育の推進	1	2	3	4
② 生涯を通じた学習機会の提供	1	2	3	4
③ 心豊かな人づくりに向けた家庭教育の推進と地域の教育力の向上	1	2	3	4
④ 大学など高等教育の充実や高度な研究機関の設置・誘致	1	2	3	4
⑤ 外国語教育、外国の文化に関する教育の充実	1	2	3	4
⑥ 芸術家やスポーツ選手など世界にはばたく人材の育成	1	2	3	4
⑦ 市民が参加できるスポーツ大会や音楽イベントなどの開催	1	2	3	4
⑧ 質の高い芸術・文化・スポーツなどに親しむ機会の充実	1	2	3	4
⑨ 祭事や伝統行事など地域文化の伝承・活性化	1	2	3	4

浜松市が取り組むべき施策	重 要 度			
	非 常 に 重 要	や や 重 要	あ ま り 重 要 で な い	全 く 重 要 で な い
3. 市民が安全・安心に暮らすための取り組み				
① 地震や水害などの災害から生命と財産を守る防災対策の充実	1	2	3	4
② 地震や水害などの災害発生後の迅速な復旧対策の充実	1	2	3	4
③ 火災や交通事故などによる救急・救命活動の迅速化	1	2	3	4
④ 地域の防犯体制の整備や防犯活動の充実	1	2	3	4
⑤ 交通安全の意識啓発や環境整備など交通安全への取り組みの強化	1	2	3	4
⑥ 食品の安全性確保に向けた関係機関への情報提供の充実	1	2	3	4
⑦ 安心して生活していくための相談業務などの充実	1	2	3	4
⑧ NPOやボランティアなど市民活動への支援の充実	1	2	3	4
⑨ 地域コミュニティ（地域社会）の自立に向けた支援	1	2	3	4
4. 環境に対する取り組み				
① 企業や家庭における省エネルギー対策・支援	1	2	3	4
② 風力・太陽光発電などの新エネルギーや未利用資源の活用	1	2	3	4
③ ごみ減量対策や資源リサイクルの促進	1	2	3	4
④ 山林や河川、湖沼など自然環境の保全と生態系の維持	1	2	3	4
⑤ 地球温暖化対策の推進とCO ₂ 排出削減	1	2	3	4
⑥ 郊外開発の抑制や農地の保全	1	2	3	4
⑦ 環境問題に対する市民・企業・市民団体への意識啓発と支援・協力	1	2	3	4
⑧ 大気・水質などのきめ細かい調査・分析と情報の公開	1	2	3	4

浜松市が取り組むべき施策	重要度			
	非常に重要	やや重要	あまり重要でない	全く重要でない
5. 健康、福祉に対する取り組み				
① 予防に重点を置いた健康づくり活動の充実・環境整備	1	2	3	4
② 身近な地域における医療・福祉サービスの充実	1	2	3	4
③ 医療・福祉における高度・専門的なサービスの充実	1	2	3	4
④ 高齢者や障がいのある人の社会参加機会の充実	1	2	3	4
⑤ 子育てに関わる支援制度の拡充など、子どもを生み育てやすい社会の形成	1	2	3	4
⑥ 互いに支え合う地域社会の形成	1	2	3	4
⑦ こころと身体の健康づくりのための環境整備	1	2	3	4
⑧ 健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	1	2	3	4
6. 都市・生活基盤の整備に対する取り組み				
① 新市域における新たな都市計画の検討・構築	1	2	3	4
② 住民発意による地域の実状に応じた土地利用の促進	1	2	3	4
③ 市都心部や市街化区域における適切な土地利用の促進	1	2	3	4
④ 公共交通網の整備・充実	1	2	3	4
⑤ 市都心部と周辺地域をつなぐ幹線道路網の整備・充実	1	2	3	4
⑥ 身近な地域の生活道路の整備・充実	1	2	3	4
⑦ 生活インフラ（上下水道、公園、公営住宅など）の整備・充実	1	2	3	4
⑧ 緑地保全・緑化推進や美しい景観づくりの強化	1	2	3	4
7. 都市経営に対する取り組み				
① 歳入の安定確保と市民サービスの向上	1	2	3	4
② 歳出の削減と行政が提供する市民サービスの縮小	1	2	3	4
③ 国籍や文化の違いを乗り越え、互いに認め合う多文化共生社会の形成	1	2	3	4
④ バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	1	2	3	4
⑤ 男女共同参画の推進	1	2	3	4
⑥ きめの細かい市政運営の推進	1	2	3	4
⑦ 徹底した行財政改革の推進	1	2	3	4
⑧ 高速・大容量の情報通信を可能とする高度情報通信網の整備	1	2	3	4

最後にあなたのことについて記入してください

(項目別に1つだけ○をつけてください)

性別	1. 男	2. 女															
年齢	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上											
職業	1. 農林水産業（自営・家族従事者） 2. 商工・サービス・自由業（自営・家族従事者） 3. 勤め人						4. 専業主婦（主夫） 5. 学生	6. 無職	7. その他（ ）								
居住年数	あなたは浜松市（合併前の旧市町村当時からも含みます）に住んで何年になりますか																
	1. 3年未満	2. 3年以上5年未満	3. 5年以上10年未満	4. 10年以上20年未満	5. 20年以上												
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか																
	1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上											
居住形態	あなたのお住まいは																
	1. 持ち家	2. 借家	3. 賃貸アパート・マンション	4. 公営住宅	5. 社宅・寮	6. その他											
地区	あなたがお住まいの地区は																
	1. 中区	2. 東区	3. 西区（旧浜松市）	4. 西区舞阪町	5. 西区雄踏町	6. 南区	7. 北区（旧浜松市）	8. 北区細江町	9. 北区引佐町	10. 北区三ヶ日町	11. 浜北区	12. 天竜区（旧天竜市）	13. 天竜区春野町	14. 天竜区佐久間町	15. 天竜区水窪町	16. 天竜区龍山町	地区が分からない場合は、町名をご記入ください → （ ）

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、6月30日（火）までにご投函ください。

平成 2 1 年度 市民アンケート調査報告書

平成 2 1 年 1 1 月発行

浜松市総務部広聴広報課

〒430-8652 浜松市中区元城町 1 0 3 - 2

電 話 (053) 457-2023 F A X (053) 457-2028

e-mail koho2@city.hamamatsu.shizuoka.jp

URL <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>
